

78  
95



始



農學博士古在由直序  
マスタ、オズ、アツ、桑名伊之吉著

# 日本介殼蟲圖說

後編



東京 嵩山堂





## 序

本邦の害蟲類中介殼蟲の如きは、農林業に多大の損害を及ぼすものなり。本書は西ヶ原叢書の第十卷にして、多年害蟲殊に介殼蟲の研究に従事せられたる「マストル、オブ、アーツ」桑名伊之吉氏の著作に係り、所説適切、附圖精巧なれば、介殼蟲の豫防驅除上、裨益尠からざるべし、一言以て卷首に誌す。

大正五年十二月

農學博士 古在由直識

## 凡例

一 本編ニハ本邦産介殼蟲中れかにい亞科外數亞科ニ屬スルモノ六十五種ヲ記載セリ前編てあすび亞科ノモノ五十種ト共ニ百十五種トナル右ハ本邦産介殼蟲各屬ニ涉リ重要ナル種類ヲ網羅スト雖モ全體ヨリ觀レハ稍未完ノ憾ナキニアラス他日ヲ期シテ之ヲ添補セントス讀者幸ニ待タレヨ

一 本編記載ノ亞科及ヒ屬名ハ凡テ舊名ヲ襲用シテ未タ不馴ナル新稱ヲ用ヒス其理由ハ前編總說ニ云フカ如シ

一 本編ニ出テタル著者名ノ略字解左ノ如シ

And. ....	Anderson	John. ....	Johnson
Ashm. ....	Ashmead	Kuw. ....	Kuwana
Bois. ....	Boisduval	L. ....	Linnaeus
Bern. ....	Bernard	Mask. ....	Maskell
Chav. ....	Chavannes	Newm. ....	Newman
Chll. ....	Cockerell	Pack. ....	Packard
Const. ....	Camstock	Sign. ....	Signoret
Cog. ....	Cognillelt	Targ. ....	Targioni Tozzetti
Curl. ....	Curlis	West. ....	Westwood

- 一 本編圖版中ノ着色圖ハ著者ノ指揮ノ下ニ角井厚吉君ノ實物ニ就キ臨寫セル所解剖圖ハ故増井義造君カ著者ノ原圖ヨリ淨寫セル所ト爲ス特ニ記シテ其ノ勞ヲ多謝ス
- 一 編纂ノ際狩谷學士及ヒ西一君ヲ煩シタル所頗ル多シ亦特ニ謝意ヲ表ス
- 一 本編上梓ニ關シ青木嵩山堂橋高英次郎秀英舍佐久間衛治ノ兩君ノ特殊ナル助力ニ籍ルモノ多シ是亦深ク感激スル所ナリ

大正四年十一月登極賜饌之日

著 者 誠

# 日本介殼蟲圖說

後編

目次

日本介殼蟲	一	つばきのわたかひがらむし (P. Gummolechis)	四五
れかにS亞科 (Subfamily Lecaninae)	一	やなせのわたかひがらむし (P. opamae)	四七
れかにうむ屬 (Genus Iacanium)	一	おきつわたかひがらむし (P. okitsunensis)	四九
一 やまたかかたかひがらむし (I. hemisphaerium)	三	ながわたかひがらむし (P. hazene)	五一
二 をりぶのかたかひがらむし (I. oleae)	六	たかはしあ屬 (Genus Takahashii)	五三
三 たまたかかひがらむし (I. knoerzsis)	九	四 みかんのひもわたかひがらむし (T. ethicola)	五三
四 にしがはらかたかひがらむし (I. nishigaharae)	九	五 ひもわたかひがらむし (T. japonica)	五三
五 ひらたかかひがらむし (I. hesperidum)	三	りくてんしあ屬 (Genus Lichtensteinia)	五五
六 ながかたかひがらむし (I. frontae)	三	二六 つばきのわたかひがらむし (L. japonica)	五八
七 ふかやかたかひがらむし (I. fukuyai)	六	ありせるす屬 (Genus Ericerus)	六一
八 おほかたかひがらむし (I. glaudii)	八	二七 いぼたかひがらむし (E. peha)	六一
九 たかちほかたかひがらむし (I. takachihoi)	九	せろぶらすてす屬 (Genus Ceroplastes)	六五
一〇 かんきつかたかひがらむし (I. pseudomagnolarum)	一	二八 るびらふむし (C. rubens)	六五
一一 もくれんのかたかひがらむし (I. magnolarum)	二	二九 かめのかふらむし (C. hortensis)	六七
一二 きこふかたかひがらむし (I. tassalatum)	七	三〇 のらむし (C. ceriferus)	七〇
ぶるぶるなりあ屬 (Genus Pulvinaria)	九	あくれるだ屬 (Genus Aclerda)	七三
一三 みかんのわたかひがらむし (P. amanuhi)	三〇	三二 たけのかたかひがらむし (A. tokionis)	七四
一四 さかきのわたかひがらむし (P. psittii)	三三	三三 ひはこたかひがらむし (A. hiwakoensis)	七六
一五 みかんのひめわたかひがらむし (P. atricola)	三五	こくし亞科 (Subfamily Coecinae)	七八
一六 うしろのわたかひがらむし (P. photinae)	三七	れかにをびあすびす屬 (Genus Lecanodiaspis)	七八
一七 いいせりのわたかひがらむし (P. idesiae)	三八	三三 かしのみかひがらむし (L. quereus)	七九
一八 もみぢのわたかひがらむし (P. horii)	四〇	あすてろれかにうむ屬 (Genus Asterolecanium)	七九
一九 くはのわたかひがらむし (P. kawacola)	四三		

八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九九 九九 一〇〇 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五

たけのこ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八四  
 せみこへつ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 三十七 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 三十八 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 三十九 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十一 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十二 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十三 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十四 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十五 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十六 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十七 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十八 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 四十九 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六  
 五十 せきじあ属 (Genus Cerrococcus) ..... 八六

一一六 一一七 一一八 一一九 一二〇 一二一 一二二 一二三 一二四 一二五 一二六 一二七 一二八 一二九 一三〇 一三一 一三二 一三三 一三四 一三五 一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇 二〇一 二〇二 二〇三 二〇四 二〇五 二〇六 二〇七 二〇八 二〇九 二一〇 二一一 二一二 二一三 二一四 二一五 二一六 二一七 二一八 二一九 二二〇 二二一 二二二 二二三 二二四 二二五 二二六 二二七 二二八 二二九 二三〇 二三一 二三二 二三三 二三四 二三五 二三六 二三七 二三八 二三九 二四〇 二四一 二四二 二四三 二四四 二四五 二四六 二四七 二四八 二四九 二五〇 二五一 二五二 二五三 二五四 二五五 二五六 二五七 二五八 二五九 二六〇 二六一 二六二 二六三 二六四 二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇 二七一 二七二 二七三 二七四 二七五 二七六 二七七 二七八 二七九 二八〇 二八一 二八二 二八三 二八四 二八五 二八六 二八七 二八八 二八九 二九〇 二九一 二九二 二九三 二九四 二九五 二九六 二九七 二九八 二九九 三〇〇 三〇一 三〇二 三〇三 三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九 三一〇 三一〇

ふまなごへつ属 (Genus Phenacoccus) ..... 一一六  
 五十二 おほわたかひがらむし (P. pergandei) ..... 一一七  
 五十三 ひめわたかひがらむし (P. azaleae) ..... 一一七  
 五十四 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 五十五 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 五十六 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 五十七 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 五十八 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 五十九 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十一 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十二 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十三 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十四 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十五 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十六 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十七 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十八 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 六十九 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七  
 七十 たけのわたかひがらむし (P. takei) ..... 一一七

あーせいじあ亜科 (Subfamily Orthezinae) ..... 一五三  
 一 せきじあ属 (Genus Orthezia) ..... 一五四  
 二 せきじあ属 (Genus Orthezia) ..... 一五五

附 録  
 日本介殼蟲檢索表  
 學名和名及別名對照  
 日本介殼蟲圖說索引  
 和名索引  
 被害植物名索引

# 日本介殼蟲圖說 後編

マスタ  
オプ  
アーツ  
桑名伊之吉著

## 日本介殼蟲

れかにい亞科

Subfamily Lecaninae



本亞科ニ屬スル介殼蟲ノ内ニハ雌蟲ノ體軀ノ介殼ヲ以テ覆ハルルモノト然ラサルモノトアリ其ノ介殼綿絮狀粉末狀又ハ纖維狀ノ蠟質物ヨリ成リ幼蟲ノ蛻皮殼ヲ襲用スルコトナシ幼蟲及ヒ雌蟲ノ腹端ニ深キ罅隙アリ之ニ接シテ一對ノ三角板ヲ有ス脚ハ多ク之ヲ存シ下唇ハ一環節ヨリ成ル

れかにうむ屬

Genus Lecanium

### 特徴

雌蟲 體軀ハ通常裸出スルモ往少シク蠟質物ヲ以テ裝ハレタル者アリ觸角ト脚トハ完全ニ發達ス形狀ハ一様ナラスシテ扁平橢圓形橢圓形球形及ヒ半球形等アリ産卵前ニ至レハ腹

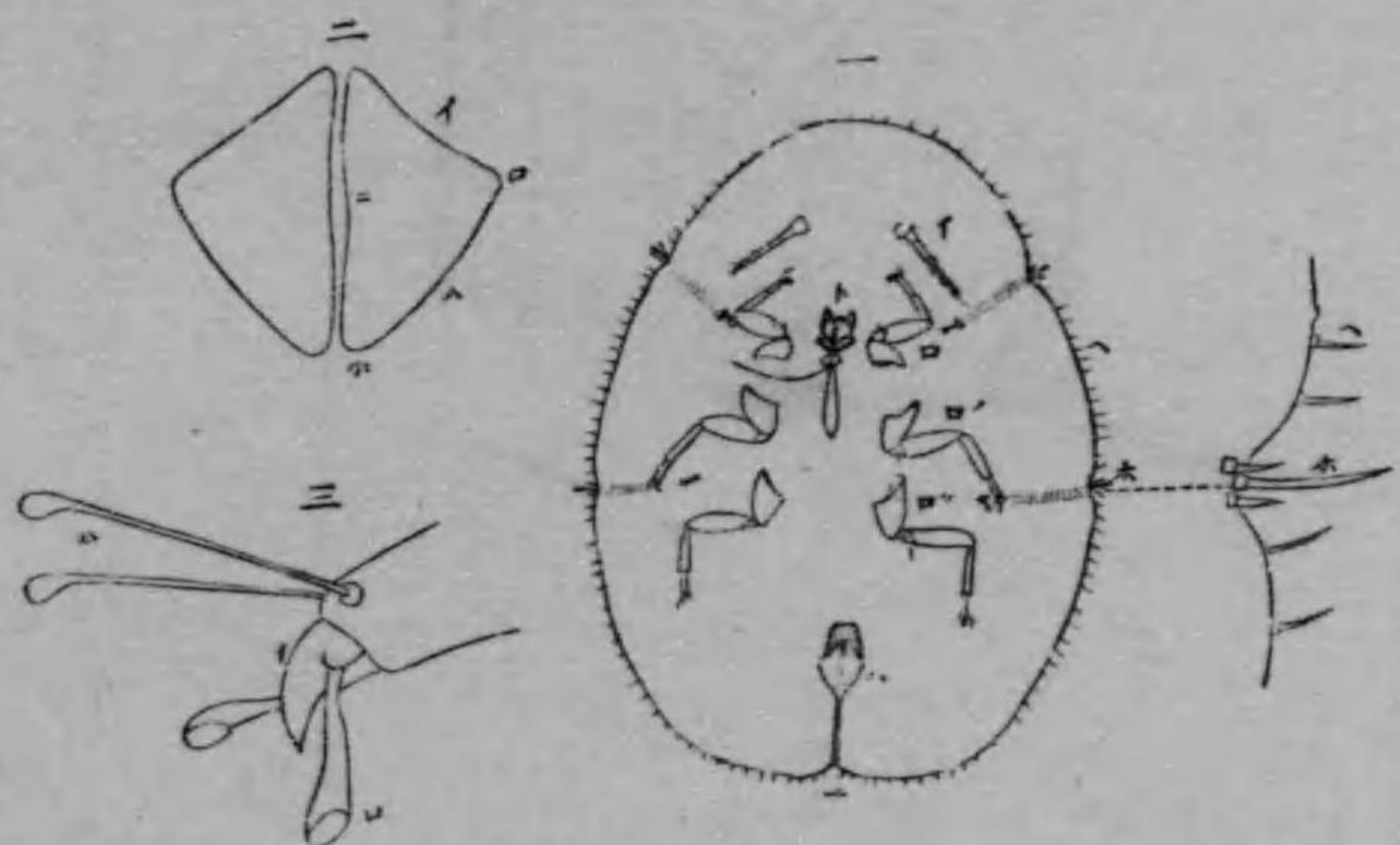
面ト寄主植物トノ間ニ空隙ヲ生シ茲ニ産下セル卵ヲ被覆ス但シ時ニ或ハ胎生ヲ營ムモノアリ

雄蟲ノ前 長橢圓形ニシテ半透明硝子狀ヲ呈シ背面ニ龜甲状ノ隆起線アルヲ常トス

第一圖 れかにう

本屬

本屬ハ著シク形態ノ異ル種類ヲ包括スルモノニシテ記者ニ依リテハ之ヲ數多ノ屬又ハ亞屬ニ分ケタレトモ著者ノ觀ル所ヲ以テスレハ二三ノ例外ヲ除キテハ其ノ特徵判然セルヲ以テ何人モ分類上大ナル惑ナカルヘシト信セラル故ニ姑ク本邦産ノモノヲ解説スルニハ單ニれかにうハ屬ヲ以テシ敢テ多岐ナル新分類法ニ依ラス讀者之ヲ諒セヨ



- 一 雌蟲ノ腹面
- イ、觸角
- ロ、脚
- ハ、三角板
- ニ、腹端ノ緯線
- ホ、體側ノ縱レニアル刺毛
- ヘ、體側ノ縁毛
- ト、口部
- 二 三角板
- イ、底邊
- ロ、外角
- ハ、外邊
- ニ、内邊
- ホ、頂點
- 三 附節ノ末端及爪
- イ、爪
- ロ、爪ノ基部ニ生セル冠球毛
- 附節ノ末端ニ生セル冠球毛

(一) やまたかかたかひがらむし

半球堅介殼蟲

*Leacanium hemisphaericum* Targ.

(*Saissetia hemisphaerica*)

(第一圖版一二第二圖版一乃至六)

形態

雌蟲 體軀ハ半球形ニシテ體色ハ一様ナラス光澤アル淡褐色乃至濃褐色ニ互レリ腹面ニ白色蠟質ヲ分泌シ往、少シク體縁外ニ現ルルコトアリ體長約二乃至三耗幅一、五乃至二耗高二耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第八環節之ニ次クト雖モ往、第二環節ノ第八環節ヨリモ長キコトアリ第六、七ノ兩環節ハ略、同長ニシテ最モ短シ第八環節ニ幾多ノ長毛ヲ生シ其ノ他ノ環節ニハ僅ニ一二箇ヲ有ス脚ハ三對相似テ附節ノ長サハ脛節ノ約三分ノ二ニ過キス爪ハ短大ニシテ少シク彎曲シ附節ノ末端ニアル一對ノ冠球毛ハ細長ナルモ其ノ爪ノ基部ニアルモノハ短大ナリ體側ノ縁毛ハ多ク末端擴大スルカ又ハ分裂スルモ往、刺狀ニシテ少シク彎曲セルモノアリ體側ノ縱レハ淺ク三箇ノ刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアル一箇殊ニ大ニシテ長シ肛門輪ニハ六箇ノ甚タ長キ刺毛ヲ有ス三角板ハ小ニシテ不正三角形ヲ成シ外邊ハ底邊ニ比シ甚タ長ク頂點ニ近ク三箇ノ刺毛ヲ有ス



**雄蟲** 體軀ハ橙黄色ニシテ翅ハ透明ナルモ赤紫綠色ヲ反射ス觸角ト脚トハ淡黄色ニシテ眼ハ黑色ヲ呈ス觸角ハ十環節ヨリ成リ各環節ニ幾多ノ細毛ヲ生ス腹部第八環節ニ一對ノ蠟質ノ白毛狀纖維ヲ有シ交接器ハ細長ナリ

**卵** 長橢圓形淡黄色ニシテ長〇・一五耗アリ

**幼蟲** 孵化當時ノ幼蟲ハ橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈ス觸角ハ七環節ヨリ成リ三對ノ脚ハ能ク發達スルモ脛節ト跗節トノ區別判然セサルモノアリ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ頂點ニ一箇ノ長毛ヲ生ス體長約〇・二耗アリ

**蛹及繭** 雄蟲ノ繭ハ細長ニシテ背面少シク隆起シ龜甲狀ノ隆起線ヲ有ス長約一二五耗アリ蛹ハ長橢圓形ニシテ橙黄色ヲ呈ス

#### 經過

本邦ニ於テハ小笠原琉球等ヲ除キテハ未タ温室以外ニ於テ之カ發生ヲ認メスト雖モ布哇錫蘭等熱帶地方ニアリテハ幾多ノ野外植物ニ寄生シ往々被害甚タシキモノアリト云フ年中幼蟲及ヒ成蟲ヲ見ルモノニシテ其ノ發育甚タ不規則ナリ未タ年何回ノ生殖ヲ營ムヤヲ明ニセズ本種ハ雄蟲ヲ見ルコト極メテ稀ニシテ著者ハ未タ嘗テ本邦ニ於テ之ヲ見スにうすてつど氏ノ如キモ三十五年間ニ僅ニ二回之ヲ見タリト云フ多クハ單性生殖ヲ營ムモノノ如シ布哇及ヒ錫蘭ニ於テハ特ニ咖啡樹ニ大害アリ

ぐりーん氏に依レハ下記寄生蜂ハ本種ノ繁殖ヲ制裁シツツアリト云フ *Scutellista cyanea*, *Enerytus nietheri*, *E. paradisiensis*, *Cephalota purpureiventris*, *C. brunneiventris*, *C. fusciventris*, *Cirrhospilus coccivora*

*rus*, *Marietta leopardina*, *Comys rufescens*.

#### 被害植物

桃柑橘夾竹桃椿棕桐珈琲くろとん梔子あすばらがす羊齒類等

#### 分布

本邦歐洲北米合衆國墨西哥南米西印度諸島錫蘭濠洲布哇がらばごす諸島等

因曰 本種ニハ左記ノ異名アリ

*Chermes anthurii* Bdv., Ent. Hort., p. 328 (1867). (カんだーす氏ニ依ル)

*C. filicum* Bdv., Ent. Hort., p. 335 (1867).

*C. hibernaculorum* Bdv., Ent. Hort., p. 337 (1867).

*Lecanium coffeae* Sign., Ann. Soc. Ent. Fr., 5, III, p. 435 (1873).

*L. beaumontiae* Dougl., Ent. Mon. Mag., XXIV, p. 95 (1887).

*L. clypeatum* Dougl., Ent. Mon. Mag., XXV, p. 58 (1888).

*L. lemisphaericum* var. *hibernaculorum* Ckll., Bot. Bot. Dep. Jamaica, p. 7 (1894).

*L. hemisphaericum* var. *filicum* Green, Ent. Mon. Mag., XXXIII, pp. 70, 77 (1897).

*L. (Suissetin) coffeae* var. *clypeatum* Ckll. & Parr., Industrialist, p. 164 (1899).

*Coccus coffeae* Kirkaldy, Fauna Haw., III, pt. 2, p. 105 (1902).

(二) をりーぶのかたかひがらむし

橄欖堅介殼蟲

*Lecanium oleae* Bern.

(*Saissetia oleae*)

(第一圖版三四第二圖版七乃至一〇)

形態

雌蟲 背皮ハ甚タシク硬化シ褐色乃至暗褐色ヲ呈シ少シク灰色臘質ノ粉粒ヲ散點シ略半圓形又ハ方形ニシテ背面著シク隆起シ工字形ノ隆起線ヲ有ス體長四乃至五耗高三耗アリ觸角ハ普通八環節往七環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第六七ノ兩環節ハ同長ニシテ最モ短ク觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 8, (4, 5), 2, (6, 7), 1,  
3, (2, 4), 5, 8, 1, (6, 7).

脚ハ能ク發達シ附節ノ長ハ脛節ノ約四分ノ三ニ過キス爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ附節ノ末端及ヒ爪ノ基部ニ各一對ノ冠球毛ヲ有シ其ノ附節ニアルモノハ細長ナルモ爪ニアルモノハ短大ナリ體側ノ縱レハ淺クシテ三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアル一箇特ニ長ク殆ント他ニ四倍ス體側ノ縁毛ハ刺狀ノモノト末端擴大又ハ分裂シテ叉狀ヲ成スモノト相雜リテ生ス肛門輪ニハ六箇ノ大ナル刺毛ヲ有ス三角板ハ比較的小ニシテ頂點尖リ外邊ハ圓ク底

邊ハ少シク凸出シテ圓味ヲ帶ヘリ外邊ノ長サハ底邊ノ約二倍アリ

雄蟲 體軀ハ橙赤色ニシテ翅ハ透明ナリ觸角ハ十環節ヨリ成リ甚タ長シ脚ハ細長ニシテ能ク發達セリ交接器ハ細長ナリ體長約一二耗翅ノ開張二一耗アリ

本邦ニ於テハ未タ雄蟲竝ニ蛹ヲ認メス抑該蟲ノ雄蟲ハ一千八百九十三年七月かりぼるにあ州ビーだぶりうぐりすのす氏 (B. W. Griffith) ニ由リテ始メテ學界ニ紹介セラレ次ニあれささんだーくろウ氏 (A. Craw) ガ加州園藝報告ニ公ニスル所アリタリ著者ハすたんふをるど大學ニ在學中數年間該蟲ニ付キ觀察シタレトモ遂ニ雄蟲ヲ得ルコト能ハサリキ錫蘭歐洲等ニ於テモ未タ之ヲ認メサルカ如シ要スルニ該種ハ地方ニ依リテ往々雄蟲ヲ生スルコトアリト雖モ極メテ稀ニシテ一般ニ單性生殖ヲ營ムモノト謂フモ可ナリ

卵 橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈ス長約〇四耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ紅赤色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長シ脚ハ三對略同大ニシテ能ク發達セリ三角板ハ大ニシテ頂點ニ一箇ノ長毛ヲ生ス體長約〇五耗アリ

蛹及繭 繭ハ長橢圓形ニシテ半透明ナリ背面ニ龜甲狀ノ隆起線アリ蛹ハ黃綠色ニシテ暗褐色ノ背線縱走ス

經過

年一回ノ發生ニシテ多ク幼蟲態ニテ越冬シ翌年初夏ノ候ニ至リテ成蟲トナル雌蟲ノ産卵數ハ約二千箇ニシテ略同時ニ孵化スレトモ成育甚タ不規則ニシテ早キハ晩秋ニ遅キハ翌年

七月頃ニ至リテ成蟲ト成ル主ニ枝梢ニ寄生シテ養液ヲ吸收スルモ又葉面ニ附著スルコト尠  
カラス米國其ノ他ニ於テハ橄欖柑橘等ニ大害ヲ爲スモノニシテ成育ノ際多量ノ甘液ヲ分泌  
スルカ故ニ煤病ヲ併發シ被害一層大ナリト目下北米加州ニテハ有力ナル寄生蜂及ヒ瓢蟲  
アリテ大ニ之ヲ制裁スト云フ即チ卵寄生蜂トシテハ有力ナル *Scutellista cyanea* 及ヒ *Tomocera*  
*California* アルノ外 *Aphycus flavus*, *Coccophagus leavii* 及ヒ *C. lunulatus* 等ノ幼蟲ニ寄生スルアリ又  
瓢蟲トシテ有力ナル普通種ハ *Rhizobius ventralis* ナリ此瓢蟲ノ幼蟲ハ卵及ヒ孵化當時ノ幼蟲  
ヲ捕食ス其ノ外 *Oreus chalybeus*, *Axion plagiator* 等該介殼蟲ノ寄生スル所ニ生存スルモノ多シ  
又ララズブル氏ニ依レハ南亞弗利加ニ於テハ *Scutellista cyanea* ノ外八種ノ寄生蜂アリト  
云フ

被害植物

柑橘橄欖苹果梨李杏椿珈琲薔薇夾竹桃等

分布

本邦支那歐洲濠洲新西蘭南亞弗利加南米北米合衆國墨西哥西印度諸島等

因曰 本邦ニ於テハ著者ハ明治三十三年神奈川縣下川崎附近ニ於テ該蟲ヲ採集セシコ  
トアリ其ノ後四十年米國カリフォルニア種苗會社ヨリ興津園藝試驗地ニ輸入セシ橄欖  
ノ苗木ニ之ヲ發見セリ當時嚴重ナル驅除ヲ勵行セシモ未タ之カ根絶ヲ期スルニ至ラ  
ス要スルニ該蟲ハ内地ニ於テハ未タ廣ク之カ發生ヲ見スト雖モ將來大ニ注意スヘキ  
者ナリトス

(三) たまかたかひがらむし

球堅介殼蟲

*Lecanium kunoensis* Kuw.

(第一圖版五六第二圖版一一乃至一六)

形態

雌蟲 體軀ハ略球形ニシテ光澤アル褐色乃至濃褐色ヲ呈ス外皮ニ幾多ノ小凹點ト横皺ト  
ヲ有ス大小不同ナリト雖モ普通直徑四五耗内外アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第四五及ヒ六環節ヲ合セタルモノト略同長ナリ  
各環節特ニ末環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス脚ハ比較的小ニシテ三對相似タリ腿節ト脛節トハ略  
同大ナルモ跗節ハ脛節ノ約三分ノ二アリ爪ハ大ニシテ少シク彎曲セリ冠球毛ハ二對ニシテ  
其ノ爪ニアルモノハ短大ナルモ跗節ニアルモノハ細長ナリ體側ノ縁毛ハ小ニシテ末端尖レ  
リ腹端ノ罅隙ハ稍深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ外角ハ稍圓シ頂點ニ近ク數箇ノ刺毛ヲ有ス  
雄蟲 頭部及ヒ胸部ハ赤褐色腹部ハ淡黃褐色觸角及ヒ脚ハ淡黃色ナリ翅ハ殆ント無色透  
明ナルモ前縁ノ内部及ヒ翅脈ニ沿ヒテ僅ニ紅色ヲ帶フ頭部ハ略圓形ニシテ前部少シク尖リ  
細頸ヲ以テ前胸ト相接續セリ眼ハ三對ニシテ赤紫色ヲ帶フ其ノ一對ハ頭部ノ腹面ニ他ノ二  
對ハ其ノ背面ニアリ觸角ハ絲狀ニシテ十環節ヨリ成リ各環節ニ幾多ノ細毛ヲ生ス第十環節  
ノ尖端ニ三箇若クハ三箇以上ノ冠球毛アリ胸部ハ腹部ニ比シ僅ニ幅濶ク腹部ハ略圓筒形ニ

シテ第八環節ノ兩側ニ各一個ノ長キ蠟質ヨリ成ル白毛狀纖維ヲ有ス交接器ハ甚タ大ナリ翅ハ長大ニシテ背上ニ疊ムトキハ交接器ヨリ長シ體長約一五耗翅開張約二五耗交接器長約〇四耗アリ

卵 橢圓形ニシテ赤褐色ヲ呈ス長約〇三耗アリ母體下ニ不規則ニ放産セラレタリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形赤褐色ニシテ腹端ニ向ヒテ少シク幅狭ク觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク尖端ノ數環節ニ幾多ノ長毛アリ三對ノ脚ハ能ク發達シテ略同大ナリ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ頂點ニ近ク一箇ノ長毛ヲ有ス

蛹及繭 蛹ハ長橢圓形ニシテ腹部ハ淡褐色胸部ハ赤褐色ナリ腹部ノ兩側ニ大ナル肉質突起アリ交接器ハ短大ニシテ略紡錘形ヲ成ス長一五耗アリ繭ハ橢圓形無色半透明ニシテ背面隆起シ龜甲狀ノ隆起線ヲ有ス

經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ翌年四月下旬頃ニ至リ成蟲トナル雌蟲ハ五月中下旬ニ至リテ産卵ヲ始ム卵ハ六月下旬頃孵化ス今農商務省農事試驗場ニ於ケル飼育ノ結果ヲ記スレハ左ノ如シ

明治三十九年五月三十日 飼育ヲ始ム(卵)

同 六月二十六日 孵化

同 十月二十五日 葉ノ裏面ニ附著セル幼蟲樹幹及ヒ枝梢ニ移轉ヲ始ム

同 四十年四月下旬 蛹化(雄)

同 五月上旬 羽化(雄)  
同 五月中下旬 産卵

越年シタル雌蟲ハ五月上中旬頃ニ至リ交接後體軀著シク膨大シテ球狀トナリ黃褐色ヲ呈シ一見恰モカーメス屬(Kermes)ニ似タリ故ニ嘗テ本邦ニ來遊セラレタルまらつと氏ノ如キモ堀技師ノ間ニ對シカーメスト答ヘシコトアリシ位ナリシカ其ノ後著者等ノ研究ニ依リテ始メテれかにうむ屬ノ一新種ナルコトヲ明ニセリ産卵前ニ至レハ盛ニ粘液ヲ分泌ス背皮ハ漸次濃褐色ヲ成スト同時ニ強硬ナル介殼狀ニ變シ無數ノ卵ヲ放産シ遂ニ斃死ス卵ヨリ孵化シタル幼蟲ハ暫時母體下ニ在リ體軀ノ稍強クナルヲ俟テテ這出テ樹上ヲ傳ハリテ葉裏ニ至リ茲ニ静止シテ養液ヲ吸收スルモノナリ而シテ秋期落葉ニ先テ葉ヲ辭シ枝梢ニ移リテ越冬ス被害甚タシキトキハ枝條ヲ枯死セシムルコトアリ著者ハ嘗テ筑前太宰府ノ梅林ニ於テ該蟲ノ甚タシク發生セルヲ目撃セシコトアリ將來注意スヘキ害蟲ナリトス

被害植物

梅くろらめもどき梨萃樹李海棠木瓜等

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦ノ原産ニシテ各地ニ之カ發生ヲ認ム

(四) にしがはらかたかひがらむし

西ヶ原堅介殼蟲

*Lecanium nishigaharae* Kuw.

(第一圖版七、八第四圖版一乃至五)

形態

雌蟲 略半球形ニシテ寄主ニ附著セル部分即チ腹面ハ扁平ナリ鮮黄色ニシテ背面ニ褐斑ヲ有ス乾燥セルモノハ淡褐色ヲ呈シ幾多ノ横皺アリ體徑約四耗内外アリ觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第四環節之ニ次キ第六、七ノ兩環節ハ殆ント同長ニシテ最モ短ク第八環節ニハ幾多ノ長毛アリ脚ハ能ク發達シ三對相似タリ跗節ノ長ハ脛節ノ二分ノ一ニ足ラス爪ハ大ニシテ短ク少シク彎曲セリ冠球毛ハ顯著ナリ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアルモノノ長ハ他ノ二箇ノ約二倍アリ體側ノ縁毛ハ刺狀ヲ呈シ末端尖レリ腹端ノ罅隙ハ稍深ク一對ノ三角板ハ小ニシテ底邊ト外邊トハ略同長ナリ頂點ニ近ク三箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形淡黄色ニシテ長約〇・三耗アリ母體下ニ不規則ニ放産セラレタリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈ス腹端ノ罅隙ハ深ク三角板ハ大ニシテ頂點ニ近ク一箇ノ長毛ヲ生ス觸角ハ七環節ヨリ成リ第三環節最モ長シ

經過

年一回ノ發生ヲ營ミ幼蟲態ニテ越冬スルモノノ如シト雖モ尙ホ精査ヲ缺クカ故ニ明言シ難シ主ニ桑葉ノ裏面ニ寄生シテ養液ヲ吸收スルヲ以テ有害ナリトス

被害植物

桑

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリ東京府下西ヶ原及ヒ赤羽附近ノ桑園ニ於テ採集シタルコトアルノミニシテ其ノ他ノ地方ニ於テハ未タ之ヲ認メス

(五) ひらたかたかひがらむし

扁平堅介殼蟲

*Lecanium hesperidum* L.

(*Coccus hesperidum*)

(第一圖版九、一〇第四圖版六乃至九)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平橢圓形ニシテ背面少シク隆起セリ著色ハ一様ナラス黄緑乃至黄褐色ニ

シテ往、背面ノ中央褐色ヲ帯ヒ之ニ黒色ノ小斑點アルヲ見ル、背面ハ裸出シ分泌物ヲ以テ覆ハルルコトナシ乾燥スルトキハ淡褐乃至暗褐色ニ變ス體縁少シク上方ニ向ヒテ不規則ニ剝反スルコトアリ體長三乃至四耗幅一、五乃至二、五耗アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ第三環節最長ナルモ第四、七ノ兩環節ヨリ僅ニ長ク第五、六ノ兩環節略、同長ニシテ最モ短シ第七環節ニ數箇ノ長毛ヲ生ス觸角式左ノ如シ

3.4.7.2.1 (5, 6)

脚ハ小ニシテ附節ハ脛節ノ約三分ノ二アリ體側ノ縫レハ深ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアルモノハ甚タ長ク尖端少シク彎曲セリ體側ノ縁毛ハ刺狀ノモノト末端擴大シテ數多ニ分岐セルモノトアリ腹端ノ罅隙ハ深ク三角板ハ大ナラス外邊ハ底邊ニ比シ稍、長シ且ツ底邊ハ少ク凹入セリ

雄蟲 最モ普通ナル種類ナルニモ係ラス未タ雄蟲ヲ認メタルコトナシ  
卵 體内ノ卵ハ淡黄色椭圆形ナリ

幼蟲 本種ハ胎生生殖ヲ營ミ產出當時ノ幼蟲ハ長椭圆形ニシテ淡黄色ヲ帶フ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長シ三角板ハ大ニシテ頂點ニ近ク一箇ノ大ナル長毛ヲ有ス體長約〇、二五耗アリ

繭 けうすてつど氏ニ依レハ繭ハ長椭圆形ニシテ龜甲狀ノ隆起線ヲ有スルコト他ノ種類ト相似タリト云フ  
經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬ス胎生ニシテ發生不規則ナリ溫室内ニテハ年中幼蟲ノ各生育期ヲ見ル好シテ植物ノ軟弱ナル部分ニ寄生シテ養液ヲ吸收スルカ故ニ被害甚タシ米國加州ニテハ *Coccophagus lecanii*, *Aphyous flavus*, *Euclyptus flavus* 及ヒ *Coccophagus laevigatus* 等有カナル寄生蜂アリテ之ヲ制裁スト云フ

被害植物

柑橘 蘇鐵 椿 山茶 枇杷 夾竹桃 花蘇芳 葛等

分布

本邦 歐洲南米北米合衆國墨西哥西印度諸島加奈陀にうじらんど濠洲布哇あるげりあ錫蘭印度等

因曰 該蟲ハ本邦ノ外廣ク諸外國ニ發生シ其ノ形態ニ著シキ差異アリさんだゝ氏ニ依レハ本種ノ異名左ノ如シ

- Calyplicus laevis* Costa, Faun. Reg. Nap. Cocc., p. 8, (1835).
- Coccus patelliformis* Curt., Gard. Chron., p. 517, (1843).
- Chermes lauri* Bdv., Ent. Hort., p. 340, (1867).
- Lecanium platycerii* Paek., Rept. Mass. Bd. Agr., p. 260, (1870).
- L. angustatum* Sign., An. Soc. Ent. Fr., 5, iii, p. 398, (1873).
- L. maculatum* Sign., " " 5, iii, p. 400, (1873).
- L. alienum* Dougl., Ent. Men. Mag., xxiii, p. 77, (1886).

- L. leprosum* var. *Simulans* Dougl., Ent. Mon. Mag., XXIV, p. 27, (1887).
- L. minimum* Newst., " " XXVII, p. 141, (1892).
- L. assimile* var. *amarillidis* Ckll., Tr. Am. Ent. Soc., XX, p. 53, (1893).
- L. terminatae* Ckll., Jn. Inst. Jan., I, p. 254, (1893).
- L. nanum* Ckll., Psyche, VII, Suppl. 1, p. 19, (1896).
- L. flavolum* Ckll., " VIII, pp. 52-53, 1897).
- L. minimum* var. *pinicola* Mask., N. Z. Tran. XXIX, p. 310, (1897).
- L. ventrale* Ehrh., Can. Ent., XXX, p. 245, (1898).
- L. hesperidum* var. *pacificum* Knw., N. Y. Jn. Ent. Soc., X, p. 30, (1902).
- L. signiferum* Green, Coc. of Ceylon, Part iii, p. 197, (1904).

(六) ながたかひがらむし

長堅介殼蟲

*Lecanium frontale* Green

(*Coecus frontale*)

(第三圖版一第四圖版一〇乃至一三)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平長形ニシテ兩端稍狹シ淡褐色ニシテ背線少シク濃褐色ヲ呈ス眼ハ頭部ノ兩側ニアリテ黑色ヲ呈ス體側ノ縊レハ淺シ體長三乃至五耗幅一五乃至二五耗アリ觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第六七ノ兩環節ハ殆ント同長ニシテ最モ短ク觸角式ノ二例左ノ如シ

3, (2, 4), 8, 5, 1, (7, 6),

3, 4, 5, 2, 8, 1, (7, 6),

脚ハ能ク發達シ三對相似タリ跗節ハ脛節ヨリ短シ體側ノ縊レニ三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアルモノノ長ハ他ノ約三倍アリ體側ノ縁毛ハ細長ニシテ末端分岐セス三角板ハ大ニシテ外邊ハ底邊ヨリ長ク頂點尖レリ

雄蟲 未詳

經過

未詳

被害植物

温室植物

分布

本邦錫蘭

因曰 本邦ニ於テハ著者ハ嘗テ小笠原島及ヒ横濱市某溫室内ニ於テ之ヲ採集セシコトアルノミニシテ未タ其ノ他ノ地方ニ發生スルヲ見ス想フニ本邦ニハ近來外國ヨリ輸

入セシ植物ト共ニ侵入セルモノナラン  
さんだーす氏ハ本種ヲ *Coccus elongatus* Sign. ノ異名ト稱セリ

(七) ふかやかたかひがらむし

深谷堅介蝨蟲

*Lecanium fukayai* Kuw.

(第四圖版一四乃至一六)

形態

雌蟲 體軀ハ廣橢圓形ニシテ甚タ扁平ナリ淡黃綠色ヲ呈ス腹端ノ罅隙ハ甚タ深ク體長ノ三分ノ一以上ニ達ス體長ニ耗内外アリ

觸角ハ通常六環節ヨリ成リ往々七環節ヨリ成ル第三環節最モ長ク第一環節最モ短シ六環節ヨリ成ル觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 6, 2, 4, 5, 1.

6, 3, 2, (4, 5), 1.

口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ稍長シ脚ハ能ク發達スルモ比較的小ナリ三對相似テ基節及ヒ轉節ハ甚タ太ク脛節ハ跗節ヨリ長シ爪ハ大ニシテ彎曲セリ跗節ノ冠球毛ハ纖弱ニシテ爪ノ基部ニハ之ヲ認メ得ス體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ刺毛ヲ有スルモ餘リ大ナラス體側ノ縁毛

ハ細小ニシテ末端尖レリ三角板ハ細長ニシテ底邊ノ長ハ外邊ノ二倍以上アリ頂點ニ近ク四乃至五箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ之カ精査ヲ缺ク

被害植物

蔓類

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ嘗テ深谷徹氏カ水戸市ニ於テ採集セシモノナリ

(八) おほかたかひがらむし

大堅介蝨蟲

*Lecanium glandi* Kuw.

(*Entecanium glandi*)

(第三圖版二三第五圖版一乃至五)

形態



雌蟲 本邦産ノれかにうむ屬中最大ノ種ニシテ赤褐乃至暗褐色ヲ呈ス寄生スル場所ニ依リテ其ノ形態ヲ同フセスト雖モ略球狀ニシテ外皮著シク硬化シ寄主ニ附著スル部分ハ扁平ニシテ少シク外方ニ反起ス腹端ノ罅隙ハ深ク直徑一四耗内外アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第四環節之ニ次キ第五六七及ヒ八環節ハ殆ント同長ニシテ又之ニ次キ第一環節最モ短シ第八環節ニハ數多ノ長毛ヲ生シ其ノ他ニハ少シ口部ハ能ク發達セリ脚ハ小ニシテ跗節ノ長ハ脛節ノ約二分ノ一ニ過キス爪ハ大ニシテ彎曲シ冠球毛ハ顯著ナリ體側ノ縊レハ淺ク刺毛ハ三箇ニシテ大ナルモ縁毛ヨリ短シ體側ノ縁毛ハ長クシテ末端尖レルモノト分裂セルモノトアリ三角板ハ小ナリ底邊ト外邊トハ略同長ニシテ外角ハ圓味ヲ帶ヒ往勾玉狀ヲ呈シ頂點ニ近ク六箇ノ刺毛アリ

雄蟲 未詳

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ之カ精査ヲ缺ク

被害植物

梨萃樹樺藤等

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ各地ニ發生スト雖モ未タ大發生ヲ見ス

(九) たかちほかたかひがらむし

高千穂堅介殺蟲

*Leucanium takachih-i* Knw.  
(*Enleucanium takachihoi*)

(第三圖版四第五圖版六乃至八)

形態

雌蟲 體軀ハ略卵形ニシテ寄主ニ附著スル部分ハ扁平ナリ背面ニ縱走スル隆起線アリ頭部及胸部ニ相當スル部分ハ腹部ニ比シ肥大ナリ暗褐色ニシテ腹端ノ罅隙ハ明瞭ナリ背皮ニハ數多ノ小窩散在ス體長六五耗幅四耗高四耗内外アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ第三四ノ兩環節ハ略同長ニシテ最モ長ク第七環節之ニ次キ第一環節最モ短シ第七環節ニハ多數其ノ他ニハ少數ノ長毛ヲ有ス觸角式左ノ如シ

3, 4, 7, 6, 5, 2, 1.

三對ノ脚ハ略同大ニシテ能ク發達シ基節ハ大ニシテ幅濶ク脛節ハ跗節ヨリ僅ニ長ク爪ハ彎曲セリ跗節ノ冠球毛ハ長ク其ノ爪ニアルモノハ短大ナリ三角板ハ小ニシテ頂點ニ近ク數箇ノ刺毛ヲ生ス

雄蟲 未詳

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ橢圓形ニシテ紅色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長

ク觸角式左ノ如シ

3, 6, 5, 1, (2, 4).

口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長ク腹部第三環節ニ達ス脚ハ大ニシテ三對相似タリ三角板ノ末端ニ一箇ノ長毛ヲ生ス體長〇.五八耗幅〇.五七耗内外アリ

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ之カ精査ヲ缺ク

被害植物

栗

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ著者嘗テ九州英彦山ニ於テ採集セシコトアルノ外未タ他ノ地方ニ於テ之ヲ見ス

(十) かんきつのかたかひがらむし

柑橘堅介殼蟲

*Lecanium pseudomagnoliarum* Kuw.

(第三圖版五、六第五圖版九乃至一三)

形態

雌蟲 體軀ハ廣椭圆形ニシテ背面僅ニ腫起ス暗綠黃色ニシテ黑色ノ小點ヲ密生スルカ故ニ一見暗色ヲ呈ス體長三耗幅二耗内外アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長キモ第四環節ヲ越ユルコト僅ナリ末環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス觸角式左ノ如シ

3, (8, 4), 5, 2, 6, 7, 1.

口部ハ能ク發達スレトモ小ニシテ絲狀口器ハ短シ脚ハ小ニシテ三對相似タリ跗節ノ長ハ脛節ノ約四分ノ三ニシテ爪ハ小サク彎曲シ末端尖銳ナリ冠球毛ハ顯著ナリ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有ス其ノ中央ニアル一箇ノ長ハ他ノ二箇ヨリ甚タ長シ體側ノ縁毛ハ短ク末端ノ尖レルモノト分裂セルモノトアリ背皮ニハ透明ノ小斑點散在ス三角板ハ二箇相合スルトキハ略、方形ヲ成シ底邊ト外邊トハ略、同長ニシテ頂點ニ近ク數箇ノ刺毛アリ

雄蟲 未詳

卵 椭圆形ニシテ淡黃色ヲ呈ス長〇.二五耗幅〇.一一耗アリ雌蟲ノ體下ニ不規則ニ産下セラル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ椭圆形ニシテ淡黃色ヲ呈シ腹端ノ罅隙深ク三角板ハ大ニシテ其ノ末端ヨリ一箇ノ長毛ヲ生ス觸角ハ六環節ヨリ成リ脚ハ大ニシテ脛節ハ跗節ヨリ長シ體長〇.二五耗幅〇.一一耗アリ

經過

雌蟲ハ五月下旬頃ヨリ産卵ヲ始ム幼蟲態ニテ越冬シ年一回ノ發生ヲ營ム

被害植物

柑橘

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦原産ノ種ニシテ *Lecanium magnoliarum* ニ類似スルモ其ノ形小ニシテ觸角式及ヒ三角板ノ形狀大ニ異ナレリ枳殼温州蜜柑及ヒねーぶるをれんぢ等ニ寄生スルモ未タ其ノ發生少ク從テ被害大ナラス

(十一) もくれんのかたかひがらむし

木蓮堅介殼蟲

*Lecanium magnoliarum* Okl.  
*Eulecanium magnoliarum*

(第五圖版一四乃至一七)

形態

雌蟲 體軀ハ長橢圓形ニシテ背面稍腫起セリ暗褐色ニシテ光澤アリ殼縁ニ沿ヒテ黑色ノ斑縁ヲ存ス寄主ヨリ蟲體ヲ剝去ルトキハ白キ痕跡ヲ留ム體長三五乃至八耗幅二乃至四五耗

高〇五耗アリ

觸角ハ通常八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第七環節最モ短シ第四環節ハ第三環節ノ長ノ約四分ノ三第二環節ハ第三環節ノ約二分ノ一アリ或ハ第四環節ノ長ハ第三環節ノ三分ノ二ニ過キスシテ第二環節ヨリモ短ク第五環節ハ第四環節ヨリ短キモノアリ各環節特ニ末環節ニ數多ノ長毛ヲ有ス觸角式ノ二例左ノ如シ

3(4, 5), 1, 2, 8, 6, 7.  
3, (4, 1), 5, 2, 8, 6, 7.

脚ハ三對相似テ細長ナリ脛節ハ腿節ト殆ント同長ニシテ跗節ハ脛節ノ五分ノ三位ナリ爪ハ少シク彎曲ス爪ノ冠球毛ハ短大ナルモ其ノ跗節ノ末端ニアルモノハ細長ナリ體側ノ縁毛ハ小ニシテ尖リ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアルモノハ甚タ長シ三角板ハ背皮ト略同色ニシテ外邊ハ底邊ヨリ長シ底邊ハ凹入シ外邊ハ突出セリ頂點ニ數箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈ス

經過

未タ年中ノ經過ヲ明ニセスト雖モ年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ翌春ニ至リ成蟲トナリ五月頃産卵スルモノノ如シ

被害植物

葡萄木蓮柀南天

分布

本邦北米合衆國

因曰 さんだーす氏の本種ト *Lecanium persicæ* Fab. ト同一種ト認メテ後者ノ異名ト爲セリ然レトモ著者ハ姑クふゑなるど嫌ノ總目錄ニ從ヒ *Magnoliarum* ノ名稱ヲ襲用スルコトトセリ尙さんだーす氏の *Lecanium persicæ* ノ下ニ左記ノ種名ヲ列記セリ

- Chermes clematidis* Gmel., Syst. Nat. Ed. XIII, p. 2220, (1789).
- Lecanium cymbiformis* Targ., Cat. Coccidiarum, p. 37, (1868).
- L. berberidis* Sign. (Non. Schr.) Essais, p. 233, (1873).
- L. genista* Sign., Essais, pp. 235, 484, (1873).
- L. persicæ* Sign., " p. 237, (1873).
- L. rosarum* Sign., " p. 258, (1873).
- L. berberidis* Mask., N. Z. Trans., XXIX, p. 311, (1897).
- L. inbaustrale* Ckll., Entom., XXXI, p. 131, (1898).
- L. magnoliarum* Ckll., Ent. News, IX, p. 146, (1896).
- L. magnoliarum* var. *loriensis* Ckll., Psyche, X, p. 19, (1903).

(十二) きつかふかたかひがらむし

龜甲堅介殼蟲

*Lecanium tessellatum* Sign.

(*Eucalymnatus tessellatus*)

(第三圖版七第六圖版一乃至六)

形態

雌蟲 體軀ハ不規則ナル擴椭圆形ニシテ前端ニ向ヒテ少シク細マレリ扁平ニシテ中央部僅ニ隆起セリ體縁甚タ薄ク地色ハ一様ナラス淡褐乃至暗褐色ニシテ光澤アリ龜甲狀ヲ爲ス腹端ノ罅隙ハ深ク殆ント蟲體ノ四分ノ一ニ達セリ體長四乃至四七五耗幅二乃至三耗アリ觸角ハ八環節ヨリ成リ各環節ハ不同ナルモ第八環節最長ナルヲ常トス其ノ他ノ環節ノ比較長ハ箇體ノ異ナルニ從ヒ同一ナラスト雖モ第七環節最モ短シ又第二環節ト第五環節トハ殆ント同長ナリ脚ハ三對相似テ小ナリ跗節ハ脛節ニ比シ甚タ短カシ爪ハ小ニシテ彎曲ス冠球毛ハ顯著ナリ體側ノ縊レハ稍深ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアル一箇ハ甚タ長ク他ノ二箇ハ短ク體側ノ縁毛ハ小ニシテ刺狀ヲ呈ス背皮ニハ透明ナル小圓孔ヲ有ス三角板ノ外角ハ鈍ク底邊ト外邊トハ略同シク頂點ニ近ク四箇ノ刺毛アリ

雄蟲 未詳

幼蟲 産出當時ノ幼蟲ハ淡赤色ニシチ扁平椭圆形ナリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三六ノ兩

環節最モ長シ口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ脚ハ能ク發達スルモ比較的小ナリ三角板ノ長毛ハ他ノ種ニ比シテ短カシ

經過

發生經過ハ未タ詳ナラサレトモ胎生ヲ營ムモノニシテ發生甚タ不規則ナリ熱帶地方ニ於テハ野外ノ植物ニ寄生スト雖モ内地ニテハ未タ温室以外ニ於テ之カ發生ヲ認メス

被害植物

棕櫚老利兒羊齒等

分布

本邦印度歐洲北米合衆國濠洲布哇錫蘭西印度諸島等

因曰 本種ハ熱帶地方ノ原産ニシテ本邦ニハ觀賞植物ト共ニ外國ヨリ輸入セラレタル

モノノ如シ東京及ヒ横濱市内ノ温室ニ於テ普通ニ見ル害蟲ナリ

さんだーす氏ハ左記ノ種類ヲ本種ノ異名トナセリ

*Leucaniu perforatum* Newst., Ent. Mon. Mag., XXX, p. 233, (1894)

*L. tessellatum* var. *perforatum* Ckll., Psyche, VIII, p. 90, (1897).

*L. subessellatum* Green, Cocc. of Ceylon, Part III, p. 206, (1904.)

ふるぶるなりあ屬

Genus Pulvinaria.

特徴

雄蟲 體軀ハれかにうむ屬ニ似テ産卵期ニ至ル迄ハ之ヲ區別スルコト難シ然レトモ一度其ノ産卵期ニ達スレハ容易ニ之ヲ識別スルコトヲ得ヘシ即チ本屬ノモノハ産卵期ニ至レハ腹端ヨリ白色綿絮様ノ臘質物ヲ分泌シ以テ卵囊ヲ形成シ其ノ内ニ産卵ス産卵終レハ蟲體ノ後部ハ卵囊ニテ撐上セラレテ反起シ數多ノ横皺ヲ生ス往々卵囊ヲ以テ體軀ノ一部ヲ覆フコトアルモ概シテ全體ヲ被覆スルコトナシ

雄蟲 れかにうむ屬ニ類似ス

雌 硝子様半透明ニシテ背面ニ龜甲狀ノ隆起線アリれかにうむ屬ノモノト區別スルコト難シ

要スルニ本屬トれかにうむ屬トハ産卵ノ習性ニ依リテ區別スルコトハ容易ナルモ體軀ノ構造上ヨリ區別スルコトハ困難ナリトス

(十三) みかんのわたかひがらむし

蜜柑綿介殼蟲

*Pulvinaria amantii* CHILL.

(第三圖版八第六圖版七乃至一一)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平橢圓形ニシテ淡綠黄色ヲ呈シ背面少シク腫起シ中央ニ黑線ノ縱走スルアリ卵囊ハ略橢圓形ニシテ白色綿絮質ナリ幾多ノ縱走セル凹線ヲ有ス體長約四耗幅二五耗卵囊長約五耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第七環節最モ短シ各環節特ニ第八環節ニ幾多ノ長毛ヲ有ス口部ハ能ク發達スレトモ小ニシテ絲狀口器ハ短シ三對ノ脚ハ完全ニシテ略同大ナリ脛節ハ跗節ヨリ長ク爪ハ短大ニシテ少シク彎曲シ顯著ナル四箇ノ冠球毛ヲ有シ其ノ跗節ノ末端ニアル一對ハ細長ニシテ爪ノ基部ニ在ルモノハ短大ナリ體側ノ縁毛ノ末端ハ擴大シ又ハ分裂セリ體側ノ縫レハ深ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアル一箇ハ他ノ二箇ヨリモ遙ニ太ク且ツ長シ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ小ニシテ底邊及ヒ外邊ハ少シク突起シテ圓味ヲ帶ヒ外角ハ鈍シ肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 體軀ハ淡黃褐色ニシテ觸角及ヒ脚ハ淡黄色ヲ呈ス翅ハ殆ント無色透明ニシテ翅脈ニ沿ヒテ少シク黃赤色ヲ帶フ頭部ハ稍圓形ニシテ前端少シク尖リ細小ナル頸部ヲ以テ前胸

ニ接續セリ觸角ハ細長ニシテ十環節ヨリ成リ各環節ノ接合部細マリテ連珠狀ヲ呈シ各環節ニ幾多ノ細長ナル微毛ヲ生ス第十環節ニ三箇若クハ三箇以上ノ冠球毛ヲ生ス眼ハ三對ニシテ頭部ノ背面ニ二對ト腹面ニ一對トアリ稍紫色ヲ帶フ胸部ハ大ニシテ幅濶ク一對ノ翅ハ中胸部ノ側面ヨリ生シ静止スルトキハ之ヲ背上ニ疊ミ腹部末端ヨリ長シ後翅ハ退化シテ平均棍ヲ成ス腹部ハ九環節ヨリ成リ胸部ニ比シ幅狹ク略紡錘形ヲ成シ第八環節ヨリ一對ノ長キ蠟質ノ白毛狀纖維ヲ生ス尾端ニ四箇ノ肉質突起ヲ有シ其中央ヨリ交接器ヲ出セリ體長約一二耗翅開張約二五耗交接器長約〇二七耗アリ

卵 略橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈シ長約〇五耗アリ母蟲ノ分泌スル綿絮質ノ卵囊中ニ包藏セラレタリ一雌蟲ノ産卵數ハ三百粒内外ニシテ最少百九十餘粒最多三百七十餘粒ナリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈シ腹部ノ環節明ナリ口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ眼ハ小ニシテ紅色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ普通第六環節最モ長ク第五環節最モ短シ各環節特ニ第六環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス三對ノ脚ハ能ク發達シテ略同大ナリ跗節ト脛節トハ殆ント共ノ長ヲ同フス腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ頂點ニ一箇ノ長毛ヲ有ス

蛹及繭 繭ハ長橢圓形ニシテ背面稍隆起シ白色半透明ニシテ龜甲狀ノ隆起線ヲ有ス長約二耗アリ蛹ハ淡黃赤色ニシテ頭、胸及ヒ腹部ノ環節明ナリ腹端ニ三箇ノ突起ヲ有ス頭部ニアル三對ノ眼ハ赤紫色ヲ帶ヒ觸角ハ體側ニ横へ前脚ハ前方ニ中、後脚ハ後方ニ曲ケ翅痕ハ體側ノ稍、背面ニアリ體長約一二耗アリ

經過

年二回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ翌春ニ至リ成蟲ト成ル今農商務省農事試驗場ニ於ケル飼育經過ノ大要ヲ記スレハ

明治三十七年四月二十日	飼育ヲ始ム(幼蟲)
同	五月一日 蛹化(雄)
同	五月十日 羽化(雄)
同	六月一日 産卵
同	六月十七日 孵化
同	八月二日 蛹化(雄)
同	八月十六日 羽化(雄)
同	八月三十一日 産卵
同	九月十二日 孵化

本介殼蟲ハ柑橘栽培家ノ最モ恐ルル害蟲ノ一ニシテ卵ヨリ孵化シタル幼蟲カ漸次生育シテ成蟲トナルノ間及ヒ殊ニ雌蟲カ産卵スル前ニ至レハ盛ンニ甘液ヲ分泌スルヲ以テ爲メニ樹枝及ヒ綠葉ノ表面ヲ濕スニ至リ茲ニ煤病菌ノ孢子飛來スレハ直ニ發芽シテ繁殖蔓延シ遂ニ樹面葉上等ハ全ク黑色煤狀物ヲ以テ被ハルルニ至ル此ノ煤病ハ植物ノ生理作用ヲ障礙スルヲ以テ被害勸カラス斯ノ如ク本介殼蟲ハ白ラ口吻ヲ以テ植物ノ養液ヲ吸收シ以テ被害ヲ逞シウスルノミナラス一面ニハ亦煤病ヲ併發スルヲ以テ植物ニ及ホス害毒ハ普通介殼蟲ヨ

リハ一層甚シキモノト知ルヘシ天敵トシテハ有力ナル寄生蜂及ヒ瓢蟲アリテ大ニ之カ繁殖ヲ抑制シツツアリ又或地方ニ於テハ菌類ノ寄生ニ依リテ斃死スルモノ甚タ多ク往九十七パーセント以上ノ滅滅ヲ見ルコトアリ

被害植物

柑橘

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦原産ノ種ニシテ嘗テかこれ一る氏カ米國桑港ニ於ケル植物検査ノ際得タル標本ニ依リテ學界ニ公ニセラレタルモノニシテ往々本邦ヨリ輸出スル植物ト共ニ彼地ニ輸送セラレ當該官憲ノ嚴重ナル検査ニヨリ往々寄主植物ト共ニ燒却ノ難ニ遭フコトアリ

(十四) さかきのわたかひがらむし

柿綿介殼蟲

*Pulvinaria psidii* Mask.

形態

(第三圖版九一〇第六圖版一二乃至一五)

雌蟲 産卵前ハ體軀略、橢圓形ニシテ背面稍、腫起セルモ産卵終レハ縮少シテ横皺ヲ生シ  
腹端ハ卵囊ヲ以テ撐上セラル黄緑乃至黄褐色ニシテ背面ノ中央ニ暗褐ノ縦線アリ白色ノ蠟  
質物ヲ以テ裝フ卵囊ハ白色綿絮様蠟質ニシテ體ヨリモ長ク中央ニ不明瞭ナル縦走凹線アリ  
體長三五乃至五〇耗卵囊長約五乃至七耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ第四、五ノ兩環節ハ略、同長ニシ  
テ又之ニ次キ第七環節最モ短カシ口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ短シ脚ハ三對略、均シクシテ  
細長ナリ跗節ノ長ハ脛節ノ約二分ノ一ニ過キス體側ノ縁毛ハ短ク顯著ニシテ末端擴大シ且  
ツ數枝ニ分裂セリ體側ノ縊レハ甚タ深ク刺毛ハ三箇ニシテ太ク其ノ中央ニアルモノ甚タ大  
ニシテ少シク彎曲セリ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ稍、大ニシテ相接スルトキハ略、方形  
ヲ成シ通常底邊ハ外邊ニ比シテ少シク短シ

雄蟲 本邦ニ於テハ未タ之ヲ認メスト雖モ布哇ニテハ普通ナリト云フ

卵 橢圓形帶綠黄色ニシテ長〇、三耗アリ卵囊内ニ包藏セラル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ淡黄色扁平橢圓形ニシテ前種ニ似タリ

經過

未タ詳細ナル調査ヲ經スト雖モ年二回ノ發生ヲ營ミ幼蟲態ニテ越冬シ前種ト同シク煤病  
ヲ併發スルカ故ニ其ノ害ハ略、前種ト同様ナリトス

被害植物

柿 茶 柞 等

分布

本邦支那北米合衆國印度錫蘭布哇新西蘭等

因曰 本種ハみかんのわたかひがらむしニ似テ往々之ト混同スルコトアリト雖モ本種ノ  
縁毛ハ短ク且ツ三角板ノ相違ニヨリテ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

(十五) みかんのひめわたかひがらむし

蜜柑姫綿介殼蟲

*Pulvinaria citricola* Kuw.

(第七圖版一乃至三第八圖版一乃至五)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ背面稍、腫起シ淡綠黄色ニシテ背上ニ黄線ノ縦走スルアリ産卵  
ヲ終レハ皺ヲ生シ體縁ニ沿ヒテ暗色輪ヲ圍ラシ卵囊ハ白色ニシテ體ヨリ長ク中央ニ凹線ノ  
縦走スルアリ體長約三耗卵囊長四乃至七耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第七環節最モ短シ末環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス觸  
角式左ノ如シ

3, 4, (2, 8), (1, 5), 6, 7.

口部ハ能ク發達スレトモ小サク絲狀口器ハ短シ脚ハ短大ニシテ三對相似タリ跗節ノ長ハ



脛節ノ二分ノ一ニシテ爪ハ短ク少シク彎曲シ二對ノ冠球毛ハ前種ト略同シ體側ノ縁毛ハ長クシテ尖リ稀ニ分裂スルモノアリ體側ノ縱レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニア  
ルモノ殊ニ長シ腹端ノ罅隙ハ淺ク三角板ハ大ナリ内邊甚タ長ク底邊ト外邊トハ略同長ナリ  
頂點ニ數箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈シ長約〇・二八耗幅約〇・一七耗アリ白色ノ卵囊内ニ包藏セラ  
ル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ淡黄色ヲ呈シ扁平橢圓形ニシテ活潑ニ歩行ス長〇・三八耗幅〇・二  
四耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ雌蟲ハ五月中旬頃産卵ス殊ニ新梢ヲ好ミテ寄生ス  
ルノ傾アリ

被害植物

柑橘

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦ノ原産ニシテ久シクみかんのわたかひがらむしト混同セラレ居リシ  
カ静岡縣立農事試験場岡田技師及ヒ岡山縣立農事試験場松本技手ヨリ照會アリ精調

ノ結果新種ナルコトヲ明ニセリ該蟲ハ青酸瓦斯ニ對シみかんのわたかひがらむしヨ  
リ一層強キモノノ如シ

(十六) うしろろしのわたかひがらむし

老葉兒樹綿介殼蟲

*Pulvinaria pholiniae* Kuw.

(第七圖版四、五第八圖版六乃至一一)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ背面腫起シ暗灰色ニシテ背面ニ黄色ノ縦線アリ多少白色綿質  
ノ粉ヲ裝ヒ卵囊ハ長形ニシテ顯著ナル二箇ノ隆起線及ヒ幾多ノ淺キ横線アリ體長約五耗幅  
三耗卵囊長六乃至九耗内外アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ通常第三環節最モ長シト雖モ時ニ第三、四ノ兩環節略同長ナルコト  
アリ第七環節最モ短ク觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 4, 2, (5, 8), 1, 6, 7.

3, 4, (2, 8), (5, 1), 6, 7.

口部ハ能ク發達セルモ小ニシテ絲狀口器ハ短シ三對ノ脚ハ相似テ短大ナリ跗節ハ脛節ノ  
約二分ノ一アリ爪ハ大ニシテ彎曲シ冠球毛ハ前種ニ似タリ體側ノ縁毛ハ短クシテ尖レリ體

側ノ縊レハ淺ク三箇ノ刺毛ヲ有シ其ノ中央ノ一箇ハ長ク他ノ二箇ハ縁毛ヨリモ短シ三角板ハ大ニシテ底邊ハ外邊ト略均シク底邊ハ稍凹入シ頂點ニ近ク五箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形ニシテ淡黃色ヲ呈ス長〇.二七耗アリ卵囊内ニ包藏セラル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ淡黃色ヲ呈シ眼ハ暗紫色ヲ帶フ體長約〇.三〇耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ翌年五月頃ニ至リ雌蟲ハ産卵ヲ始ム

被害植物

榎老葉兒樹

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦ノ原産ナリ

(十七) いいぎりのわたかひがらむし

椅綿介殼蟲

*Pulvinaria idesia* Kuw.

(第七圖版六、七第八圖版一二乃至一六)

形態

雌蟲 略圓形又ハ橢圓形ニシテ暗綠色ニ淡黃色ノ斑紋アリ背面稍腫起シ産卵ヲ終レハ縮少シテ横皺ヲ生ス卵囊ハ白色ニシテ略體ト同長ナリ中央ニ縦走セル凹溝アリ且幾多ノ横線ヲ有ス體長四乃至七耗卵囊長四乃至六耗アリ

觸角ハ普通八環節ヨリ成レトモ往々七環節ナルモノアリ第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ第七環節最モ短シ各環節特ニ末環節ニ數多ノ長毛ヲ生ス觸角式ノ四例左ノ如シ

3, (2, 4), 5, 8, 6, (7, 1),

3, 2, 4, 5, (6, 8), 1, 7,

3, 2, (4, 5), (6, 8), 1, 7,

3, 2, 4, 5, 6, 7, 1,

口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ稍長シ脚ハ短ク三對相似テ基節ノ幅ハ長ヨリ濶ク跗節ハ脛節ノ二分ノ一ニ滿タス爪ハ短大ニシテ冠球毛ハ顯著ナリ體側ノ縁毛ハ短クシテ尖リ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ノ一箇甚タ大ナリ三角板ハ大ニシテ内邊甚タ長ク底邊ト外邊トハ略同シク頂點ハ鈍ク數箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形ニシテ淡黃色ヲ呈ス長約〇.三五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ淡黃色ヲ呈シ眼ハ赤色ヲ帶フ觸角ハ六環節ヨ

リ成リ末環節ニ數箇ノ長毛ヲ有ス體長〇・二〇耗幅〇・一一耗アリ

經過

未タ年中ノ經過ヲ明ニセスト雖モ幼蟲態ニテ越冬シ雌蟲ハ翌年五月頃産卵ス主ニ枝幹部ニ寄生ス

被害植物

椅黃蘗

分布

本邦

因曰 本邦ノ原産ニシテ農商務省農事試驗場内ノ椅及ヒ黃蘗ニ寄生セルモノヲ認メタルノ外未タ他ニ之カ發生ヲ見スもみぢのわたかひがらむしニ類似スルモ形小ナリ

(十八) もみぢのわたかひがらむし

楓槭綿介殼蟲

*Pulvinaria horii* Kuw.

(第七圖版八第一〇圖版一乃至四)

形態

雌蟲 體軀ハ略扁平圓形ニシテ背面稍腫起シ地色ハ灰白ニシテ之ニ暗黑色ノ斑紋ヲ散在

シ背皮ハ強厚ニシテ中央ヲ縱走セル隆起線アリコレヨリ左右ニ數箇ノ隆起線ヲ横出シ一見龜甲狀ヲ成ス腹端ノ罅隙ハ稍深シ卵囊ハ普通體ヨリ短ク白色綿絮質ニシテ縱ニ數條ノ深溝ト幾多ノ淺溝トヲ有ス本邦ニ産スル本屬中最大ノ種ニシテ體長約九耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ比較的小ニシテ普通第二環節最モ長ク第三、四、五環節之ニ次キ第一環節最モ短シ各環節特ニ末環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス口部ハ小ニシテ絲狀口器ハ短シ脚ハ能ク發達セルモ小ニシテ三對略同大ナリ跗節ハ脛節ニ比シ甚タ短ク爪ハ短大ニシテ少シク彎曲セリ冠球毛ハ四箇アリ其ノ跗節ノ末端ニアル一對ハ細長ニシテ爪ノ基部ニアル一對ハ短大ナリ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ太キ刺毛ヲ有ス其ノ中央ニアル一箇ハ他ノ二箇ヨリモ甚タ長シ體側ノ縁毛ハ短ク三角板ハ小ニシテ二箇相接スル時ハ略圓形ヲ成ス

雄蟲 體軀ハ黃赤色ニシテ觸角及ヒ脚ハ淡黃色ヲ呈シ翅ハ無色透明ニシテ翅脈ニ沿ヒテ淡紅色ヲ帶フ頭部ハ小ニシテ略圓形ナルモ前端稍尖レリ眼ハ三對ニシテ頭部ノ兩側ニ一對腹面ニ二對アリ觸角ハ九環節ヨリ成リ長約〇・九耗アリ第一、二、三環節ハ他ノ環節ニ比シテ短ク各環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス第九環節ニ數箇ノ冠球毛ヲ有ス胸部ハ能ク發達シ腹部ヨリモ幅濶ク翅ハ之ヲ背上ニ疊ムトキハ腹部末端ノ交接器ヨリ僅カニ長ク二箇ノ翅脈アリ後翅ハ退化シテ平均棍ヲ成セリ三對ノ脚ハ相似テ跗節ハ脛節ノ約三分ノ一ニ過キス腹部ハ紡錘狀ニシテ末端ニ四箇ノ肉質突起ヲ有シ其ノ中央ニ交接器ヲ有ス體長約一・二五耗翅開張三耗交接器長〇・二五耗アリ

卵 橢圓形ニシテ放産當時ハ淡黃色ヲ帶フルモ孵化前約一週間ニ至レハ漸次橙黃色ニ變

シ孵化期ニ至レハ紫赤色トナル長約〇.四四耗幅〇.二五耗アリ一母蟲ノ産卵數ハ多キハ六百八十四粒少キハ三百七十五粒ニシテ五頭ノ平均四百二十六粒ナリ

幼蟲 體軀ハ扁平橢圓形ニシテ腹端ニ向ヒテ少シク狭マリタリ淡紫赤色ヲ呈シ頭胸腹ノ三部ハ判然セスト雖モ腹部ノ環節ハ明ナリ一對ノ眼ハ小ニシテ紅色ヲ帯ヒ觸角ハ比較的大ニシテ普通七環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第七環節之ニ次キ第一環節最モ短シ第七環節ニハ幾多ノ長毛ヲ有ス口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ三對ノ脚ハ能ク發達シ跗節ハ脛節ヨリ短ク末端ノ爪ハ大ナリ二對ノ冠球毛ハ顯著ナリ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ頂點ヨリ一箇ノ長毛ヲ生ス長約〇.五四耗幅〇.二四耗アリ

蛹及繭 繭ハ長橢圓形ニシテ薄ク白色半透明ナリ背面ニ縱走セル隆起線及ヒ横線アリテ龜甲狀ヲ成ス長約二耗幅一耗アリ蛹ハ赤褐色ヲ呈ス頭部ハ小ニシテ觸角ハ細長ク體側ニ沿ヒテ末端ハ翅ノ基部ニ接セリ胸部ハ肥大ニシテ幅潤ク翅痕ハ腹部第三環節ニ達シ脚ハ細長ク一對ハ前方ニ他ノ二對ハ後方ニ向ヘリ腹部ハ略圓錐形ニシテ末端ニ三箇ノ肉質突起ヲ有ス體長約一.五耗幅〇.六耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ東京附近ニ於テハ八月中旬頃交尾セシ雌蟲ハ其ノ儘越冬シ翌春四月下旬頃ニ至リ體軀著シク肥大トナリ其ノ後部ノ下面ニ産卵ヲ始ム之ト同時ニ白色綿絮狀ノ蠟質物ヲ分泌シ以テ卵囊ヲ營ムモノナレハ其ノ卵囊ノ増大スルニ從ヒ蟲體ハ漸次樹面ト相離ルルニ至ル全ク産卵ヲ終ル頃ニ至レハ之ニ數條ノ縱裂ヲ生ス

被害植物

楓槭赤楊梨萃樹椎檜樺等

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦原産ノ介殼蟲ニシテ各地ニ之カ發生ヲ見ル地方ニヨリテハ梨園ノ害蟲トシテ知ラレタリ

(十九) くはのわたかひがらむし

桑綿介殼蟲

*Pulvinaria kuwaecola* Kuw.

(第九圖版一.二第一〇圖版五乃至九)

形態

雌蟲 體軀ハ擴楕圓形ニシテ桑葉ノ裏面ニ附著シ淡黄色ヲ呈シ(往々紫褐色ナルヲ見ルハ多ク寄生蜂ニ侵サレタルモノノ如シ)産卵ヲ終リタルモノハ縮少シテ横皺ヲ生ス卵囊ハ白色ニシテ體ヨリ長ク背面ニ凹線ノ縱走スルアリ體長約七耗幅四耗卵囊長約十耗アリ(著者カ本種ヲ始メテ學界ニ紹介セシトキノ記載中ニ卵囊ハ甚タ短シ卵囊長三耗トアルハ蓋シ該蟲カ寄生蜂ニ侵サレ未タ充分産卵ヲ終ラサル前ニ斃死セルモノニ就キ記載セルモノト知ルヘシ)

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三、四ノ兩環節ハ略、同長ニシテ最モ長ク第二環節コレニ次キ第七環節最モ短シ末環節ニ數箇ノ長毛ヲ有ス口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ長カラス脚ハ三對殆ント同大ニシテ附節ハ脛節ノ約二分ノ一アリ體側ノ緣毛ハ尖リ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアル一箇ハ他ノ二箇ヨリ遙ニ長シ三角板ハ小ニシテ底邊ト外邊トハ略、同長ナリ頂點ニ數箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形淡黃色ニシテ長約〇・二五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ帶紅淡黃色ヲ呈ス

經過

年一回ノ發生ヲ營ムカ如シト雖モ未タ之カ精査ヲ缺ク雌蟲ハ五月頃産卵ス幼蟲ハ主ニ桑葉ノ裏面ニ寄生スルノ傾アリ

被害植物

桑

分布

本邦

因曰 該蟲ハ本邦ノ原産ニシテ東京府下ニ於テ普通ニ之ヲ見ル

(二十) つばきのわたかひがらむし

椿綿介殼蟲

*Pulvinaria camelicola* Sign.

(第九圖版三第一〇圖版一〇乃至一四)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平橢圓形ニシテ背面稍、腫起シ淡黃乃至暗紫褐色ヲ呈シ産卵期ニ近ケハ背面ニ白色綿絮様ノ蠟質物ヲ以テ裝フ産卵ヲ終ルトキハ體軀大ニ縮少シ且ツ幾多ノ横皺ヲ生ス卵囊ハ白色蠟質ニテ體ヨリモ長ク群棲スルトキハ相接著シテ綿塊狀ヲ呈スルコトアリ體長約二乃至三耗幅一・五乃至二耗卵囊長五乃至一一耗アリ

觸角ハ普通八環節ヨリ成リ往、七環節ノモノアルヲ見ル其ノ八環節ヨリ成レルモノハ第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ第四、五、八環節之ニ次キ第一、六、七、七環節ハ略、同長ニシテ最モ短シ第二、五ノ兩環節ニハ短長各一箇ノ細毛ヲ生シ又第六、七ノ兩環節ニハ各一箇ノ短毛ヲ第八環節ニハ數箇ノ長毛ヲ生ス脚ハ能ク發達シ三對略、相似タリ基節ニ數箇ノ細毛ヲ生シ轉節ニ一箇ノ甚タ長キ細毛アリ又腿節、脛節及ヒ跗節ニ數箇ノ刺毛アリ爪ハ大ニシテ彎曲セリ冠球毛ハ二對ニシテ其ノ跗節ノ末端ニアルモノハ細長ナルモ爪ノ基部ニアルモノハ短大ナリ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛アリ其ノ中央ノ一箇ハ殊ニ長ク他ノ二箇ノ約二倍アリ體側ノ緣毛ハ細長ニシテ末端尖レリ一對ノ三角板ハ小ニシテ外邊ハ底邊ヨリ少シク長ク

頂點ニ近ク三箇ノ刺毛アリ

四六

雄蟲 本邦ニ於テハ未タ之ヲ發見セスト雖モどぐら氏ニ依レハ頭、胸腹部及ヒ觸角ハ黃色ヲ呈シ觸角ニ多數ノ細毛ヲ生スト云フ

卵 赤褐色橢圓形ニシテ長約〇.三〇耗アリ白色ノ卵囊ヲ以テ包マレタリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ赤褐色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ三角板ハ大ニシテ頂點ニ一箇ノ長毛ヲ生ス體長約〇.五〇耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ翌年六月頃ニ至リ成蟲トナリ直ニ雌蟲ハ産卵ヲ始ム多ク枝幹ノ下面ニ群息シ煤病ヲ併發スルコトアリ

被害植物

柳冬青椿等

分布

本邦歐洲北米合衆國濠洲印度新西蘭

因曰 本邦ニテハ主ニ柳及ヒ冬青ニ寄生スルモ椿ニハ之ヲ見ス東京附近ニテハ特ニ被害甚シキモノアリ年々上野公園ニ發生シテ煤病ヲ併發シ大ニ其ノ美觀ヲ損ス南部歐洲ニ於テハ野外ニ發生スルモ其ノ他ニ於テハ溫室内ノミニ發生スト云フ又佛國ニテハ椿ニ大害アリ本邦ヨリ輸入セルモノノ如ク云ヘリ

## (二十一) やなぎのわたかひがらむし

柳綿介殼蟲

*Pulvinaria cyanae* Kuw.

(第九圖版四、五第一一圖版一乃至六)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ暗褐色ヲ呈シ背面稍腫起シ數多ノ横皺ヲ有ス卵囊ハ白色綿絮狀蠟質物ヨリ成リ縱走セル淺溝アリ發生多キ時ハ相接觸シテ卵囊ノ形ヲ失フコトアリ體長五乃至七耗幅四乃至五耗卵囊長約五耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ通常第三環節最モ長ク第一環節最モ短シ各環節特ニ第八環節ニ數多ノ長毛ヲ有ス觸角式左ノ如シ

3, (2) 4, 5, 8, 7, 6, 1.

口部ハ能ク發達スレトモ大ナラス三對ノ脚ハ相似テ跗節ハ脛節ヨリ短ク爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ二對ノ冠球毛ハ顯著ナリ其ノ爪ノ基部ニアルモノハ短大ニシテ跗節ノ末端ニアルモノハ細長ナリ體側ノ縁毛ハ顯著ニシテ末端尖レリ體側ノ縫レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛アリ其ノ中央ニアル一箇甚タ長シ三角板ハ小ニシテ底邊ト外邊トハ略同長ナリ頂點ニ近ク數箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 體軀ハ淡褐色ニシテ胸部稍濃色ヲ呈シ脚及ヒ觸角ハ淡色ナリ翅ハ無色透明ニシテ

翅脈ニ沿ヒテ紅色ヲ帶フ頭部ハ略圓形ニシテ前端少シク尖リ細頸ヲ以テ胸部ニ接續ス三對ノ眼ヲ有シ其ノ二對ハ背面ニ他ノ一對ハ腹面ニアリ暗紫色ヲ呈ス觸角ハ體ヨリ短ク十環節ヨリ成リ第十環節ニ三箇ノ冠球毛ヲ有ス翅ハ之ヲ疊ムトキハ體ヨリ長ク二條ニ分岐セル一翅脈ヲ有ス腹部ハ細長ニシテ九環節ヨリ成リ第八環節ノ兩側ヨリ一箇ノ長キ蠟質白毛狀纖維ヲ生ス腹端ニ二箇ノ肉質突起アリ交接器ハ長ク且ツ太シ體長約一・五耗翅開張三耗交接器長〇・五耗アリ

卵 長橢圓形淡橙黃色ニシテ長約〇・三〇耗幅〇・一六耗アリ白色綿絮質ノ卵囊中ニ包藏セラル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ橙黃色ヲ呈ス腹部ノ環節判然ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第六環節之ニ次キ第四環節最モ短シ眼ハ紫色ヲ呈ス脚ハ三對殆ント同大ニシテ跗節ハ脛節ニ比シ甚タ短シ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ一箇ノ長毛ヲ有ス體長約〇・三〇耗幅〇・一八耗アリ

蛹及繭 繭ハ長橢圓形ニシテ背面少シク隆起シ灰白色ニシテ龜甲状ノ隆起線ヲ有ス成蟲羽化前ニ至レハ後端ヨリ二箇ノ白色長毛狀ノ纖維ヲ出ス蛹ハ長形ニシテ兩端尖リ雄ト略同色ナリ

經過

年一回ノ發生ニシテ越冬セル雌蟲ハ翌年六月ニ至リテ産卵ス農商務省農事試驗場ニ於ケル飼育ノ結果左ノ如シ

明治三十九年六月二日 飼育ヲ始ム(卵)

同 六月十日 孵化

同 九月十日 蛹化(雄)

同 九月二十日 羽化(雄)

雄蟲ハ好シテ小枝ニ群棲シ雌蟲ハ大ナル枝幹ニモ附着スルコトアリ雄蟲ノ數ハ雌蟲ニ比シ遙ニ多數ナリ雌蟲ハ産卵前ニ至レハ少シク移動スルモノニシテ盛ニ甘露ヲ分泌スルカ故ニ煤病ヲ併發セシムルコトアリ又蟻類ノ甘露ヲ得ンカ爲メニ集マルモノアリ

被害植物

柳赤楊ぼぶら等

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ歐米諸國ニ發生スル葡萄綿介殼蟲ニ類似セリ

(二十二) おきつわたかひがらむし

興津綿介殼蟲

*Palvaria okitsuensis* Kuw.

(第九圖版六乃至八第一一圖版七乃至一一)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ背面稍腫起セリ檸檬色ニシテ少シク白色蠟質ノ粉ヲ裝フ背皮ハ柔軟ニシテ産卵ヲ終ルトキハ縮少シテ横皺ヲ生ス卵囊ハ細長ク往少シク彎曲セリ體長二乃至三耗幅二耗卵囊長五乃至九耗アリ

觸角ハ七又ハ八環節ヨリ成ルモ八環節ヲ普通トス其ノ七環節ノモノニアリテハ第四環節最モ長ク八環節ノモノニアリテハ第三環節最モ長シ各環節特ニ末環節ニ數多ノ長毛ヲ有ス觸角式ノ二例左ノ如シ

4, 3, 2, 7, 1, 5, 6,  
3, 2, 8, 4, 5, (6, 7, 1).

口部ハ小ニシテ絲狀口器ハ短シ脚ハ三對相似テ跗節ノ長ハ脛節ノ約二分ノ一アリ爪ハ短大ニシテ彎曲シ冠球毛ハ二對アリ其ノ跗節ノ末端ニアルモノハ稍短ク爪ノ基部ニアルモノハ甚タ短シ體側ノ縁毛ハ顯著ニシテ末端少シク擴大セルモノ分裂セルモノ及ヒ尖レルモノ等相混セリ體側ノ縊レハ深ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有ス其ノ中央ニアルモノハ甚タ長ク他ノ二箇ハ縁毛ヨリモ短シ背皮ニ不規則ノ圓形又ハ橢圓形ノ斑紋ヲ有ス三角板ハ小ニシテ二箇相接スルトキハ略方形ナリ底邊ハ外邊ト略同長ニシテ頂點ニ數箇ノ刺毛ヲ生シ且ツ中央ニ二箇ノ顯著ナル刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 長橢圓形ニシテ白色ナリ長約〇・二七耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ略橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長シ體長約〇・三耗アリ

經過

未タ精査ヲ缺クモ雌蟲ハ五月頃ヨリ産卵ヲ始ム多ク柑橘ノ新梢及ヒ嫩葉ニ寄生ス  
被害植物

柑橘

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦ノ原産ニシテ著者カ明治四十五年五月静岡縣下興津町附近ノ柑橘園ニテ始メテ採集シタルモノニシテ其ノ採集地名ヲ以テ該種名ト爲セリ

(二十三) ながわたかひがらむし

長綿介殼蟲

*Pulvinaria hazae* Kuw.

(第一一圖版一二乃至一四)

形態

雌蟲 卵囊ハ白色綿絮様蠟質ニシテ甚タ長シ體軀ハ扁平橢圓形ニシテ褐色ヲ呈シ産卵ヲ



終ルトキハ卵囊ノ一端ニ附著シ横皺多シ體長約六耗卵囊長三七耗以上ニ達ス

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第一環節最モ短シ第五六七及八環節ハ略同長ナリ各環節特ニ第八環節ニ數多ノ長毛ヲ生ス觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 2, 4, 8, (5, 6), 7, 1.  
3, 4, 2, 5, 8, (6, 7), 1.

口部ハ能ク發達セリ脚ハ三對相似タルモ前脚ハ中後脚ニ比シテ少シク短シ附節ハ脛節ノ約三分ノ一ニ過キス爪ハ大ナラスシテ少シク彎曲ス冠球毛ハ二對ニシテ前種ト大差ナシ三角板ハ大ニシテ頂點ニ近ク三箇以上ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲態ニテ越冬シ雌蟲ハ六月中旬頃産卵ス

被害植物

榎

分布

本邦

因曰 本邦ノ原産ニシテ卵囊最長ノ種ナリトス

### たかはしあ屬

Genus Takahashia

特徴

雌蟲 體軀ノ構成ハぶるぶるなりあ屬ニ酷似スト雖モ卵囊ノ形狀ニ於テ大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ即チ本屬ノモノハ卵囊普通甚タ長ク寄主植物ヨリ離レテ突出シ紐狀ヲ成ス産卵ヲ終ルトキハ母體ハ卵囊ノ一端ニ附著スルカ又ハ之ヲ戴ケリ  
雄蟲及繭 ぶるぶるなりあ屬又ハれかにうむ屬ニ似タリ

### (二十四) みかんのひもわたかひがらむし

柑橘紐綿介殼蟲

Takahashia citricola Kuw.

(第一二圖版一、二 第一三圖版一乃至六)

形態

雌蟲 體軀ハ半球形ニシテ橙赤色ヲ呈シ背面ノ中央部少シク暗色ヲ呈ス産卵ヲ終リタルトキハ背面ニ皺ヲ生シ卵囊ノ一端ニ體ヲ載ス直徑約四耗アリ  
觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ第四八ノ兩環節又之ニ次キ第

六、七ノ兩環節ハ略同長ニシテ最モ短ク末端ノ數環節ニ特ニ數多ノ長毛ヲ生ス觸角式左ノ如シ

3, 2, (4, 5, 8), 1, (7, 6).

脚ハ能ク發達シ三對相似タリ脛節ハ跗節ノ約二倍アリ爪ハ大ニシテ少シク彎曲ス二對ノ冠球毛ハ顯著ナリ體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ大ナル刺毛ヲ有シ其ノ中央ニアル一箇甚タ長ク他ノ二箇ハ縁毛ヨリ短シ縁毛ハ顯著ニシテ末端尖レリ腹端ノ罅隙ハ稍深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ底邊ト外邊トハ略同長ナルモ底邊僅カニ短ク外角ハ鈍ニシテ内邊ノ中央以下ニ一箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形紫赤色ニシテ長約〇.三〇耗幅〇.一三耗アリ

幼蟲 扁平橢圓形ニシテ淡紫赤色ヲ呈ス觸角ト脚トハ殆ント無色ナリ體長〇.三三耗幅〇.一八耗アリ

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ精査ヲ缺ク雌蟲ハ葉ノ裏面ニ寄生スルコト多クシテ五、六月ノ交産卵ス

被害植物

柑橘其他

分布

本邦

因曰 該蟲ハ本邦原産ノ種ニシテ九州各地及ヒ和歌山、靜岡兩縣下ノ柑橘園ニ於テ之ヲ見ルコト稀レナラス又東京市内ノ觀賞植物ニ寄生スルコトアリ未タ發生尠ケレハ大害ヲ爲スニ至ラス

(二十五) ひもわたかひがらむし

紐綿介殼蟲

*Takahashia japonica* OHL.

(第一二圖版三、四第一三圖版七乃至一四)

形態

雌蟲 體軀ハ擴椭圆形肥大ニシテ腹端ノ罅隙ハ顯著ナリ黃白色ヲ帶ヒ暗褐色ノ斑點散在シ且ツ背面ノ中央ヲ縱走セル橙赤色線アリ産卵ヲ終レハ暗褐色ニ變ス卵囊ハ甚タ長ク白色紐狀ノ環ヲ形成ス體長約八耗アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク其ノ他ノ環節ハ遙ニ短クシテ殆ント同長ナリ觸角式左ノ如シ

3, 7, 2, 5, 1, 4, 6.

脚ハ三對相似テ小ナリ脛節ハ脛節ヨリ短ク跗節ハ脛節ノ約二分ノ一アリ爪ハ細長ニシテ少

シク彎曲セリ體側ノ縁毛ハ短クシテ尖レリ腹端ノ罅隙ハ淺ク三角板ハ小ニシテ外角鈍ク頂點ニ近ク數箇ノ刺毛ヲ有ス

**雄蟲** 體軀ハ細長ク黄色ニシテ胸部ハ稍濃色ヲ呈ス頭部ハ略圓形ニシテ前端少シク尖リ頸ハ小ナリ眼ハ三對ニシテ觸角ハ十環節ヨリ成リ幾多ノ長毛ヲ有ス翅ハ大ニシテ背上ニ疊ムトキハ交接器ヨリ長シ後胸ノ横板ハ大ニシテ後板ハ狭ク脚ハ細長ニシテ跗節ハ脛節ノ二分ノ一ニ滿タス脛節ノ末端ノ内側ニ一箇ノ刺毛ヲ有ス腹部ハ略圓錐形ニシテ尾端ニ二箇ノ肉質突起ト二箇ノ刺毛トヲ有ス交接器ハ大ニシテ長ク尖端鈍レリ體長約一二耗翅開張二九耗交接器長〇二六耗アリ

**卵** 橢圓形ニシテ黄色ヲ呈シ長約〇三七耗アリ卵囊内ニ包藏セラルル雌蟲ノ産卵數ハ一様ナラスト雖モ多キハ三千粒以上ニ達ス

**幼蟲** 孵化當時ノ幼蟲ハ淡黄赤色ニシテ略橢圓形ナリ腹部ノ環節判然シ尾端ノ罅隙ハ稍深ク三角板ハ大ニシテ頂點ニ一箇ノ長毛ヲ有ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第六環節之ニ次ク各環節殊ニ末環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ三對ノ脚ハ略同大ニシテ能ク發達セリ

**蛹及繭** 繭ハ長橢圓形灰白色半透明ニシテ背面ノ龜甲状隆起ハ明瞭ナラス長約二耗アリ蛹ハ略橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈ス觸角及ヒ翅痕並ニ脚ハ細長ク尾端ノ肉質突起ト交接器トハ殆ント同長ニシテ末端尖レリ體長約一五耗アリ

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノニシテ幼蟲態ニテ越冬シ翌年四五月ノ交雄蟲羽化シ雌蟲ハ五月下旬頃ヨリ産卵ヲ始ム卵ハ六月中旬頃ニ至リテ孵化ス孵化當時ノ幼蟲ハ頗ル活潑ニシテ寄主ノ枝梢葉面等ヲ匍匐シ多ク葉裏ニ至リ葉脈ニ沿ヒテ回所ニ止マリ茲ニ口器ヲ挿入シ以テ養液ヲ吸收ス九月ノ交ニ至レハ落葉ニ先キ葉裏ヲ辭シ枝幹ニ下リテ越冬ス春期産卵前ニ至リ雌蟲ノ背面ニ幾多ノ小孔アルヲ見ル是レ寄生蜂ニ斃サレタルモノニシテ其ノ小孔ハ該蜂ノ逸出セル痕跡ナリト知ルヘシ

被害植物

桑榎萩合歡柳樺等

分布

本邦

因曰 該種ハ本邦ノ原産ニシテ諸外國ニ於テハ未タ之カ發生ヲ認メス

りくてんしあ屬

Genus *Lichtensia*

特徴

雌蟲 裸體ニシテ産卵期ニ至ル迄多少活動ス(扁平介殼蟲ニ似タリ)産卵前ニ至レハ雌蟲ハ白色蠟質物ヲ以テ體軀ヲ被覆シ僅ニ其ノ前端ノ一部ヲ露出ス之レ即チ本屬ノ特徴ニシテ觸角及ヒ脚ハ能ク發達セリ

雄蟲 前屬ニ似テ二箇ノ長キ蠟質ノ白毛狀纖維ヲ有ス眼ハ四對ニシテ其ノ二對ハ腹面ニ他ノ二對ハ背面ニアリ

繭 透明硝子狀ニシテ龜甲状ノ隆起線ヲ有ス

本屬ハ僅ニ七八種ヨリ成リ多ク熱帶地方ノ産ニシテ本邦ニ産スルモノハ左ノ一種ニ過キス

(二十六) つばきのわたかひがらもどき

椿擬綿介殼蟲

*Lichtensia japonica* Knw.

第一二圖版五乃至七 第一四圖版一乃至八

形態

雌蟲 産卵前ノ雌蟲ハ橢圓形ニシテ淡黃褐色ヲ呈シ背面ニ不規則ナル褐色縱斑アリ背面ノ中央ニ蠟質ノ細線ノ縱走スルアリ産卵期ニ至レハ白色蠟質物ヲ以テ殆ント全體ヲ被ヒ僅ニ其ノ前端ヲ露出ス或ハ全クコレヲ被覆シ卵囊ヲ其ノ後端ニ附ス故ニ全體細長ナル卵囊ノ如ク見ユ背面隆起シ前方ニ向ヒテ少シク幅狭ク體軀ノ背上ニ相當スル前方ノ一半ニ數箇ノ隆起線縱走シ後方ノ一半即チ卵囊部ハ之ヲ缺如ス又前端ノ左右ヨリ二條ノ長キ白色蠟線ヲ出ス被覆卵囊共長七乃至九耗體長三乃至四耗幅二乃至三耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第四環節之ニ次キ第二環節又之ニ次ク第一環節最モ短シ時ニ第八環節ノ反テ第二環節ヨリモ長キコトアリ末端ノ數環節ニ數多ノ長毛ヲ有ス觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 4, 2, 8, 5, 6, 7, 1.

3, 4, 8, 2, 5, 6, 7, 1.

三對ノ脚ハ略均シク轉節ハ大ニシテ一箇ノ長毛及ヒ數箇ノ短毛ヲ有ス脛節ハ跗節ニ比シ甚タ長ク跗節ノ冠球毛ハ細長ナルモ其ノ爪ニアルモノハ短大ニシテ棍棒狀ヲ成ス爪ハ短大ニシテ少シク彎曲セリ體側ノ縊レハ稍深ク三箇或ハ四箇ノ大ナル刺毛アリ其ノ中央ニアル一箇ハ殊ニ長大ナリ體側ノ縁毛ハ顯著ニシテ末端尖リ刺狀ヲ呈ス三角板ハ大ニシテ底邊及ヒ外邊ハ突出シ頂點ニ三乃至四箇外邊ニ二箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 椭圆形ニシテ淡黄色ヲ呈ス長約〇・二五耗アリ  
幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長椭圆形ニシテ口部甚タ大ナリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節  
最モ長ク第二環節最モ短シ脛節ト跗節トハ殆ント同長ナリ三角板ハ大ニシテ頂點ニ一箇ノ  
長毛ヲ有ス體長約〇・三耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ雌蟲ハ五月頃産卵ス主ニ葉ノ裏面ニ附著シ甘液ヲ分泌ス故ニ煤病ヲ  
併發セシムルコトアリ

被害植物

椿冬青

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦原産ノモノニシテ東京附近ニ普通ナリ

ゑりせるす屬

Genus Ericerus

特徴

雌蟲 老熟セル雌蟲ノ體軀ハ略球形ニシテ五倍子狀ヲ成ス腹端ノ罅隙ハ深シ

雄蟲 れかにうむ屬ト異ナリ幼蟲ハ多ク一箇所ニ群棲シ多量ニ白色蠟質物ヲ分泌シ其ノ

内ニ蛹化ス

本屬ハれかにうむ屬ト類縁最モ近シ雄ノ幼蟲カ蠟質物ヲ分泌シテ其ノ内ニ蛹化スル特性  
ニ依リテ之ヲれかにうむ屬ト區別シ得ルモノニシテ雌蟲ノ形態ニ至リテハ殆ント之ヲ區別  
スルコト能ハス

(二十七) いぼたかひがらむし

水蠟樹介殼蟲

*Ericerus pe-la* Chav.

(第一二圖版八第一四圖版九乃至一三)

形態

雌蟲 受胎後體軀ハ著シク膨大シ略球狀トナリ暗赤褐色ヲ呈ス寄主植物ニ附著セル腹面

ハ扁平ニシテ淡褐色ヲナス多數群接スル時ハ其ノ形態稍不規則トナル最大ノモノハ直徑約  
一一耗高九耗アリ

觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ第六環節亦之ニ次ク觸角式左  
ノ如シ

3, 2, 6, (5, 4), 1.

脚ハ三對相似テ小ナリ轉節ハ比較的大ニシテ腿節ハ脛節ヨリ僅ニ長ク跗節ハ脛節ノ二分  
ノ一ニ過キス體側ノ縊レハ淺ク三箇ノ略同大ナル刺毛ヲ有シ體側ノ縁毛ハ大ニシテ刺狀ヲ  
呈ス三角板ハ稍小ニシテ二箇相接スルトキハ略圓形ヲナス

雄蟲 體軀ハ細長ニシテ胸部ノ幅最モ濶ク腹端ニ至リテ漸次狹マレリ頭部ハ略三角狀ニ  
シテ橙黄色ヲ呈シ背面ノ中央ニ赤褐縱線アリ其ノ左右ニ同色ノ斑紋アリ眼ハ五對ニシテ黒  
色ヲ呈シ圓形ノモノト橢圓形ノモノトアリ

觸角ハ十環節ヨリ成リ各環節ニ幾多ノ長毛ヲ有シ基部ノ二環節ハ甚タ短ク第十環節ノ末  
端ニ三箇ノ冠球毛ヲ有ス翅ハ大ニシテ背上ニ疊ムトキハ交接器ヨリ長ク前縁ニ沿フテ淡褐  
色ヲ帯ヘリ後翅ハ棍棒狀ニシテ一箇ノ大ナル鈎狀附器ヲ備フ脚ハ比較的大ニシテ淡褐色ヲ  
呈シ幾多ノ長毛ヲ有ス脛節ハ腿節ノ約二倍アリ腹部ハ略淡綠褐色ニシテ交接器ハ短ク尖レ  
リ二箇ノ蠟質白毛狀纖維ヲ有ス體長約三耗翅開張五耗アリ

卵 長橢圓形淡黄色ニシテ長約〇・四三耗アリ一雌ノ産卵數ハ千ヲ以テ算フヘク其ノ産下  
セラレタル卵ハ皆ナ母蟲ノ腹面下ニ重積セラル而シテ卵ヲ多ク産出スルニ從ヒテ腹皮ハ次

第二回ミ遂ニ背皮ノ裏面ト相接著シ卵ヲ保護スル被覆物トナル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平長橢圓形ニシテ淡橙黄色ヲ呈シ體軀ノ環節判然セリ觸角ハ  
短クシテ六環節ヨリ成リ眼ハ一對ニシテ赤褐色ヲ呈ス三對ノ脚ハ略同大ニシテ脛節ト腿節  
トハ殆ント同長ナリ腹端ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ大ニシテ其ノ頂點ヨリ一箇ノ長毛ヲ  
生ス體長〇・六一耗幅〇・三耗アリ

未熟ノ雌蟲ハ扁平橢圓形ニシテ黄綠色ヲ呈シ左右平等ニ暗褐斑紋ヲ有ス此斑紋ニハ密ニ  
小孔ヲ穿テリ眼ハ濃褐色ヲ呈シ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ  
脚ハ小ニシテ脛節ト跗節トハ略同長ナリ三角板ハ小ニシテ略半月形ヲナス

蛹 細長ニシテ胸部ハ淡褐色ヲ呈シ腹部ハ淡黄綠色ヲナス白毛綿質ノ蠟塊中ニ埋マリ尾  
端ヲ外部ニ現ハス成蟲ノ脱出前ハ翅ノ尖端及ヒ蠟質白毛狀纖維ヲ認ム

經過

年一回ノ發生ニシテ受精ノママ越冬セル雌蟲ハ五月上旬頃ヨリ産卵ヲ始ム

被害植物

水蠟樹<sup>ホメミモチ</sup>女貞

分布

本邦支那歐洲

因曰 支那及ヒ本邦ニテハ古來該蟲ノ分泌物ヲ以テ白蠟ヲ製シ工業用ニ供シツツアリ  
東北地方ニテハ多ク寄居スルヲ見ルモ著者ハ嘗テ福岡市外ニ於テ女貞ニ著シタ

せろぶらすてす屬

Genus *Ceroplastes*

特徴

雌蟲 體軀ハ蠟質分泌物ヲ以テ被覆セラレタリ其ノ蠟質物ハ蟲體ニ固著スルコトナク厚キ層ヲ成セリ或種類ノ如キハ背上ニ蠟塊ヨリ成レル小突起ヲ有ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長シ脚ハ完全ニ發達シ跗節及ヒ爪ニハ各一對ノ冠球毛ヲ有ス其ノ爪ニアルモノハ短大ニシテ喇叭狀ヲナス

雄蟲 體軀ノ構成ハ略ハかにうむ屬ニ似テ稍肥大ナリ且尾端ノ肉質突起ハ大ナリ

(二十八) るびーらふむし

紅蠟蟲

*Ceroplastes rubens* Mask.

(第一二圖版九乃至一一第一六圖版一二)

形態

雌蟲 體軀ハ厚キ蠟質分泌物ヲ以テ覆ハレタリ其ノ蠟質物ハ始メ紅色ナルモ漸次淡紅色ニ變シ老熟スルトキハ小豆色ヲ呈ス中央僅ニ突起シ中點ハ暗黒ヲ帯ヒ凹輪ヲ以テ圍マル腹

面ノ氣門ヨリ起リテ背面ニ及ヘル四箇ノ分泌物ヨリナル白色紐アリ略球形ニシテ腹面稍凹入セリ體長三乃至四耗アリ

觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第四五及ヒ六ノ三環節ヲ合セタルモノト殆ント同長ナリ末環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス脚ハ小ニシテ脛節ト跗節トハ癒合シテ明瞭ニ區別スルコト能ハス爪ハ短大ニシテ少シク彎曲セリ體側ノ縫レハ深ク一箇ノ圓錐狀ノ刺毛ヲ有シ此ニ近ク數多ノ球狀刺毛ヲ有ス體側ノ縁毛ハ顯著ナラス三角板ハ大ニシテ略楔狀ヲナシ底邊甚タ短ク頂點ニ近ク三箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 著者ハ未タ之ヲ見サルモ田中技手ニ依レハ略かめのかふらふむしニ似タリト云フ卵 淡紫紅色橢圓形ニシテ兩端稍細マレリ長〇二七耗アリ

幼蟲 淡紫紅色ヲ帶ヒ扁平橢圓形ニシテ腹端ニ向ヒテ幅狭ク觸角ハ六環節ヨリ成ル體長約〇三五耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ受精ノママ越冬セル雌蟲ハ翌年四月下旬頃ヨリ産卵ヲ始ム

被害植物

柑橘梨茶椿柿桑植柳榕八角金盤梔子南天厚皮香檳榔竹柏薔薇等

分布

本邦布哇錫蘭濠洲

因曰 本邦ニ於テハ沖繩長崎佐賀福岡及靜岡縣下ノ一部並ニ臺灣ニ發生スルヲ認ム元

來本介殼蟲ハ熱帶地方ノ原産ニシテ内地ニテハ嘗テ海外ヨリ輸入セラレシモノノ如シ長崎縣下ニ於ケル柑橘ノ如キハ被害劇甚ニシテ枯死ニ瀕セルモノアリ未タ之カ發生ヲ見ナル地方ニ於テハ特ニ注意ヲ要ス

(二十九) かめのかふらふむし

龜甲蠟蟲

*Ceroplastes floridensis* Curnst.

(第一五圖版一乃至三第一六圖版三乃至六)

形態

雌蟲 體軀ハ褐色ニシテ略球狀ヲ呈シ尾端ニ短キ突起アリ全體蠟質物ヲ以テ厚ク被覆セラル其ノ蠟質物ハ最初少シク帶紅白色ナルモ日子ヲ經ルニ從ヒ黃味ヲ呈スルニ至ル背面ニ龜甲狀ノ凹線アリテつものらふむしノ如キ中央ニ角狀突起ヲ有セス直徑約三乃至四耗アリ觸角ハ六環節ヨリナリ第三環節最モ長ク其ノ他ノ環節ヲ相合シタルモノト殆ント同長ナリ脚ハ短ク肥大ナリ脛節ハ跗節ノ約二倍アリ爪ハ短大ニシテ少シク彎曲セリ二對ノ冠球毛ハ顯著ナリ其ノ爪ニアルモノノ末端特ニ膨大セリ體側ノ縫レニ氣門ニ近ク數多ノ矢根狀刺毛ト小圓形分泌孔トヲ有ス一對ノ三角板ハ小ニシテ相接スレハ略圓形ヲナシ頂點ニ數箇ノ刺毛アリ



雄蟲 帶紫赤色ニシテ細長ク頭部ハ略圓形ナリ眼ハ黑色ニシテ背面ト腹面トニ各一對アリ觸角ハ纖細ニシテ十環節ヨリ成リ第一二ノ兩環節ハ短大其ノ他ハ略同長ニシテ圓筒形ヲ成ス各環節ニ微毛ヲ生ス翅ハ白色半透明ニシテ鏡檢スルトキハ赤紫色ノ金屬光澤ヲ放ツ胸背ノ横板ハ顯著ニシテ暗赤褐色ヲ呈ス三對ノ脚ハ細長ニシテ跗節ハ甚タ短ク脛節ノ二分ノ一ニ過キス體長一〇一耗翅開張一八六耗交接器長〇二〇耗アリ

卵 産卵當時ハ帶黄赤色ナルモ漸次紫赤色ニ變ス長橢圓形ニシテ兩端稍細マレリ長〇二七耗幅〇一五耗内外アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ赤褐色ヲ呈シ觸角及ヒ脚ハ淡色眼ハ濃赤色ナリ頭部ノ前端ニ二箇ノ微毛ヲ有ス觸角ハ五環節ヨリ成リ各環節ニ微毛ヲ生ス脚ハ三對略同大ニシテ跗節ハ脛節ヨリ短ク腹部ノ環節ハ明瞭ナリ腹端ハ凹入シ其ノ中央ニ一箇ノ刺狀突起アリ體長〇三七耗幅〇一八耗アリ

蛹及繭 蛹ハ橢圓形ニシテ帶紫褐色ヲ帶フ腹部ノ環節ハ明瞭ニシテ眼ハ黑色ニシテ小サク觸角及ヒ脚ハ淡色ナリ交接器ハ短ク殆ント無色ナリ其ノ左右ニ各一箇ノ突起アリ體長〇九四耗幅〇五一耗交接器長〇一三耗内外アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ受精セル雌蟲態ニテ越冬シ翌年五月下旬頃ヨリ産卵ヲ始ム其ノ孵化シタル幼蟲ハ漸次成長シ九月下旬ニ至リ成蟲トナル農商務省農事試驗場ニ於ケル飼育ノ結果ハ左ノ如シ

明治四十五年五月二十五日	産卵ヲ始ム
同 六月二十六日	産卵ヲ終ル
同 七月一日	孵化
大正元年九月中旬	蛹化(雄)
同 九月下旬	羽化(雄)

雌蟲ハ受精ノ儘越冬ス

雌蟲ハ産卵期ニ至レハ體ノ腹面大ニ凹入シ凹窪ヲ生シ茲ニ産卵スルモノナレハ放産セラレタル卵ハ雌體ニテ全ク被覆セラレタリ孵化シタル幼蟲ノ雄ハ多ク葉ノ表面又ハ裏面ニ固著スルモ雌蟲ハ主ニ枝幹部ニ止マリ稀ニ葉面ニ到ルモノアリ發育ノ際甘液ヲ分泌シテ煤病ヲ併發セシメ被害甚タシキモノアリ

被害植物

柑橘 茶 山茶 椿 檳 梨 柿 冬青 等

分布

本邦北米合衆國墨哥西南米西印度諸島布哇錫蘭印度濠洲等

因曰 本邦各地ニ發生シ時ニ被害大ナルモノアリ

(三十) つのらふむし

角蠟蟲

*Ceroplastes ceriferus* And.

(第一五圖版四、五第一六圖版七乃至一一)

形態

雌蟲 體軀ヲ被覆セル蠟質分泌物ハ白色ニシテ僅ニ淡紅色ヲ帶ヒ其ノ周圍ニ八箇ノ棒狀突起アリ又其ノ背面ニ一箇ノ大ナル角狀突起ヲ出シ少シク後方ニ彎曲セリ日子ヲ經ルトキハ角狀突起ヲ消失シ殆ント半圓形ヲナス大ナルモノハ直徑約八耗ニ達ス

蠟質物ヲ去リタル體軀ハ略球形ニシテ腹面ハ空窩ヲ生シ腹部末端ニ圓錐形ノ突起アリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第二環節ノ殆ント二倍乃至二倍以上アリ脚ハ三對略同大ニシテ肥大ナリ體側ノ縊レニ幾多ノ矢根狀刺毛ヲ有ス一對ノ三角板ハ大ニシテ相接合スルトキハ略圓形ヲナス

雄蟲 體軀ハ赤褐色ヲ呈シ觸角ト脚トハ稍淡褐色ナリ頭部ハ略球形ニシテ前端僅カニ突起セリ眼ハ三對ニシテ暗紫色ヲ呈ス觸角ハ十環節ヨリ成リ各環節ニ幾多ノ長毛ヲ生シ第十環節ニ三箇ノ冠球毛ヲ有ス翅ハ短ク幅濶シ少シク黃味ヲ帶ヒ前縁ニ接スル翅脈ニ沿ヒテ紫色ヲ帶フ背上ニ疊ムトキハ交接器ト殆ント同長ナリ後胸ノ後板ハ小ニシテ三角形ヲ成シ腹部ハ圓錐形ニシテ幅ハ胸部ヨリモ狭ク腹端ニ二箇ノ肉質突起ヲ有シ其ノ中央ニアル交接器

ハ大ナリ體長約一三耗翅開張二耗交接器長〇三耗アリ

卵 略橢圓形ニシテ赤紫色ヲ呈ス母體下ニ放産セラル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ略橢圓形ニシテ腹部環節判然シ全體赤褐色ヲ呈ス觸角及ヒ脚ハ比較的長ク能ク發達シ觸角ハ六環節ヨリ成リ第二三ノ兩環節ハ略同長ナリ腹部ノ罅隙深ク三角板ハ大ナリ其ノ頂點ニ一箇ノ長毛ヲ有ス體長約〇三三耗幅〇二〇耗アリ

蛹及繭 蛹ハ全體赤褐色ヲ呈スルモ觸角脚及ヒ交接器ハ淡赤色ナリ觸角及ヒ脚ハ比較的細長ク腹部末端ノ交接器ハ短大ニシテ略圓錐形ヲ成シ其ノ兩側ニ稍短キ肉質突起アリ體長約一二耗アリ繭ハ白色蠟質ニシテ背面ノ突起ハ低ク周圍ニ十三箇ノ棘狀突起アリテ星狀ヲナス

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノニシテ雌蟲ハ六月中旬頃體下ニ産卵ス卵ハ八九月ノ交ニ至リテ孵化シ十月下旬雄蟲羽化シ雌蟲ハ受精ノママ越冬ス

雄ノ幼蟲ハ多ク葉面ノ葉脈ニ沿ヒテ附着シ雌ハ主ニ枝梢ニ寄生ス生育ノ際盛ニ甘液ヲ分泌シ煤病ヲ併發スルコトアリ地方ニヨリテハ柑橘ニ大害ヲナス又好シテ楡ニ寄生ス

被害植物

柑橘桑葚樹梨柿櫻桃李杏柳楡椿山茶梔子竹柏等

分布

本邦支那濠洲南米北米合衆國墨西哥西印度諸島錫蘭布哇等

因曰 本邦各地ニ發生シ時ニ被害大ナルモノアリ

あくれるだ屬

Genus Aclerda

特徴

雌蟲 無脚ニシテ肥大橢圓形ヲ爲ス觸角ハ退化シテ僅ニ一環節ヨリ成リ或ハ全ク之ヲ缺如ス二對ノ氣門ハ明ニ之ヲ認ム

幼蟲 細長ニシテ體側ニ尖球狀ノ刺毛ヲ有ス觸角ハ六環節ヨリ成リ脚ハ三對共ニ能ク發達シ腹部ノ罅隙ハ深ク一對ノ三角板ハ小ナリ

該屬ハ一千八百九十六年しんよれー氏カ創設シタルモノニシテ其ノ特徴ヲ記シテ曰ク本屬ハとーぜつと氏ノ *Lecanopsis* ニ酷似スルモ其觸角及ヒ脚ヲ缺如スルヲ以テ後者ト區別スルヲ得ヘク體軀ハ肥大軟弱ニシテ略半球形又ハ橢圓形ヲナスト雖モ其ノ後發見セラレタル種類ノ形態ハ大ニ趣ヲ異ニシ觸角ヲ有スルアリ或ハ附著場所ニヨリテ扁平トナルアリテ一様ナラス又本屬ノ位置ニ就キテハ尙幾多ノ研究ヲ經ルニアラサレハ之ヲ確實ニ定ムルコト能ハスト雖モ其ノ幼蟲ノ特徴ヨリ推シテれかに一亞科ニ編入スルヲ以テ穩當ナリトス故ニ著者ハ姑ク之ヲれかに一亞科ノ末尾ニ列シ他日ノ研究ヲ俟ツ

(三十一) たけのかたかひがらもどき

竹擬堅介殼蟲

*Alerda tokionis* Chll.

(第一五圖版六、七第一八圖版一乃至七)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ肥大ナルモ葉鞘下ニ存在セルヲ以テ形態一樣ナラス淡黄色ニシテ少シク紅色ヲ帶ヒ腹端ハ暗褐色ナリ乾燥スルトキハ全體暗褐色ニ變ス寄主植物ヨリ剝去ルトキハ少シク白粉ヲ殘留ス體長七乃至一〇耗内外アリ

觸角ハ退化シテ短ク一環節ヨリ成リ圓錐形ニシテ末端ニ數箇ノ刺毛ヲ有ス口部ハ小ニシテ能ク發達セリ脚ハ全ク之ヲ缺如シ二對ノ氣門ハ大ニシテ喇叭狀ヲナシ腹端ノ罅隙ハ深ク其ノ兩側ニ幾多ノ刺毛ヲ有ス肛門輪ニ十二箇ノ大ナル刺毛ヲ生ス

雄蟲 本邦ニ於テハ未タ之ヲ發見セスト雖モ著者嘗テ米國須氏大學ニ在リシ時其ノ庭園ニ於テ採集セル雄蟲ハ長橢圓形ニシテ紅色ヲ呈シ觸角ト脚トハ淡褐色ヲ帶ヒ頭部ハ略球形ニシテ前端稍尖リ觸角ハ九環節ヨリ成リ第一、二ノ兩環節ハ短大其ノ他ノ環節ハ細長ニシテ幾多ノ長毛ヲ有ス眼ハ三對ニシテ紅色ヲ呈ス脚ハ細長ニシテ多毛ナリ跗節ハ脛節ノ二分ノ一ニ滿タス翅ハ短ク完全ナラス(後日完全ナル翅ヲ有スルモノヲ得ルノ時ナキカ)腹部ハ大ニシテ末端ニ長キ交接器ヲ有ス

卵 未タ之ヲ認メス胎生ヲ營ムモノノ如シ

幼蟲 第一回蛻皮前ノ生ケル幼蟲ヲ見タルコトナシト雖モ葉鞘間ニアリテ死セルモノヲ鏡檢セシニ體軀ノ環節判然シ體側ハ略平行シテ刺狀ノ尖球毛ヲ有ス口部ハ大ニシテ眼ハ赤色ヲ呈ス觸角ハ顯著ニシテ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第六環節之ニ次キ第二環節最モ短シ各環節ニ數箇ノ微毛ヲ生ス脚ハ能ク發達シ三對相似タリ體側ニ擬寶珠狀ノ緣毛ヲ有ス腹端ノ罅隙深ク其ノ左右ニ各一箇ノ長毛ヲ有ス三角板ハ小ニシテ相離レタリ又尾端ニ二箇ノ長毛ヲ有ス

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ精査ヲ了セス雌蟲ハ竹ノ葉鞘下ニ存在シ其ノ節元ニ群棲スルカ爲メニ葉鞘隆起シ又ハ破裂シテ蟲體ヲ露出スルコトアリ四、五月ノ交ニ至レハ體軀大ニ肥滿シ甘液ヲ分泌スルカ故ニ煤病ヲ併發スルコトアリ

被害植物

竹

分布

本邦北米合衆國

因曰 本種ハ本邦ノ原産ニシテ北米加州ニ産スルモノハ本邦ヨリ輸出セル竹類ト共ニ輸入セラレタルモノノ如シ内地ニ廣ク發生スト雖モ特ニ東京附近ニ於テハ其ノ發生多ク被害甚大ナルモノアリ

(三十二) びはこかたかひがらもどき

琵琶湖擬堅介殼蟲

*Aclerda biwakensis* Kuw.

(第一五圖版八第一八圖版八乃至一一)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平橢圓形ニシテ淡紅色ヲ帶ヒ少シク白粉ヲ以テ覆ハレ乾燥スルトキハ暗褐色ヲ呈ス寄主植物ノ葉鞘下ニ存在ス體長四・五乃至七・〇耗幅二・〇乃至三・五耗アリ  
口部ハ小ナルモ能ク發達シ略腹面ノ中央ニアリ觸角ト脚トハ全ク之ヲ缺如ス二對ノ氣門ハ大ニシテ顯著ナリ背面ニ數多ノ擬寶珠狀ノ毛ヲ有ス腹端ノ罅隙ハ甚タ淺ク肛門輪ニ數多ノ長毛ヲ有ス  
雄蟲 未詳

經過

年一回ノ發生ナルカ如シト雖モ未タ精査ヲ經ス雌蟲ハ葉鞘下ニ在リ著者嘗テ近江ノ琵琶湖畔ノ蘆ニ寄生セルモノヲ發見セシ以來各地ニ於テ之ヲ見ル

被害植物

蘆

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦ノ原産ニシテ本屬ニ編入スルキヤニ就キ幾分ノ疑點アルモ姑ク茲ニ列記シテ後日ノ精査ヲ俟ツ

こつくし亞科

Subfamily Coccinae

本亞科ニ屬スル介殼蟲ノ體軀ハ裸出セルモノト綿絮質角質蠟質等ノ分泌物ヨリ成レル介殼ヲ以テ包被セラルルモノトアリ其ノ介殼ハ蛻皮殼ヲ合セ作ルコトナシ成熟期ニ於テ體軀ノ環節判然シ多ク行動機關ヲ失フコトナシ下唇ハ二環節ヨリ成リ圓錐形ヲ呈ス腹端ハ分裂シテ二瓣トナリ其ノ末端ニ長毛ヲ有シ三角板ヲ有セス觸角ハ通常八環節ヨリ成リ肛門輪ニ六又ハ八箇ノ刺毛ヲ有ス  
雄蟲ハ一對以上ノ單眼ヲ備フ

れかにをてあすびす屬

Genus *Leaniodiopsis*

特徴

雌蟲 體軀ハ稍堅キ介殼ヲ以テ包被セラル介殼ノ形狀ハ橢圓形扁平橢圓形又ハ半球形等アリ卵ハ介殼内ニ放産セラル雌蟲ハ無脚ナルカ又ハ退化セル脚ヲ有ス觸角及ヒ口部ハ能ク發達シ觸角ハ四乃至九環節ヨリ成ル背皮ニ8字形ノ分泌窩ヲ有ス  
雄蟲 介殼ハ雌蟲ニ似テ小サク且ツ細長ナリ

(三十三) かしのたまかひがらもどき

橙擬球介殼蟲

*Leaniodiopsis quereus* Kill.

(第一五圖版九一〇第一八圖版一二一三)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被セル介殼ハ角質ニシテ黃褐色ナリ橢圓形ヲ呈ス背面大ニ腫起シ中央ヲ縱走スル隆起線アリコレヨリ左右ニ數多ノ横線ヲ并列ス體軀ハ略球狀ニシテ苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ暗紫色ニ變ス腹面ハ環節明瞭ナルモ背面ニハ之ヲ認メ難シ介殼長約四耗幅二耗高二耗體長三耗アリ

觸角ハ七又ハ八環節ヨリ成リ第三、四ノ兩環節ハ殆ント同長ニシテ最モ長ク第七、八ノ兩環節ハ略同長ニシテ最モ短シ各環節ニ數箇ノ微毛ヲ生ス口部ハ能ク發達セルモ小ニシテ絲狀口器ハ短シ背皮ニ數多ノ小圓形分泌窩ヲ備ヘ脚ハ全ク之ヲ缺如セリ腹端ハ二瓣ニ分レ一箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 長橢圓形ニシテ紫色ヲ呈ス長〇、二五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平長橢圓形ニシテ淡紅色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第二、三及ヒ六環節ハ殆ント同長ニシテ最モ長シ三對ノ脚ハ能ク發達シ腿節ハ脛節ト跗節トヲ合シ

タルモノト殆ント同長ナリ爪ハ大ニシテ少シク彎曲セリ體長約〇・二五耗アリ

經過

未タ年中ノ經過ヲ詳ニセスト雖モ雌蟲ハ六月下旬頃産卵シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

椎栗樫

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリトス

あすてろれかにうむ屬

Genus *Asterolecanium*

特徴

雌蟲 體軀ヲ包被スル介殻ハ角質ニシテ稍透明ナリ其ノ形狀一様ナラスト雖モ半球形又ハ長橢圓形若クハ圓形等ニシテ背面腫起シ殻縁ニ硝子様總狀ノ纖維ヲ有ス介殻ハ多ク綠色毛又ハ黄綠色ニシテ殻縁ノ纖維ハ往々紅赤色ヲ呈ス

雌蟲ノ體軀ハ其形介殻ト相似タルモ産卵ヲ終レハ縮少シテ其ノ形ヲ失フ觸角ハ大ニ退化セリ脚ハ全ク之ヲ缺如ス皮膚ニS字形ノ分泌窩ヲ有ス尾端ノ縫レハ淺クシテ長毛ヲ有ス

雄蟲 介殻ハ雌蟲ニ似テ細長ナリ

雄蟲ノ觸角ハ十環節ヨリ成リ末環節ニ三又ハ四箇ノ冠球毛ヲ有ス眼ハ大ニシテ二對アリ頭部ハ明瞭ナリ平均棍ハ之ヲ缺如ス交接器ハ細長ニシテ尖リ二箇ノ長キ蠟質纖維ヲ有ス

(三十四) たけのふさかひがらむし

竹總介殼蟲

*Asterolecanium bambusae* Bois.

(第一七圖版一二第一八圖版一四乃至一六)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被セル介殼ハ半透明硝子様長橢圓形ニシテ尾端ニ向ヒテ稍細マリ背面腫起シ寄主ニ附著セル腹面ハ扁平ナリ色ハ一様ナラスト雖モ未熟ノモノハ概シテ淡檸檬色ナルモ老熟セルモノハ淡黄又ハ褐色ニシテ前半ハ稍暗色ヲ呈シ紅色ヲ交ユ蟲體及ヒ卵ヲ透視スルコトヲ得體緣總狀ノ蠟質纖維ハ長クシテ紅色ヲ呈ス

體軀ハ長橢圓形ニシテ稍綠色ヲ帶ヒタルモ背面ハ褐色ナリ觸角ハ甚タ退化シテ一環節ヨリ成リ之ニ二箇ノ刺毛ヲ生ス口部ハ大ナレトモ絲狀口器ハ短シ氣門ハ大ニシテ尾端ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛ヲ有ス體緣ニ沿ヒテ一列ノ8字形分泌窩ヲ存ス又其ノ内側ニ一列ノ小圓形分泌窩アリ背皮ニハ小圓形分泌窩ヲ多ク生ス肛門輪ニ六箇ノ長毛ヲ有ス介殼長二〇乃至二五耗幅一〇乃至一六耗體長一、二五乃至一、七五耗幅〇、八〇乃至一、二〇耗アリ

雄蟲 未詳

卵 橢圓形ニシテ淡紅色又ハ帶黄紅色ヲ呈ス

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長橢圓形ニシテ淡紅乃至赤褐色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長シ脚ハ能ク發達シテ大ナリ體緣ニ沿ヒテ8字形ノ分泌窩ヲ有ス長〇、二耗アリ

經過

未詳

被害植物

竹

分布

本邦英國あるげりあ西印度諸島埃及ぶらじる錫蘭印度まらりちうす等

因曰 本邦ニ於テハ琉球以外ニ於テ未タ之ヲ見ス主ニ竹幹ニ寄生シ又生長中ノ竹皮ニ多ク附著セルヲ見ルモ葉面ニ寄生セルヲ見ス

(三十五) しひのふさかひがらむし

椎總介殼蟲

*Asterocanium pashuine* Kill. and Knw.

(第一七圖版三四第一八圖版一七乃至一九)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被スル介殼ハ半透明硝子様ニシテ長橢圓形ヲ成シ末端ニ向ヒテ幅狹ク背面大ニ隆起シ腹面ハ扁平ナリ背面ヲ縱走スル隆起線ハ顯著ナリ淡綠黄色ニシテ背面ノ前半ハ褐色ヲ帶ヒ乾燥スルトキハ淡黄色ニ變ス殼緣ノ總狀纖維ハ紅色ヲ呈ス

苛性加里液ニテ煮ルトキハ體ハ赤紫色ニ變ス略球形ニシテ體緣ニ沿ヒテ8字形ノ圓形分泌窩ヲ列ス又此ニ近ク小圓形分泌窩アリ觸角ハ短ク一環節ヨリ成リ末端ニ一箇ノ刺毛ヲ生ス口部ハ大ニシテ能ク發達シ脚ハ全ク之ヲ缺如セリ尾端ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛ヲ有ス介殼長約一五耗アリ



雄蟲 未詳

經過

年一回ノ發生ナルカ如シ

被害植物

椎

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ嘗テ著者カ小笠原島ニ飛蝗調査ノ爲メ出張ノ途次八丈島ニ於テ採集セシ標本ニヨリテ公ニセシ種ナリトス

(三十六) ならのふさかひがらむし

楢總介殼蟲

*Asterolecanium varicosum* var. *japonicum* Okll.

(第一七圖版五六)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被セル介殼ハ半透明硝子様ニシテ黃綠色ヲ呈シ略圓形ニシテ背面隆起シ殼縁ノ總狀纖維ハ短ク淡紅色ヲ帶フ

體軀ハ略圓形ニシテ赤褐色ヲ呈シ苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ蜜柑色ニ變ス觸角ハ一環節ヨリ成リ脚ハ全ク之ヲ缺如ス體縁ニ沿ヒテ二列ノ分泌窩アリ其ノ内列ノモノハ圓形外列ニアルモノハ8字形ヲナス介殼長約一耗アリ

雄蟲 未詳

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ雌蟲ハ六月頃産卵シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

楢

分布

本邦

因曰 本邦各地ノ楢ニ寄生ス其ノ寄生部ハ凹入セリ

せろこつくす屬

Genus *Cerrococcus*

特徴

雌蟲 體軀ヲ包被セル介殼ハ蠟質或ハ角質ナリ成蟲期ノ雌蟲ハ全ク脚ヲ缺如シ觸角ハ退化シテ圓錐狀ノ一環節ヨリ成リ末端ニ粗毛ヲ有ス腹端ハ明ニ二瓣トナリ其ノ末端ニ一箇ノ長毛ヲ有ス背皮ニ二様ノ分泌窩ヲ有シ其ノ一ハ大ニシテ8字形ヲ成セリ

(三十七) ふちつぽかひがらむし

藤壺介殼蟲

*Cerrococcus muratae* Kuv.

(第一七圖版七、八第一九圖版一乃至五)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被セル介殼ハ圓形又ハ廣橢圓形ニシテ中央大ニ突起シ藤壺狀ヲ成シ半透明又ハ不透明ナル褐色ヲ呈シ頂點ニ蛻皮殼ヲ存ス蛻皮殼ハ赤褐色又ハ暗褐色ニシテ此ヨリ數箇(通常六又ハ七箇)ノ白線ヲ射出ス又介殼ノ全面ニ數多ノ輪紋ノ集心狀ニ均列シ且ツ中央ノ蛻皮殼ヨリ介殼ノ周縁ニ向ヒテ數多細線ノ走レルアリ又介殼ノ後半ニハ縦ニ凹陷スルモ

ノアリ此凹陷内ニ一箇ノ銳頭長管狀ノ附器アリ

體軀ハ輕氣球狀ニシテ環節ヲ缺如シ尾端ニ向ヒテ漸次幅狭ク腹端ハ幾丁質ニ富ミ分レテ二瓣トナリ多數ノ短キ刺毛ト一箇ノ長毛トヲ有ス介殼長約五耗幅四耗高二五耗體長約四耗アリ

觸角ハ圓錐狀ノ一環節ヨリ成リ末端ニ數箇ノ短毛ヲ生ス肛門輪ニハ八箇ノ長キ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ橢圓形ニシテ環節判然シ腹端ニ向ヒテ幅狭ク末端ハ分レテ二瓣トナリ一箇ノ長毛ヲ生ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク脚ハ三對相似テ能ク發達シ脛節ハ跗節ノ約三倍アリ體長約〇五耗アリ

經過

未タ詳ナラサルモ幼蟲態ニテ越冬シ年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ地方ニヨリテハ梨葡萄等ニ大害ヲ爲スコトアリ

被害植物

梨葡萄かなめもら珊瑚樹きんろうばい

分布

本邦

因曰 本邦ノ原産ニシテこけれゝる氏ハ *Sclenophora* トシテ知ラルヘキモノナリト云フ

モ著者ハ姑ク之ヲ本屬ニ留メ後日ノ精査ニ俟ツ

かーめす屬

Genus *Kerno*

特徴

雌蟲 體軀ノ背皮ハ堅ク球形又ハ腎臟形ニシテ環節ハ判然セス恰モ五倍子ニ似タリ通常裸體ナルモ往々粉狀又ハ硝子狀或ハ半透明ノ分泌物ヲ以テ薄ク被覆セララルコトアリ觸角及ヒ脚ハ之ヲ存スルヲ常トスレトモ完全ニ發達セルモノ少ナシ觸角ハ六環節ヨリ多カラス  
幼蟲 長橢圓形ニシテ腹部ノ環節ハ判然セリ腹端ハ普通二瓣ニ分レ一箇ノ長毛ト數箇ノ短毛トヲ有ス肛門輪ニ六箇ノ長毛ヲ有ス時ニ之ヲ缺如スルモノアリ(體側ノ刺毛ハ顯著ニシテ普通其ノ基部膨大セリ)

(三十八) なわたまかひがらむし

名和球介殼蟲

*Kermes hawaii* Kuw.

(第一九圖版六七)

形態

雌蟲 體軀ハ略球形ニシテ光澤アル茶褐色ヲ呈シ僅ニ蠟質ノ白粉ヲ裝フ寄主植物ヨリ剝

去ルトキハ白色綿質物ヲ殘ス體長約六、五耗幅七耗高五耗アリ  
觸角ハ小ニシテ五環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク觸角式左ノ如シ

3, 4, 5, 2, 1.

各環節ニ毛ヲ有ス口部ハ能ク發達シ下唇ハ大ニシテ圓錐形ヲ成ス脚ハ小ニシテ三對相似  
タリ基部ハ大ニシテ腿節ト殆ント其ノ長ヲ同フス跗節ハ脛節ヨリ長ク爪ハ短大ニシテ内縁  
ニ鋸齒ヲ有ス

雄蟲 未詳

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長橢圓形ニシテ淡褐色ヲ呈ス脚ト觸角トハ完全ニ發達セリ觸角  
ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク數多ノ長毛ヲ生ス口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ  
體側ノ刺毛ハ顯著ナリ脚ハ三對相似テ跗節ハ脛節ノ約二分ノ一ニ過キス爪ハ細長ナリ腹端  
ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛ト三箇ノ短毛トヲ有ス

經過

未タ調査ヲ經サルモ年一回ノ發生ナルカ如シ

被害植物

標

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ嘗テ名和氏カ福井縣下ニ於テ採集セルモノナリ

(三十九) ならのたまかひがらむし

楢球介殼蟲

*Kermes nakagawae* Kunw.

(第一七圖版九一〇第一九圖版八乃至一一)

形態

雌蟲

體軀ハ略腎臟形ニシテ光澤アル暗褐色ヲ呈シ通常五箇ノ不規則ナル黒横斑ヲ有ス  
淡灰色ノ蠟質分泌物ヲ以テ薄ク被ハル中央ニアル淺キ凹ミノ左右ニ各一箇ノ灰白色殼片ヲ  
附著セリ體長四乃至五耗幅五乃至六耗高二乃至三、五耗アリ

觸角ハ甚タ小ニシテ三又ハ六環節ヨリ成ル其ノ三環節ヨリ成ルモノハ第三環節最モ長ク  
六環節ヨリ成ルモノハ各環節ハ略同長ナルモ末環節稍長シ口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ甚  
タ長シ脚ハ甚タ小ニシテ跗節ト脛節トハ略同長ナリ然レトモ往不完全ニシテ環節ハ充分明  
瞭ナラサルモノアリ爪ハ大ニシテ彎曲セリ

雄蟲

體軀ハ細長ニシテ淡褐色ヲ呈ス頭部ハ略圓ク觸角ハ十環節ヨリ成リ(時ニ九環節ナ  
ルコトアリ)第三環節最モ長ク各環節ニ短毛ヲ生ス胸部ハ能ク發達シ幅最モ濶ク横板ハ大ナ  
リ後背板ハ短ク圓味ヲ帶フ翅ハ比較的ニ短ク背上ニ疊ムトキハ交接器ヨリ僅ニ長シ腹部ハ  
細長ニシテ略圓錐形ヲ成シ第八環節ノ左右ニ各一箇ノ長毛ト數箇ノ短毛トヲ有ス交接器ハ  
短ク尖端鈍レリ體長約二耗翅開張三耗交接器長〇、一五耗アリ

卵 橢圓形ニシテ稍、赤味ヲ帯ヒタル褐色ヲ呈ス長約〇三耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ橢圓形淡紫色ニシテ觸角ト脚トハ淡褐色ヲ呈シ口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク第一、二及ヒ三ノ三環節ハ略、同長ニシテ之ニ次キ第四、五ノ兩環節ハ略、同長ニシテ最短ナリ三對ノ脚ハ略、同大ニシテ脛節ト跗節トハ殆ント其ノ長ヲ同シクス體側ニ基部膨大セル刺毛ヲ羅列セリ腹端ハ分レテ二瓣トナリ一箇ノ長毛ヲ有ス又肛門ニ近ク短キ刺毛アリ體長約〇四耗アリ

蛹及繭 繭ハ白色長橢圓形ニシテ長二五耗アリ蛹ハ細長ニシテ赤褐色ヲ呈ス

經過

年一回ノ發生ニシテ雄蟲ハ五月上旬頃樹皮ノ裂目等ニ白色ノ細繭ヲ營ミ同月中旬頃羽化シ交尾ヲ終レハ直ニ死ス受精シタル雌蟲ハ漸次膨大トナリ同時ニ甘液ヲ分泌スルカ故ニ蟻類ノ集來スルアリ體下ニ放産セル卵ハ六月頃孵化シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

櫛

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ特ニ東京附近ノ林中ニ多キヲ見ル

(四十) ひめたまかひがらむし

姫球介殼蟲

*Kermes miyasakii* Kuw.

(第一七圖版一一二第一九圖版一二一三)

形態

雌蟲 體軀ハ球狀ニシテ光澤アル暗褐色ヲ呈シ數箇ノ暗色横斑アリ少シク灰白色ノ蠟質分泌物ヲ以テ被ハレタリ背面ニ橢圓形ノ蛻皮殼ヲ戴ケリ直徑四乃至五耗アリ

觸角ハ甚タ小ニシテ五環節ヨリ成リ往、環節明瞭ナラサルコトアリ第二環節最モ長ク其ノ他ノ環節ハ略、同長ナリ脚ハ小ニシテ不完全ナリ基節ノ幅濶ク長方形ヲ成シ脛節ハ跗節ヨリ短ク爪ハ大ナリ

雄蟲 未詳

卵 長橢圓形赤褐色ニシテ長〇三五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ體軀長橢圓形赤褐色ニシテ環節判然セリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節少シク長シ三對ノ脚ハ殆ント同大ニシテ跗節ハ脛節ノ約二倍アリ腹端ハ分裂セスシテ二箇ノ長毛ヲ有ス體長約〇四耗アリ

經過

未タ調査ヲ缺ク處アルモ年一回ノ發生ヲ營ミ雌蟲ハ六月頃産卵シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

標

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ東京附近ニテハならのたまかひがらむしト共ニ普通ナリ

(四十一) おほたまかひがらむし

大球介殼蟲

*Kermes vastus* Kuw.

(第一九圖版一四乃至一六第二〇圖版一二)

形態

雌蟲 體軀ハ球狀ニシテ光澤アル暗褐色ヲ呈シ皮面ニ數條ノ黑色横斑ヲ有シ未タ充分硬化セサルトキハ淡黄色ニシテ褐色ノ斑紋ヲ有ス僅ニ蠟質ノ白粉ヲ以テ裝フ蟲體ヲ剝去ルトキハ白色分泌物ヲ殘留ス直徑八乃至一〇耗アリ  
觸角ハ小ニシテ短ク七環節ヨリ成リ第二環節最モ長ク第一環節之ニ次キ第七環節最モ短シ各環節ニ數箇ノ短毛ヲ有ス脚ハ小ニシテ基部比較的大ナリ脛節ト跗節トハ略々同長ニシテ爪ハ小ナリ

雄蟲 未詳

經過

未タ充分ナル調査ヲ經スト雖モ年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ雌蟲ハ五月中旬頃産卵ス幼蟲ハ被害植物ノ枝梢ニ寄生シ幹又ハ葉ヲ侵スコトナシ雌蟲ノ産卵期ニ達スルトキハ甘液ヲ分泌シ蟻類ノ來集スルコトアリ又煤病ヲ併發セシム

被害植物

標

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ東京附近ニ普通ナリ雌蟲ハ象鼻蟲ノ寄生ニ依リ斃死スルモノ尠カラス

ごすばりあ屬

Genus *Gossyparia*

特徴

雌蟲 體軀ハ白色綿絮質ノ分泌物ニ圍繞セララルモ背面ハ裸出シ恰モ褥上ニ坐セルカ如シ觸角ト脚トハ完全ニ發達セリ

(四十二) にれのふくろかひがらもどき

楡擬囊介殼蟲

*Gossyparia spinia* Mod.

(第一九圖版一七第二〇圖版三乃至五)

形態

雌蟲 老熟セル雌蟲ハ白色蠟質綿絮様ノ分泌物ヲ以テ體軀ノ一部及ヒ側面ヲ圍繞セララル其ノ狀恰モ褥上ニ坐セルカ如シ背面ノ中央部ハ裸出スルヲ常トスレトモ往、白粉狀ノ蠟質ヲ以テ薄ク裝フコトアリ暗紫色ヲ呈シ體軀ハ略、橢圓形ニシテ大ニ肥滿シ尾端ニ向ヒテ急ニ狭マレリ體長二乃至三耗アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ第三四ノ兩環節最モ長ク第五六ノ兩環節最モ短ク第七環節ハ第四

環節ヨリ短ク第五六ノ兩環節ヲ合シタルモノト殆ント同長ナリ(はわいど氏ニ依レハ六環節ヨリ成リ第二三ノ兩環節最モ長ク第四五ノ兩環節最モ短シ)各環節ニ長毛ヲ有ス口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ餘リ長カラス脚ハ三對相似テ細長ナリ脛節ハ跗節ヨリモ短シ爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ内縁ニ鋸齒ヲ有ス冠球毛ハ顯著ナリ腹端ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛ヲ有ス肛門輪ニ八箇ノ刺毛ヲ生ス

雄蟲 未タ本邦ニ於テハ雄蟲ヲ見スト雖モ著者嘗テ米國ニ於テ研究セシ結果ニ依レハ雄蟲ニ二様アルカ如シ最初ニ羽化スルモノハ體軀肥大翅ハ不完全ニシテ甚タ短ク後ニ羽化スルモノハ細長ニシテ翅ハ完全ニ發達シ體ヨリモ長シ觸角ハ十環節ヨリ成リ各環節ニ長毛ヲ有ス腹部第八環節ノ側面ヨリ一對ノ白色毛狀ノ蠟質纖維ヲ生ス體長約一五耗翅開張三耗アリ

卵 淡黄色椭圆形ニシテ長約〇二五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ略、扁平椭圆形ニシテ腹端ニ向ヒテ幅狭ク淡黄色ヲ呈ス體側及ヒ背面ニ顯著ナル刺毛ヲ有ス觸角ハ五環節ヨリ成リ肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス體長約三耗アリ

蛹及繭 蛹ハ細長ニシテ地色ハ暗紫赤ニシテ觸角ト脚トハ殆ント無色ナリ繭ハ白色長椭圆形ニシテ綿絮様ヲナス多ク枝幹ノ蔭部ニ群集セリ

經過

本邦ニ於テハ未タ之カ經過ヲ詳ニセスト雖モ米國ニテハ一年一回ノ發生ニシテ雌蟲ハ六月

初旬頃ヨリ産卵ヲ始ム卵ハ間モナク孵化シ幼蟲ハ甚タ活潑ニシテ枝梢及ヒ葉面等ニ至リ植  
物ノ養液ヲ吸收ス秋期ニ至レハ落葉ニ先チ幼蟲ハ葉ヲ辭シ枝幹ニ降りテ越冬シ翌春三月頃  
ニ至リテ雄蟲羽化シ雌蟲ト交接スレハ直チニ死ス受精シタル雌蟲ハ體軀肥大トナリ産卵前  
ニ至レハ白色綿絮様ノ蠟質ヲ以テ體軀ヲ圍繞スルコト前述ノ如シ

被害植物

榆櫟

分布

本邦歐洲北米合衆國

因曰 該蟲ハ歐洲ノ原産ニシテ千八百七十五年頃米國ニ輸入セラレタルモノノ如シ而  
シテ現今榆ノ大害蟲ナリ本邦ニ於テハ櫟ニ寄生シ埼玉長野ノ兩縣下及ヒ東京府下ニ  
於テ之ヲ認メシ外未タ廣ク發生スルモノアルヲ見ス本邦産ノモノハ雌蟲背面ノ露出  
部少ク往々全ク之ヲ被覆スルモノアリ

### をりをこつくす屬

Genus *Eriococcus*

特徴

雌蟲 體軀ハ普通橢圓形乃至長橢圓形ニシテ環節ハ明瞭ナリ背皮及ヒ體縁ニ尖銳ナル刺  
毛ヲ有ス觸角ハ普通六又ハ七環節ヨリ成リ稀ニハ五環節若クハ八環節ノモノアリ脚ハ能ク  
發達シ肛門輪ニ六又ハ八箇ノ刺毛ヲ生ス

體軀ヲ包被スル介殼囊ハ橢圓形又ハ長橢圓形ニシテ綿絮様又ハ纖維狀ノ蠟質分泌物ヨリ  
成ル

雄蟲 普通有翅ナルモ時ニ無翅ノモノアリ繭ハ雌蟲ニ似テ小ナリ

### (四十三) たけのふくろかひがらむし

竹囊介殼蟲

*Eriococcus onkii* Kuw.

(第二〇圖版六七第二一圖版一乃至四)

形態

雌蟲 體軀ヲ包メル蠟質綿絮様ノ囊ハ白色橢圓形ニシテ背面ニ五箇ノ横隆起線アリ體軀



ハ暗赤褐色擴椭圆形ニシテ肥滿シ腹端ニ向ヒテ幅狭ク苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ紫赤色ヲ呈ス囊長約三、五耗體長三、〇耗アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ普通第三環節最モ長シ各環節ニ數箇ノ長毛ヲ生ス各環節ノ長サハ筒體ノ異ルニ從ヒテ不同ナリ觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 4, 7, 2 (5, 6, 1).

(3, 4, 1, 7, 2, 6, 5).

口部ハ能ク發達スレトモ小ナリ絲狀口器ハ短シ脚ハ三對相似テ基部大ナリ脛節ハ跗節ヨリ短ク爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ内縁ニ鋸齒ヲ有ス冠球毛ハ顯著ナリ背皮ニ數多ノ短キ刺毛ヲ有ス腹端ハ二瓣トナリ末端ニ一箇ノ長毛ヲ生ス肛門輪ニ八箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 擴椭圆形ニシテ淡褐色ヲ呈ス長約〇、三耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ淡褐色長椭圆形ニシテ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第六環節之ニ次ク觸角式左ノ如シ

3, 6, 2 (1, 4, 5).

口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ脚ハ三對相似テ脛節ハ跗節ヨリモ甚タ短シ體側ニ顯著ナル刺毛ヲ有ス腹端ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛ト二箇ノ短毛トヲ有ス肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス體長約〇、四耗アリ

經過

年二回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ精査ヲ經ス雌蟲ハ六月頃産卵ス多ク葉鞘部ニ附著シテ加害ス成長ノ際甘液ヲ分泌スルカ故ニ煤病ヲ併發セシム

被害植物

竹

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦ノ原産ニシテ各地ニ普通ナリ

(四十四) とほしがらのふくろかひがらむし

トボシガラ囊介殼蟲

*Eriococcus Fusticene* Knuw.

(第二一圖版五、六)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被スル蠟質綿絮様ノ囊ハ白色乃至淡黄色ニシテ兩端稍細マリ長椭圆形ヲ成ス背面ニ數多ノ横條ヲ有ス體軀ハ長椭圆形ニシテ肥滿シ兩端少ク細マリ暗紫色ヲ呈ス囊長三、五耗幅一、二六耗體長約二、〇耗幅一、一耗アリ

觸角ハ六又ハ七環節ヨリ成リ基部ハ太ク末端ニ至ルニ從ヒ漸次狭小ナリ其ノ七環節ヨリ

ナルモノハ第四環節最モ長ク第三環節之ニ次キ第一環節最モ短シ六環節ノモノニアリテハ第三環節最モ長ク第四、五、六環節ヲ合シタルモノト略同長ナリ各環節ニ細毛ヲ生ス口部ハ能ク發達スレトモ小ニシテ絲狀口器ハ短シ脚ハ三對略同大ニシテ腿節最モ長大ナリ脛節ハ附節ヨリ稍短小ナリ背皮ニハ多數ノ短キ楔狀刺毛ヲ有シ且ツ小圓形分泌窩ヲ有ス體側ノ縁毛ハ顯著ナルモ其ノ大サ及ヒ距離ハ同一ナラス肛門輪ハ大ニシテ六箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形ニシテ淡紅色ヲ呈スルモ往々白色ナルアリ長〇.三七耗幅〇.一八耗アリ卵ハ雌蟲ヲ包被スル囊内ニアリ六頭ノ産卵數ヲ調査セシニ平均四六、三ヲ有セリ

經過

未タ年中ノ經過ヲ詳ニセスト雖モ雌蟲ハ六月頃産卵シ年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ雌蟲ハ多ク葉ノ裏面ニ附著シ往々數多群集スルコトアリ

被害植物

とぼしから

分布

本邦

因曰 本種ハ本邦原産ノモノニシテ英國ニ産スル *E. insignis* ニ酷似スレトモ背上ニ多クノ顯著ナル刺毛ヲ有スルヲ以テ區別スルコト難カラズ

(四十五) さるすべりのふくろかひがらむし

百日紅囊介殼蟲

*Eriococcus Lagerstroemiae* Knw.

(第二〇圖版八、九第二一圖版七乃至一〇)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被スル蠟質纖維狀ノ囊ハ略橢圓形ニシテ兩端少シク細マリ白色ヲ呈ス體軀ハ長橢圓形ニシテ肥滿シ腹端ニ向ヒテ稍細マリ暗紫色ヲ呈シ背面ニ短キ刺毛ヲ簇生ス囊長三耗幅二耗體長約三耗アリ

觸角ハ七環節ヨリ成リ第三環節最モ長ク第四環節之ニ次キ第五、六ノ兩環節最モ短シ各環節ニ數箇ノ長毛ヲ生ス口部ハ能ク發達スレトモ小サク絲狀口器ハ短シ三對ノ脚ハ殆ト同大ニシテ脛節ハ附節ト略同長ニ爪ハ大ナリ腹部ノ末端ハ分レテ二瓣トナリ一箇ノ長毛ト數箇ノ短キ刺毛トヲ有ス肛門輪ニ八箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 體軀ハ細長ニシテ紫赤色ヲ帶ヒ少シク暗色ヲ交ユ頭部ハ不正橢圓形ニシテ横ニ潤ク眼ハ二對ニシテ黑色ヲ呈ス觸角ハ九環節ヨリ成リ略體ト同色ナルモ末端ニ至ルニ從ヒ漸次淡色トナル各環節ニ短毛ヲ粗生ス第二環節最モ長ク其ノ他ノ環節ハ末節ニ至ルニ從ヒ漸次小形トナル胸部ハ幅最モ潤ク著色濃厚ナリ三對ノ脚ハ觸角ト同色ニシテ各環節ニ微毛ヲ生シ脛節ハ腿節ヨリ少シク長ク附節ハ甚タ短シ翅ハ潤大ニシテ白色半透明ナレトモ鏡檢ス

ルトキハ碧藍色ノ光澤ヲ有ス平均棍ハ小ニシテ淡黄色ヲ帶フ腹部ハ細長ニシテ腹端ニ近ク二箇ノ白毛蠟質纖維ヲ有ス交接器ハ短小ナリ體長〇九耗幅〇三一耗翅開張二三耗アリ  
卵 卵圓形ニシテ紫赤色ヲ呈ス長〇二三耗幅〇一七耗アリ雌蟲ヲ包被セル囊内ニ不規則ニ放産セラル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ體軀細長ニシテ兩端少シク細マリ紫赤色ヲ呈ス體縁及ヒ背面ノ中央ニハ二條ノ顯著アル刺毛ヲ生ス觸角ハ六環節ヨリ成リ各環節ニ微毛ヲ有ス第六環節最モ長ク第二、三ノ兩環節之レニ次キ第一環節ハ最モ短クシテ太ク第四、五ノ兩環節ハ略同大ナリ三對ノ脚ハ能ク發達シ後脚ハ前、中脚ニ比シ稍大ナリ跗節ハ脛節ニ比シ甚タ長シ尾端ハ分レテ二瓣トナリ一箇ノ長毛ト二箇ノ短毛トヲ有ス肛門輪ニハ六箇ノ刺毛ヲ生ス體長約〇四四耗幅〇二耗アリ

蛹及繭 蛹ハ長橢圓形ニシテ紫赤色ヲ呈シ交接器ノ兩側ニ二箇ノ硬毛ヲ有ス全體白粉ヲ以テ裝ハル體長一耗幅〇四六耗アリ繭ハ長橢圓形ニシテ白色ヲ呈シ長〇四四耗幅〇二耗アリ

經過

年二回ノ發生ニシテ卵態ニテ越冬シ第一回ノ幼蟲ハ六月中旬頃第二回ノ幼蟲ハ八月下旬頃孵化シ十月下旬ニ至リ成蟲トナリテ産卵ヲ始ム今農商務省農事試驗場ニ於ケル飼育ノ結果ヲ舉レハ左ノ如シ

明治四十三年六月十三日 孵化

同	七月二十五日	蛹化雄
同	七月三十日	羽化雄
同	八月五日	産卵
同	八月三十日	孵化
同	九月二十五日	蛹化雄
同	十月六日	羽化雄
同	十月三十日	産卵

此卵ニテ越冬ス

被害植物

百日紅無花果柘榴

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ未タ外國ニ於テハ之レカ發生ヲ認メス該蟲ノ發生多キトキハ煤病ヲ併發セシメ枝葉ノ全面ハ之レカ爲メニ黒變スルコトアリ以テ著シク樹ノ生理的作用ヲ障害ス

(四十六) きふくろかひがらむし

黄囊介殼蟲

*Eriococcus japonica* Kuw.

(第二一圖版一一)

形態

雌蟲 體軀ヲ被覆スル囊ハ綿絮質ニシテ淡黄色ヲ呈シ橢圓形ヲ成ス體ハ略橢圓形ニシテ尾端ニ向ヒテ少シク細マリ環節明瞭ナリ體長約一耗幅〇五耗囊長一七耗アリ  
觸角ハ五環節ヨリ成リ第五環節最モ長ク第三環節之ニ次キ第四環節最モ短シ各環節ニ細毛ヲ生ス脚ハ能ク發達シ三對相似テ前脚ノ一對ハ他ノ二對ヨリ稍小ナリ脛節ノ長サハ跗節ヨリ短ク爪ハ大ナリ腹端ハ二瓣ニ分レ一箇ノ長毛ト數箇ノ短毛トヲ有ス肛門輪ニ六箇ノ長毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 長橢圓形ニシテ黄褐色ヲ呈ス長〇七耗アリ

經過

未タ精査ヲ經スト雖モ年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ

被害植物

はいのき (方言)

分布

本邦

因曰 該蟲ハ本邦ノ原産ニシテ著者嘗テ福岡縣下ニ於テ一回採集セシコトアルノミ

だくちろびうす屬

Genus *Dactylopius*

特徴

雌蟲 體軀ハ蠟質ノ白粉ヲ以テ裝ハレ觸角ハ八環節ヨリ成リ普通第八環節最モ長シ脚ハ能ク發達シ腹端ハ分レテ二瓣ヲ成スモ顯著ナラス肛門輪ニ六箇ノ顯著ナル刺毛ヲ有ス  
雄蟲 腹部ハ八環節ヨリ成リ二箇ノ白毛狀ノ蠟質纖維ヲ有ス交接器ハ短ク繭ハ綿絮狀ニシテ長橢圓形ナリ

(四十七) ながをこなかひがらむし

長尾粉介殼蟲

*Dactylopius longispinus* Targ.

(*Pseudococcus longispinus*)

(第二〇圖版一〇第二一圖版一二乃至一五)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ肥大シ白粉ヲ以テ背面ヲ裝フ體色ハ帶黃淡綠色ナリ體縁ニ白色蠟質ノ突起ヲ羅列ス其ノ腹端ニ在ル四箇ハ甚タ長ク殊ニ其ノ二箇ハ體ヨリ長シ體長三乃至五耗幅二耗アリ

至五耗幅二耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第三八ノ兩環節ハ殆ト同長ニシテ最モ長ク第二環節之ニ次キ其ノ他ノ環節ハ稍相似テ短ク各環節ニ長毛ヲ生ス口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ脚ハ三對相似テ大ナリ脛節ハ跗節ノ約三倍アリ爪ハ大ニシテ短ク冠球毛ハ顯著ナリ背皮ニハ幾多ノ小圓形分泌窩ト微毛トアリ腹端ハ二瓣トナリ二箇ノ刺毛ト一箇ノ長毛ヲ生シ肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ生ス

雄蟲 かむすとつく氏ニ依レハみかんのこなかひがらむしニ類似スト云フ

卵 橢圓形淡黃赤色ヲ呈シ長約〇・三耗アリ白色蠟質ノ綿塊内ニ包藏セララルかむすとつく氏等ニ依レハ胎生ヲ營ムモノノ如シ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長橢圓形ニシテ卵ト略同色ナリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第三環節最モ長シ眼ハ暗紫色ヲ呈ス體長約〇・三六耗アリ

經過

未タ詳ナラサルモ年數回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ特ニ溫室内ニ於テ繁殖甚タシトス

被害植物

柑橘くろとん無花果棕櫚まんご羊齒ぐわば等

分布

本邦歐洲南米北米合衆國布哇亞非利加濠洲等

因曰 本邦ニ於テハ未タ大害ヲ爲スモノナシト雖モ溫室内ノ外柑橘園ニみかんのこな

かひがらむしト共ニ之ヲ認ム

(四十八) みかんのこなかひがらむし

蜜柑粉介殼蟲

*Daedylopius citri* Risso

(*Pseudococcus citri*)

(第二〇圖版一一第二一圖版一六乃至一九)

形態

雌蟲 前種ニ似テ背面ハ多ク白粉ヲ以テ裝ハレ體縁ノ白色蠟質ノ突起ハ短ク略同長ニシテ腹端ニ在ル二箇ハ稍長シ體長三五乃至四耗幅二乃至二五耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第八環節ハ第三環節ヨリ遙ニ長シ各環節ニ長毛ヲ生ス口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ長シ三對ノ脚ハ相似テ多毛ナリ跗節ノ長ハ脛節ノ二分ノ一ニ過キス爪ハ細長ニシテ彎曲セリ腹端ノ縫レハ淺キモ二瓣トナリ二箇ノ刺毛ト一箇ノ長毛トヲ生ス肛門輪ニアル六箇ノ長毛ハ顯著ナリ

雄蟲 體軀ハ細長ニシテ淡黃褐色ヲ呈シ觸角ハ少シク赤味ヲ帶フ頭部ハ球狀ニシテ眼ハ暗褐色ヲ呈シ殆ント無毛ナリ觸角ハ十環節ヨリ成リ第三十ノ兩環節最モ長ク第二六七八及ヒ九環節略同長ニシテ短シ脚ハ細長ニシテ多毛ナリ腹端ニ近ク二個ノ白毛狀蠟質纖維ヲ有

ス體長〇九耗翅開張二五耗アリ

卵 長橢圓形淡黃色ニシテ長約〇二五耗アリ白色綿塊内ニ包藏セラル

幼蟲 長橢圓形ニシテ卵ト略同色ナリ觸角ハ六又ハ七環節かむすとく氏ニヨレハ六環節ノモノハ雌ヨリ成リ三對ノ脚ハ相似テ跗節ハ脛節ヨリ長シ體長約三耗アリ

經過

年數同ノ發生ヲ營ムモノノ如キモ生育甚タ不同ナリ特ニ温室内ニテハ常ニ卵幼蟲及成蟲ノ各期ヲ見ル

被害植物

柑橘珈琲苺棉葛牡丹棕櫚其他温室植物等

分布

本邦歐洲南米北米合衆國布哇亞非利加西印度諸島等

因曰 此蟲ハ歐米各國共ニ柑橘ニ發生シ大害ヲ爲ス近年興津其他各地ノ柑橘園ニ發生シ漸次加害増進ノ傾アリ注意ヲ要ス

(四十九) くはのこなかひがらむし

桑粉介殼蟲

*Daedylopius comstocki* Kuw.

(Pseudococcus conislockii)

(第二二圖版一三)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形肥大ニシテ腹端ニ向ヒテ幅少シク狭ク蠟質ノ白粉ヲ以テ裝ハレ帶紫褐色ヲ呈ス苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ紫色ニ變ス體長約四耗幅二耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第八環節最モ長ク第三環節之ニ次キ第二環節ハ第三環節ヨリ僅ニ短ク其他ハ略同長ナリ第八環節ニハ多數ノ長毛ヲ生シ其ノ他ニハ少數ノ短キ細毛ヲ生ス口部大ニシテ絲狀口器ハ甚タ長シ脚ハ三對相似テ脛節ハ腿節ト殆ト同ク跗節ノ約三倍アリ爪ハ短大ニシテ彎曲シ冠球毛ハ顯著ナリ腹端ハ二瓣ニ分レ一箇ノ刺毛ト一箇ノ長毛トヲ生ス肛門輪ノ六毛ハ顯著ナリ

雄蟲 明石氏ニ依レハ體軀ハ細長ニシテ暗黄色ヲ呈シ複眼ハ黑色ナリ腹部ノ第八九ノ兩環節ノ後端ヨリ各一對ノ白色蠟質纖維ヲ出シ第九環節ニアルモノハ體ヨリ長ク第八環節ニアルモノハ其ノ二分ノ一ニ達セス

經過

明石氏ニ依レハ年三回ノ發生ニシテ雄蟲ハ繭内ニ蛹態ニテ雌蟲ハ根際ニ近キ裂隙ニ於テ越冬ス雄蟲ハ四月下旬羽化シ交尾ノ後斃死シ雌蟲ハ五月中旬桑葉ノ裏面ニ移行シ産卵ス解化セル幼蟲ハ葉裏ニアリテ汁液ヲ吸收シテ生長シ雄蟲ハ枝幹ニ移リ灰褐色橢圓形ノ繭ヲ營ミ蛹化ス雌蟲ハ再ヒ桑葉ノ裏面ニ産卵シ晩秋ニ至リ第三回ノ幼蟲ハ枝幹ニ移リ雄蟲ハ結繭

化蛹シ雌蟲ハ裂隙ヲ求メテ其間ニ越冬ス

被害植物

桑

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリ未ダ發生尠ク大害ヲ爲スニ至ラス

(五十) まつのこなかひがらむし

松粉介殼蟲

*Dactylopius pini* Kuw.

(*Pseudococcus pini*)

(第二二圖版三乃至五)

形態

雌蟲 松ノ新芽ニ寄生シ白色綿質ノ分泌物ヲ以テ覆ハル體軀ハ橢圓形赤褐色ヲ呈シ觸角ト脚トハ黄褐色ナリ苛性加里液ニテ煮ルトキハ紫色ニ變ス體長約四耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第八環節最モ長ク普通第四環節最モ短シ各環節特ニ第八環節ニ幾多ノ長毛ヲ生ス觸角式ノ二例左ノ如シ

8, 2, 3, 1, 6, 7, 5, 4.  
8, 2, 3, 1, 7, 4, 5, 6.

背皮ニハ數多ノ微毛ト小圓形分泌窩トヲ有ス三對ノ脚ハ相似テ跗節ノ長ハ脛節ノ二分ノ  
一ニ滿タス肛門輪ニ六箇ノ顯著ナル刺毛ヲ生ス尾端ノ形狀ハ前種ニ似タリ

雄蟲 未詳

卵 橢圓形淡赤褐色ヲ呈ス長約〇.三耗アリ雌蟲ノ分泌セル蠟質綿塊中ニ包マル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ橢圓形淡赤褐色ニシテ觸角ハ五環節ヨリ成リ第五環節最モ長シ  
體長約〇.三五耗アリ

經過

年一回ノ發生ナルカ如シ六七月ノ交老熟セル雌蟲ヲ見ル

被害植物

松

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリ松ノ新芽ヲ侵シテ時ニ被害大ナルモノアリ

(五十一) ふぢのこなかひがらむし

藤粉介殼蟲

*Daetyllopius kronhiae* Kuw.

(*Pseudococcus kronhiae*)

(第二二圖版六.七)

形態

雌蟲 體軀ハ擴橢圓形ニシテ赤褐色ヲ呈ス白色粉狀蠟質物ヲ以テ覆ハル體長約二耗幅一

五耗アリ

觸角ハ八環節ヨリ成リ第八環節最モ長ク第七環節最モ短シ各環節特ニ第八環節ニ多數ノ  
長毛ヲ生ス口部ハ稍小ナルモ絲狀口器ハ甚タ長シ脚ハ三對相似テ脛節ノ長ハ跗節ノ二倍以  
上アリ各環節ノ背面ニ横走セル一列ノ刺毛ト數多ノ小圓形分泌窩ヲ有ス腹端ハ二瓣トナリ  
一箇ノ長毛ト二箇ノ刺毛アリ肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

經過

未詳

被害植物

藤



分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ藤ノ根部ニ寄生ス

ふゑなこつくす屬

Genus *Phenacoccus*

特徴

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ背面腫起シ少シク白粉ヲ以テ裝フ産卵期ニ達スレハ白色綿絮様ノ蠟質物ヲ分泌シテ卵囊ヲ營ミ其ノ内ニ産卵ス産卵ヲ終リタルトキハ體軀ハ大ニ瘠セテ卵囊ノ前端ニ存在シ殆ント分泌物ヲ以テ被覆セラレテ僅ニ外面ニ現レタリ觸角ハ九環節ヨリ成リ脚ハ完全ニ發達シ肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス

(五十二) おほわたかひがらもどき

大擬綿介殼蟲

*Phenacoccus pergandei* Okll.

(第二二圖版八乃至一四第二三圖版一二)

形態

雌蟲 成熟シタル雌蟲ノ體軀ハ扁平橢圓形ニシテ背面隆起シ腹部ノ環節ハ判然セリ綿絮質ヲ以テ覆ハレ紫褐色ヲ呈ス産卵ヲ終リタル雌體ハ卵囊ノ前端ニアリ殆ント卵囊ヲ以テ被覆セラル卵囊ハ白色綿絮狀ノ蠟質物ヨリ成リ背面ニ縱走セル三箇ノ凹線アリテ全長ノ三分

ノ二ニ達セリ卵囊長約三〇耗體長三耗幅二耗内外アリ

觸角ハ九環節ヨリ成リ通常第三環節最モ長ク第二環節之ニ次キ殆ント同長ナリ而シテ第八環節最モ短シ各環節殊ニ第九環節ニ幾多ノ長毛ヲ有ス觸角式左ノ如シ

3, 2, 1, 4, 5, 6, 9, 7, 8.

脚ハ三對相似テ能ク發達シ稍短大ナリ跗節ノ長ハ脛節ノ約三分ノ一ニ過キス爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ内縁ニ鋸齒ヲ有ス冠球毛ハ二對ニシテ其ノ跗節ノ末端ニアルモノハ細長ク爪ノ基部ニアルモノハ短大ニシテ棍棒狀ヲ呈ス口部ハ小ニシテ絲狀口器ハ短シ背皮ニ幾多ノ小圓形分泌窩ト微毛トヲ有ス肛門輪ハ大ニシテ六箇ノ刺毛ヲ有ス腹端ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛ト數箇ノ刺毛トヲ有ス

雄蟲 體軀ハ細長ニシテ胸部ノ幅最モ濶ク淡黃灰色ヲ呈シ眼ハ紫色ヲ帶フ頭部ハ略圓形ナルモ少シク幅濶ク前方稍尖レリ觸角ハ十環節ヨリ成リ第一二ノ兩環節ハ短大其ノ他ノ環節ハ細長ニシテ略相似タリ各環節ニ幾多ノ細毛ヲ生ス脚ハ細長ニシテ三對相似タリ跗節ハ脛節ノ三分ノ一ニ過キスシテ幾多ノ微毛ヲ生ス爪ハ比較的大ニシテ少シク彎曲セリ翅ハ透明ニシテ背上ニ疊ムトキハ交接器ヨリモ長シ腹部ハ細長ニシテ第七八ノ兩環節ノ左右ニ各二箇ノ長毛ヲ有ス交接器ハ短大ニシテ略圓錐形ヲ成セリ體長約二耗翅開張三五耗アリ

卵 橢圓形淡黃色ニシテ長約〇三耗アリ卵ハ卵囊内ニ包藏セラレタリ一雌蟲ノ産卵數ハ凡ソ一千二百乃至二千餘粒ノ多キニ達セリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ黃色ヲ呈ス脚及ヒ觸角ハ能ク發達シ淡黃色ヲ

呈シ眼ハ小ニシテ赤色ヲ帶フ觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク其ノ他ノ環節ハ短クシテ殆ント同長ナリ各環節ニ長毛ヲ生ス脚ハ三對略相似テ跗節ハ脛節ニ比シ少シク長シ腹端ハ分レテ二瓣トナリ一箇ノ長毛ヲ有ス體長約〇三耗アリ

蛹及繭 蛹ハ肥大ニシテ淡黃色ヲ呈ス觸角及ヒ脚ノ位置ハ他屬ト其ノ趣ヲ同クス腹部ノ幅ハ殆ント胸部ト同シク交接器ハ短大ニシテ尖端急ニ尖レリ腹端ノ數環節ハ其ノ兩側ニ鋸齒狀ノ突起ヲ有ス體長約一五耗アリ

繭ハ長橢圓形ニシテ白色綿絮狀ノ蠟質ヨリ成リ長サ約二耗アリ多ク樹枝ニ附著シ往々群集スルコトアリ

經過

年一回ノ發生ヲ營ミ幼蟲態ニテ越冬シ翌年五月下旬頃ニ至リテ成蟲トナリ産卵ヲ始ム今農商務省農事試驗場ニ於ケル飼育成績ニ依レハ左ノ如シ

明治三十九年五月下旬	産卵
同 六月上旬	孵化
同 六月中旬	幼蟲多ク葉ノ裏面ニ固著ス
同 十一月上旬	幼蟲樹幹ニ移轉ス
同 同四十四年四月上旬	蛹化(雄)
同 同 四月中旬	羽化(雄)

被害植物

桑柿椀無花果萃樹皆あかめかしわ等

分布

本邦

因曰 該種ハ本邦ノ原産ニシテ各地ノ桑園ニ發生ス地方ニ依リテハ柿ニ大害ヲ爲スコトアリ

(五十三) ひめわたかひがらもどき

姫擬綿介殼蟲

*Phenacoccus azaleae* Kuw.

(第二三圖版三乃至五第二四圖版一乃至四)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ少シク尾端ニ向ヒテ細マレリ淡褐乃至煉瓦色ニシテ背線ハ淡色觸角及ヒ脚ハ淡褐色ナリ産卵前ハ全體少シク粉狀蠟質物ヲ以テ裝ハレタリ卵囊ハ白色細長ニシテ兩側稍平行シ綿絮狀ニシテ産卵ヲ終レハ體軀ハ卵囊ノ前端ニ在リ殆ント分泌物ヲ以テ全體ヲ被覆セラレタリ體長三乃至三五耗幅二乃至二五耗卵囊六乃至一二耗アリ  
觸角ハ九環節ヨリ成リ第二環節最モ長ク第三環節之ニ次キ第七八ノ兩環節ハ略同長ニシテ最モ短シ各環節ニ長毛ヲ有ス觸角式ノ三例左ノ如シ

2, 3, (4, 5, 9), (1, 6), (7, 8).

2, 3, 5, 9, (1, 6, 7), 4, 8.

2, 3, (5, 9), 4, (1, 6), (7, 8).

口部ハ小ニシテ絲狀口器ハ比較的短ク三對ノ脚ハ略同大ニシテ脛節ノ長ハ跗節ノ約三倍アリ爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ内縁ニ鋸齒ヲ有ス跗節ノ末端ニアル冠球毛ハ細長ク其ノ爪ノ基部ニアルモノハ短大ニシテ棍棒狀ヲ成ス背皮ハ厚ク微毛ヲ簇生シ且ツ多數ノ小圓形分泌窩ヲ有ス腹端ハ二瓣トナリ一箇ノ長毛及ヒ數箇ノ短キ刺毛ヲ有ス肛門輪ニ六箇ノ顯著ナル刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形檸檬色ニシテ長〇二五耗幅〇一一耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ黄色ヲ呈シ眼ハ赤色ニシテ顯著ナリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長シ口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ脚ハ甚タ大ニシテ脛節ト跗節トハ略同大ナリ體側ニハ一列ノ顯著ナル刺毛ヲ有ス腹端ハ二瓣トナリ之ニ短長各一箇ノ毛ヲ有ス體長〇三耗幅〇一五耗アリ

經過

精査ヲ經スト雖モ年一回ノ發生ナルカ如シ雌蟲ハ五六月ノ交産卵シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

躑躅

分布

本邦

因曰 該種ハ本邦ノ原産ニシテ著者カ東京府下西ヶ原ニ於テ採集セシ標本ヨリ原記載ヲ爲シタルモノニシテ發生多キ時ハ著シク被害ス山形縣下米澤方面ニテハ年々發生多ク被害大ナルモノアリト云フ

(五十四) たけのわたかひがらもどき

竹擬綿介殼蟲

*Phenacoccus takae* Knu.

(第二三圖版六七第二四圖版五乃至七)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ肥滿シ淡黄色ヲ呈シ苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ暗紫色ニ變ス全體白粉ヲ以テ裝フ環節判然シ體ノ周圍ニ短キ蠟質白毛狀突起ヲ備ヘ又背面ニ光澤アル絹絲狀ノ白纖維ヲ散生ス體長約六耗幅三耗アリ

觸角ハ九環節ヨリ成ルモ往ハ八環節ヨリ成ルコトアリ其ノ八環節ノモノニアリテハ第八環節九環節ノモノニアリテハ第二環節最モ長ク前者ニアリテハ第六七ノ兩環節後者ニアリテハ第七八ノ兩環節最モ短シ各環節ニ長毛ヲ生ス觸角式ノ二例左ノ如シ

3, 2, 3, 1, 5, 4, (6, 7),  
2, (9, 3), 1, 4, 5, 6, (7, 8).

口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ三對ノ脚ハ相似テ同大ナリ脛節ハ跗節ノ二倍アリ腹部ノ末端ハ分レテ二瓣トナリ數箇ノ短毛ト一箇ノ長毛トヲ生ス肛門輪ニ大ナル六箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 橢圓形淡黄色ニシテ長〇三三耗幅〇一六耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ橢圓形淡黄色ニシテ眼ハ濃赤色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長シ體長〇三九耗幅〇一七耗アリ

經過

未タ精査ヲ缺クモ年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ雌蟲ハ六月頃産卵シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

竹

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ竹ノ新梢ニ寄生ス著者ハ最初之ヲ *Daetyllopius* 屬ニ編入シタルモ其ノ後研究ノ結果觸角ノ九環節ヨリ成レルモノノ反テ八環節ヨリ成レルモノヨリ多キヲ認メタルヲ以テ今更メテ之ヲ *Phenacoccus* 屬ニ編入スルコトトセリ蓋シ右兩

一二四  
屬ノモノハ其ノ形態甚タ酷似セルカ故ニ之ヲ區別スルニ困難ナルモノアリ而シテ觸角ノ八環節ナルハ前者ニシテ九環節ナルハ後者ナリトス然レトモ *Pleurococcus* 屬ノモノニシテ往々同種中箇體ニヨリ八環節ノ觸角ヲ有スルモノアリ即チ本種ノ例ニ依リテ明ナリ

すふゑろこつくす屬

Genus *Spherococcus*

特徴

雌蟲 體軀ハ白色綿絮様蠟質分泌物ヲ以テ包被セラレ老熟期ニ達スレハ脚ヲ缺如ス觸角ハ之ヲ有スルモノト有セサルモノトアリ觸角ハ甚タ退化セル圓錐形ノ一環節ヨリ成リ肛門輪ニ毛ヲ有セス

(五十五) さくらのあかかひがらむし

櫻赤介殼蟲

*Spherococcus parvus* CHU.

(*Kiwania parvus*)

(第二三圖版八第二四圖版八乃至一一)

形態

雌蟲 體軀ハ球形ニシテ赤色ヲ呈ス主ニ樹皮ノ裂目等ニ棲息シ白色綿絮質ヲ以テ包被セラレタリ體長約一耗アリ

觸角ハ大ニ退化セル圓錐形ノ一環節ヨリ成リ尖端ニ數毛ヲ有ス口部ハ大ニシテ絲狀口器

ハ甚タ長シ脚ハ全ク之ヲ缺如シ肛門輪ニハ毛ヲ有セサルカ如キモ高度ノ顯微鏡ヲ以テ檢ス  
ルトキハ六箇ノ微毛ヲ有ス背皮ニハ無數ノ小分泌窩ヲ有シ氣門ハ大ニシテ顯著ナリ

雄蟲 未詳

幼蟲 赤色ニシテ環節判然シ觸角ハ三環節ヨリ成ル

經過

年一回ノ發生ナルカ如キモ未タ之カ精査ヲ缺ク

被害植物

櫻

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ東京附近ニ普通ナリ本種ハ肛門輪ニ六箇ノ微毛ヲ有スルカ  
故ニ *Spheroecus* 屬ヨリ分離シテ *Kawainia* 屬ヲ創設セシモノアリト雖モ著者ハ姑ク之  
ヲ變替セス後日ノ研究ヲ俟ツ

### あんとな屬

Genus Antonin

特徴

雌蟲 體軀ハ白色綿絮様蠟質ノ介殼囊ヲ以テ包マレタリ其ノ囊ノ一端ヨリ一箇ノ長キ白  
毛狀ノ蠟質纖維ヲ出ス觸角ハ之ヲ有スルモノト有セサルモノトアリ脚ハ之ヲ缺如ス肛門輪  
ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス

幼蟲 腹部ノ末端ハ明ニ二瓣トナリ觸角ハ六環節ヨリ成ル肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス

(五十六) たけのしろをかひがらむし

竹白尾介殼蟲

*Antonin cravii* CHIL

(第二三圖版九一〇第二四圖版一二乃至一五)

形態

雌蟲 體軀ヲ包被スル綿絮質ノ囊ハ橢圓形ニシテ其ノ一端ヨリ光輝アル白毛狀ノ長キ纖  
維ヲ生ス體軀ハ橢圓形暗紫色ニシテ環節判然シ苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ暗紫色ニ變ス  
囊長約四耗體長約三五耗幅一七耗アリ

觸角ハ甚タ短ク四環節ヨリ成リ脚ハ全ク之ヲ缺如シ背皮ニ數多ノ小圓形分泌窩ヲ有ス

雄蟲 未詳

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ紫色ヲ呈シ觸角ハ六環節ヨリ成リ三對ノ脚ハ能ク發達シ殆ト同  
大ナリ脛節ハ跗節ヨリ短シ肛門輪ニ六箇ノ刺毛ヲ有ス

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シト雖モ未タ精査ヲ經ス

被害植物

竹

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリトス

### らいばーしあ屬

Genus *Ripersia*

特徴

雌蟲 だくちろひうす屬ニ酷似シ白粉ヲ以テ裝ハル觸角ハ六環節往々五又ハ七環節ナルコ  
トアリヨリ成リ脚ハ完全ナリ腹端ハ分レテ二瓣トナル主ニ禾本科植物ノ根部又ハ葉鞘下ニ  
棲息シ往々蟻類ト共棲ス

(五十七) かやのこなかひがらもどき

萱擬粉介殼蟲

*Ripersia japonicus* Knw.

(第二六圖版一乃至三)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平長橢圓形ニシテ環節判然シ淡黃赤色又ハ暗紫色ヲ呈シ少シク白粉ヲ以  
テ裝フ苛性加里液ヲ以テ煮ルトキハ赤紫色ニ變ス體長四乃至五耗幅二五耗アリ  
觸角ハ七環節ヨリ成ルモ往々六環節ノモノアリ其ノ七環節ノモノニアリテハ第七環節最モ  
長ク又六環節ノモノニアリテハ第六環節最モ長シ各環節特ニ末環節ニ數多ノ長毛ヲ生ス觸

角式ノ二例左ノ如シ

6, 2, 3, 5, 4, 1.

7, 2, 1, 3, 6, 4, 5.

口部ハ能ク發達セルモ小ニシテ絲狀口器ハ短シ脚ハ三對略同大ニシテ脛節ハ跗節ヨリ長ク爪ハ短大ナリ背皮ニ數多ノ小圓形分泌窩ヲ有ス肛門輪ニ六箇ノ長毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

經過

未タ調査ヲ缺クモ著者ハ六月頃老熟セル雌蟲ヲ採集セリ

被害植物

萱

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ寄主植物ノ葉鞘下ニ棲息ス

(五十八) いねのこなかひがらもどき

稻擬粉介殼蟲

*Hipersia oryzae* Kuw.

(第二三圖版一—二第二六圖版四乃至七)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ肥大ナリ環節ハ判然シ全體白粉ヲ以テ包被セラレ地色ハ黃褐ナリ體長約二耗アリ

口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ殆ント後胸部ニ達ス觸角ハ短大ニシテ五又ハ六環節ヨリ成リ各環節ノ長ニ不同アリ觸角式ノ四例左ノ如シ

2, 5, (1, 3, 4).

5, (1, 2), (3, 4).

6, (1, 2, 3), (4, 5).

6, 1, (2, 3, 4, 5).

脚ハ三對相似テ短ク脛節ハ大ニシテ脛節ハ跗節ト殆ント均シキカ然ラサレハ少シク短シ跗節ハ後方ニ向テ漸次細ク末端ニ細長ニシテ少シク屈曲セル爪ヲ有ス腹端ハ分レテ二瓣ト成リ稍革質ニシテ幾多ノ微毛ヲ有シ又其ノ尖端ニ一箇ノ鈎狀附器ヲ備フ肛門輪ハ大ニシテ六箇ノ長毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

幼蟲 體軀ハ長橢圓形ニシテ觸角及ヒ脚ハ略雌蟲ニ似タリ

經過

未タ詳ナラス主ニ陸稻ノ根部ニ寄生シ蟻ト共棲スルモノアリ冬期ハ蟻巢内ニ潜伏シ春期



寄主植物ノ發育スルニ至レハ蟻ニ依リテ運搬セラレ直ニ其ノ根部ヲ侵害スト云フ

被害植物

陸稻粟黍蜀黍等

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ其ノ腹瓣ノ末端ニ鈎狀附器ヲ有スルハ他ニ其ノ例ナキ特徴ナリ此特徴ハ新屬ヲ創立スルニ足ランカ姑ク後日ノ研究ニ俟タン

まーがろて亞科

Subfamily Margarodinae

本亞科ニ屬スル介殼蟲ノ雌蟲ハ肛門輪無毛ニシテ成熟期ニ於テハ口部ヲ缺如ス體軀ハ綿絮質ノ分泌物ヲ以テ包被セラル  
雄蟲ハ一對ノ複眼ヲ有ス

くはにあ屬

Genus Kuwania

特徴

雌蟲 體軀ノ環節ハ判然シ白色綿絮様蠟質分泌物ヲ以テ被ハレタリ觸角ハ九環節ヨリ成  
ル脚ハ能ク發達シ口部ハ全ク之ヲ缺如ス

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ完全ナル觸角ト脚トヲ有シ口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ

因曰 本屬ハ元ト *Sasakia* ト稱セシモ已ニ鱗翅類ニ其ノ名アルヲ以テ *Kuwania* ト改稱  
セリ

(五十九) かしのあかかひがらもどき

樫擬赤介殼蟲

*Kuwanin quereus* Kuw.

(第二五圖版一、二 第二六圖版八乃至一一)

形態

雌蟲 通常樹皮ノ凹處ニ棲息シ蠟質ノ白色綿塊内ニアリ往々無數相集合ス體軀ハ橢圓形肥大ニシテ頭端ハ腹端ヨリ幅狹ク赤色ヲ呈ス體長約二耗アリ

觸角ハ九環節ヨリ成リ各環節略同長ニシテ其ノ基部ハ少シク縮レ第一環節ハ他ノ環節ヨリ太ク且ツ長シ各環節ノ上端ニ近ク横列ニ微毛ヲ生ス脚ハ三對略同大ニシテ腿節ハ著シク膨大シ脛節ト稍其ノ長ヲ同シクス脛節ノ末端内縁ニハ六箇ノ冠球毛ヲ備フ跗節ハ脛節ノ約二分ノ一アリ爪ハ強靱ナリ背皮ニハ數多ノ小圓形分泌窩ヲ有ス

雄蟲 未詳

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長橢圓形ニシテ前方ニ向ヒテ幅狹ク赤色ヲ呈ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク他ノ五環節ヲ合セタルモノト同長ナリ各環節ニ微毛ヲ有ス觸角式左ノ如シ

6, 1, 3, 4, 5, 2.

口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ脚ハ能ク發達シ三對相似タリ體縁ニハ基部膨大セル刺毛

ヲ羅列ス尾端ニ二箇ノ長毛ヲ有ス體長〇・二〇乃至〇・二五耗アリ

幼蟲ノ稍成長シ體長一耗位ニ達シタルモノハ略圓形ニシテ觸角及ヒ脚ヲ缺如シ口部ハ大ニシテ絲狀口器甚タ長シ

經過

年一回ノ發生ヲ營ムモノノ如シ春期四、五月頃ヨリ雌蟲ノ現出ヲ見ル

被害植物

樫椎

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリトス

まつこつくす屬

Genus *Matsucoccus*

特徴

雌蟲 體軀ハ尾端ニ向ヒテ幅濶ク口部ヲ缺如シ觸角ハ十環節ヨリ成ル  
雄蟲 後翅ニ彎曲セル大ナル刺毛ヲ有ス  
幼蟲 觸角ハ七環節ヨリ成リ脚ハ腿節甚タ大ニシテ蟹ノ脚ニ似タリ

(六十) まつむらかひがらむし

松村介殼蟲

*Matsucoccus matsumurae* Kuw.

(第二五圖版三四第二六圖版一二乃至一七)

形態

雌蟲 體軀ハ卵圓形ニシテ肥大ナリ頭端ニ向ヒテ少シク幅狭ク環節ハ判然セリ淡褐色ニシテ觸角ハ淡色ナリ自由ニ活動スレトモ産卵期ニ至レハ樹皮ノ裂目等ニ潛伏シ白色ノ蠟質物ヲ分泌シテ體軀ヲ包被シ次テ産卵ス體長約四五耗幅二耗アリ  
觸角ハ相接近シ十環節ヨリ成リ第一環節最モ長ク第三環節之ニ次キ第八九十ノ三環節ハ

略、同長ニシテ最モ短シ各環節ニ短毛ヲ生ス口部ハ全ク之ヲ缺如ス脚ハ大ニシテ三對相似タリ轉節ハ小ニシテ三角形ヲ成シ一箇ノ刺毛アリ腿節ハ脛節ヨリ僅ニ長ク脛節ハ跗節ヨリ甚タ長シ跗節ニハ魚鱗狀ノ斑紋ヲ有ス爪ハ大ニシテ短ク且ツ少シク彎曲セリ冠球毛ハ四箇ニシテ其ノ爪ニアル二箇ハ短大ナルモ跗節ノ末端ニアル二箇ハ細長ナリ腹部ノ末端ハ分裂セス且ツ長毛ヲ有セス背皮ニハ無數ノ微毛ト圓形分泌窩トヲ有ス

雄蟲 腹部ハ橙褐色胸部ハ暗黒色頭部ノ前端ハ黒色ニシテ複眼ハ暗紫色ヲ呈ス觸角ハ九環節ヨリ成リ第一環節ハ短クシテ幅濶ク他ノ環節ハ稍細長ニシテ各環節ノ相接スル所縱レタリ末環節ノ末端ニ四箇ノ冠球毛ヲ有ス脚ハ三對相似テ細長ク數多ノ微毛ヲ生ス脛節ハ跗節ノ三倍以上アリ跗節ノ皮面ニハ雌蟲ト同シク魚鱗狀ノ斑紋ヲ有ス冠球毛ハ顯著ナリ前翅ハ大ニシテ暗灰色ヲ呈シ前縁ニ沿ヒテ暗黒色ヲ呈ス二箇ノ透明線ノ翅脈ノ間ヲ走レルアリ又翅ニハ縮緬狀ノ斑紋ヲ有ス後翅ハ棍棒狀ニシテ末端ニ五箇ノ大ナル絲狀鈎ヲ有ス腹部ハ略圓錐形ニシテ末端ノ交接器ハ腹部ヨリ短ク少シク彎曲セリ第八環節ノ背面ニ十箇ノ蠟腺ヲ備フル短管狀突起アリ此蠟腺ヨリ銀毛狀ノ蠟質纖維ヲ分泌ス體長約二耗幅一耗翅開張四耗アリ

卵 橢圓形ニシテ光澤アル橙黄色ヲ呈ス其ノ一端ニ近ク二箇ノ黒點ヲ有ス長〇、一三耗幅〇〇五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長橢圓形ニシテ頭端ニ向ヒテ少シク幅狭ク環節ハ判然シ腹端ハ分裂セス淡黄色ニシテ黒紫色ノ眼ヲ備フ觸角ト脚トハ能ク發達シテ自由ニ活動スルコトヲ

得觸角ハ七環節ヨリ成リ第一環節最モ大ニシテ幅濶ク第二環節最モ長シ第四、六ノ兩環節之ニ次キ第三、五及七ノ三環節ハ略同長ナルモ第五環節最短ナリ第六、七ノ兩環節ニハ數箇ノ長毛ヲ有ス三對ノ脚ハ稍同大ニシテ基部ノ幅ハ其ノ長ヨリ濶ク轉節ハ小ニシテ三角形ヲ成シ附節ハ短小ニシテ殆ント脛節ノ二分ノ一ニ過キス爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ冠球毛ハ絲狀ヲ成ス口部ハ甚タ大ニシテ幾丁質ニ富ミ絲狀口器ハ甚タ長シ腹部ノ末端ニ短長二箇ノ毛ヲ生ス又第八環節ノ兩側ニハ一箇ノ圓形分泌窩ヲ有ス

經過

年一回ノ發生ニシテ雌蟲ハ初夏ノ頃産卵シ幼蟲態ニテ越冬ス被害甚シキニ至レハ寄主植物ヲ枯死セシムルコトアリ

被害植物

松

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリトス嘗テ本種ハ著者カざいろこつくす屬トシテ公ニセシモノナルカこつけれゝる氏ハ之ヲ從來知ラレタル種類ト比較シ著シキ差異アルモノト認め松ニ寄生スルノ故ヲ以テまつこつくすノ名ヲ以テ新屬ヲ創設セリ

ざいろこつくす屬

Genus *Xylococcus*

特徴

雌蟲 觸角ハ九環節ヨリ成リ腹端ハふらすこ狀ニ突出シ其ノ尖端ヨリ蠟質纖維ヲ出ス  
幼蟲 觸角ノ末環節ハ稍小ニシテ長毛ヲ生ス

(六十一) かぶらかひがらむし

燕善介殼蟲

*Xylococcus nupiformis* Kuw.

(第二五圖版五乃至七)

形態

雌蟲 體軀ハふらすこ狀ニシテ皮膚ハ堅ク滑ニシテ光澤アル黃褐色乃至暗褐色ニシテ腹端ノ突出部ハ黑褐色ヲ呈ス口部ハ能ク發達シ絲狀口器ハ甚タ長シ觸角及ヒ脚ハ全ク缺如セリ樹皮内ニ埋没シ尾端ヲ外部ニ顯シ其ノ末端ヨリ長キ白毛狀ノ蠟質纖維ヲ生ス

雄蟲 未詳

卵 體内ヨリ出シタル卵ハ淡紅色ニシテ紅色ノ小點ヲ有ス長〇三四耗幅〇一七耗アリ

幼蟲 長橢圓形ニシテ淡紅色ヲ呈ス環節ハ判然セリ觸角ハ三環節ヨリ成リ第三環節最長ニシテ數箇ノ長毛ヲ有ス脚ハ三對相似テ能ク發達シ稍、纖細ニシテ腿節ハ短シ爪ハ甚タ大ニシテ少シク彎曲シ冠球毛ヲ缺ク體側ニハ大ナル刺毛ヲ羅列シ肛門輪ニ四箇ノ棒狀蠟質纖維ヲ有ス尾端ニ二箇ノ長毛ヲ有ス長〇、四〇耗幅〇、一九耗アリ

經過

年一回ノ發生ニシテ幼蟲ハ五月末頃ヨリ現出シ行動甚タ活潑ナリ暫時ニシテ一定ノ場所ニ固著スレハ再ヒ動クコトナシ被害部ハ五倍子狀ヲ呈スルニ至ルヲ以テ直ニ之ヲ認ムルコトヲ得ヘシ

被害植物

襟

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ナリトスこつけれゝる氏ノ特徴ニ照ストキハ本屬ニ編入シ難キ感アリト雖モ嘗テ著者カ同氏ニ照會セシトキざゝいゝこつくす屬ナリト斷定セラレタリ尙ぐりーん氏ハ別屬ナラント云ヘリ茲ニハ姑ク前者ノ説ニ從フ

ものふれび亞科

Subfamily Monophlebinae

本亞科ニ屬スル介殼蟲ノ雌蟲ハ體軀略、裸出セルモノト綿絮狀又ハ塊狀ノ蠟質分泌物ヲ以テ裝ハレタルモノトアリ體軀ノ環節ハ判然シ三對ノ脚ハ略、同大ニシテ終生自由ニ行動ス觸角ハ九乃至十一環節ヨリ成リ肛門輪ニ刺毛ヲ有セス  
雄蟲ハ一對ノ複眼ヲ備フ

いせりあ屬

Genus Iceya

特徴

雌蟲 體軀ハ白粉狀又ハ綿絮狀ノ蠟質分泌物ヲ以テ被ハレ成蟲期ニ至ル迄活動力ヲ失フコトナシ觸角ハ十一環節ヨリ成リ産卵期ニ至レハ腹端ヨリ白色綿絮狀又ハ纖維狀ノ蠟質ヨリ成レル卵囊ヲ營ミ其ノ内ニ産卵スルヲ常トス背皮ニハ圓形分泌窩ト黒毛トヲ簇生ス  
雄蟲 腹端ニ長キ蠟質纖維ヲ備ヘス觸角ノ各環節ハ其ノ中央縱レテ亞鈴狀ヲ呈ス  
幼蟲 觸角ハ棍棒狀ヲ成シ六環節ヨリ成リ末環節ニ數箇ノ甚タ長キ細毛ヲ有ス

(六十二) わたふきかひがらむし

綿吹介殼蟲

*Teerya purchasi* Mask.

(第二五圖版八第二八圖版一乃至四)

形態

雌蟲 體軀ハ橢圓形ニシテ腹面ハ扁平ナリ背面ハ隆起シテ龜甲状ヲ成ス暗橙赤色ニシテ脚ト觸角トハ黒色ナリ背面ハ稍黃味ヲ帶ヒタル蠟質ノ白粉ヲ薄ク裝ヒ光澤アル白毛狀ノ蠟質纖維ヲ有ス又背面ニハ數箇ノ白色綿絮狀蠟質物ノ中央ヲ縱走スルアリ其ノ左右ニ數箇ノ橙赤色疣狀突起ヲ二列ツツ存シ體縁ニモ亦同様ノ突起ヲ排列ス老成スルトキハ卵囊ヲ營ミ其ノ内ニ産卵ス卵囊ハ白色綿絮狀ノ蠟質物ヨリ成リ略卵形ヲ呈シ寄主植物ニ接スル下面ハ扁平ナリ囊面ニハ通常十五箇ノ隆起線ヲ有ス體長四乃至五耗幅二五乃至三〇耗卵囊長四乃至八耗アリ

觸角ハ十一環節ヨリ成リ各環節ニ黒色ノ細毛ヲ生ス第十一環節最モ長ク第三環節之ニ次キ其ノ他ノ環節ハ略同長ニシテ短シ脚ハ短大ニシテ黒毛ヲ疎生ス腿節ハ肥大ナルモ脛節ヨリ短ク跗節ハ脛節ノ二分ノ一ニ滿タス爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ其ノ基部ニ二刺ヲ有シ冠球毛ヲ缺ク皮面ニハ黒色ノ短毛ヲ有シ其ノ背面特ニ體側ニアルモノハ稍長シ且ツ皮面ニハ顯著ナル數多ノ圓形分泌窩ヲ有ス

雄蟲

體軀ハ細長ニシテ頭胸及ヒ腹ノ三部明瞭ナリ橙赤色ヲ帶ヒ少シク白粉ヲ以テ裝フ眼ハ黒色球狀ニシテ頭部ノ兩側ニ突出ス觸角ハ十環節ヨリ成リ其ノ長ハ略體ト均シク一見連鎖狀ヲ呈ス第一環節ハ短大第二環節ハ圓筒形第三乃至第十環節ハ中央少シク縊レ亞鈴狀ヲナス第一環節ニハ不規則ニ短毛ヲ生シ第二乃至第十環節ニハ其ノ突出部ヨリ褐色ノ長毛ヲ生ス但シ此毛ハ末環節ニ至ルニ從ヒ稍短小ナル第一環節ハ橙赤色ニシテ背面ノ中央ニ黒條ノ走ルアリ第二乃至第十環節ハ黒色ナリ胸部ハ能ク發達シ中央部ノ幅最モ潤シ胸背ニハ略三角形ノ黒色突起部アリテ其ノ中央ハ橙赤色ヲ呈ス横板ハ顯著ニシテ黒色ナリ前翅ハ潤大ニシテ暗黒色ヲ呈シ縮緬様ノ模様ニ兩岐セル一脈ヲ有シ其ノ中間及ヒ後縁ニ沿ヒテ走ル白色ノ二脈狀縱線アリテ其ノ尖端ハ執レモ略翅縁ニ達ス後翅ハ退化シテ棍棒狀ヲナシ尖端ヨリ二箇ノ絲狀鈎ヲ生ス腹部ハ八環節ヨリ成リ尾端ニ向ヒテ稍細マリ黒色ノ微毛ヲ疎生ス脚ハ黒色ニシテ細長ク多クノ微毛ヲ有シ三對略同大ナリ跗節ハ脛節ノ二分ノ一ニ達セス末端ノ爪ハ尖レリ尾端ニ二箇ノ肉質突起アリ幾多ノ微毛ト數箇ノ長毛トヲ有ス體長約三耗翅開張七耗アリ

卵 橢圓形ニシテ橙赤色ヲ呈シ卵囊内ニ包藏セララル長〇六六耗幅〇三五耗アリ

卵囊ハ雌蟲ノ腹端ヨリ出テ卵形ニ膨大ス故ニ卵囊分泌前ノ雌蟲ハ樹面ニ密著スルモ卵囊ヲ完成スルニ至レハ雌體ノ腹部ハ自然寄主ト隔離シ殆ント直角ヲナス迄ニ反起スルモノアリ一卵囊内ニ包有スル卵數ハ平均二百五六十粒ナリ

第一齡幼蟲 第一齡即チ孵化當時ノ幼蟲ハ扁平橢圓形ニシテ暗紅色ヲ呈シ觸角眼及ヒ脚

ハ黑色ナリ 孵化當時ハ裸體ナルモ暫クスレハ僅ニ白粉ヲ裝フニ至ル尙數日ヲ經レハ背面黃白色ノ蠟質物ヲ以テ被ハル體長〇六六耗幅〇三五耗内外アリ

觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク棍棒狀ニ肥大セリ第一環節最モ短ク其ノ幅ハ長サヨリモ潤シ第二三四及ヒ五環節ハ略同形同大ナルモ第三環節稍長味アリ各環節ニ數箇ノ黑毛アリ猶ホ第六環節ノ末端ニハ四箇ノ長毛ヲ有ス口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ三對ノ脚ハ略同大ニシテ細長ク黑色細毛ヲ疎生ス腿節ハ肥大ナルモ脛節ヨリ短ク附節ハ脛節ノ二分ノ一ヨリ長シ爪ハ細長ニシテ少シク彎曲セリ背皮ニハ黑色ノ刺毛散生シ尾端ニ六箇ノ甚タ長キ毛アリ

**第二齡幼蟲 (雌)** 橢圓形ニシテ背面隆起セリ橙黃色ニシテ黑色ノ細毛ヲ散生ス蛻皮當時ハ裸體ナルモ數日ニシテ背面ヨリ黃白色ノ綿絮狀蠟質物及ヒ毛狀ノ蠟質纖維ヲ分泌ス體長一二八耗幅〇八六耗内外アリ

觸角ハ六環節ヨリ成リ淡黃色ニシテ細毛ヲ生ス孵化當時ノモノニ比スレハ遙ニ短小ナリ第六環節最モ長ク第三環節之ニ次キ第五環節最モ短シ脚ハ短大ニシテ黑ク附節ハ脛節ヨリ短シ背皮及ヒ脚ニハ黑毛ヲ疎生ス

**第三齡幼蟲 (雌)** 蛻皮當時ハ橢圓形橙赤色ニシテ背面隆起シ太キ横條アリテ蛙狀ヲ成シ微毛ヲ生ス裸體ナルモ一兩日ヲ經レハ背面ヨリ數多ノ光澤アル白毛狀ノ蠟質纖維ヲ生ス胸背ハ多少黃色ヲ帶ヒ他ハ殆ント橙赤色ナリ觸角及ヒ脚ハ暗色ヲ呈シ横皺ヲ現シ胸背ニハ稍高キ疣狀ノ分泌物ヲ生ス體長約二五耗幅一四耗アリ

觸角ハ九環節ヨリ成リ第九環節最モ長ク第三環節之ニ次キ其ノ他ノ環節ハ略同形同大ナリ各環節ニ黑色ノ細毛ヲ生ス脚ハ三對略相似テ短大ナリ附節ハ甚タ短ク紡錘狀ヲ成シ末端ニ稍大ナル爪ヲ有ス此幼蟲ハ更ニ一回ノ蛻皮ヲ經テ成蟲トナル

**蛹及繭** 長橢圓形ノ裸蛹ニシテ淡紅色ヲ呈ス頭部ハ略球狀ニシテ觸角ハ其ノ側面ヨリ出テ翅袋ノ基部ニ達ス眼ハ圓ク觸角ノ後方ニアリテ紫黑色ヲ帶フ三對ノ脚ハ相似テ前脚ハ前方ニ中後脚ハ後方ニ向ヒ翅袋ハ短ク腹部ノ環節ハ明瞭ニシテ腹端ノ中央稍凹入シ短毛ヲ有ス體長二五耗内外アリ

蛹ハ葉裏又ハ又問若クハ落葉枯枝等ニ附著シ全體白色綿絮狀ノ蠟質物ヨリ成レル薄キ繭中ニアリ繭ハ略長橢圓形ナルモ多數集合スルトキハ塊狀ヲ成ス長約四耗アリ

經過

該蟲ハ東京附近ニ於テハ年二回ノ發生ヲ營ムモノニシテ今農商務省農事試驗場ニ於テ飼育セシ結果ニ依レハ左ノ如シ

- 明治四十二年十一月十九日 卵及ヒ幼蟲ニテ臺灣ヨリ到着シ飼育ヲ始ム
- 同 四十三年七月十日 卵囊形成並ニ産卵ヲ始ム
- 同 七月十五日 孵化
- 同 七月二十六日 第一回蛻皮
- 同 八月十一日 第二回蛻皮
- 同 八月二十六日 第三回蛻皮

同	九月六日	卵囊形成竝ニ産卵ヲ始ム
同	十月二十日	孵化
同	十一月十八日	第一回蛻皮
同	十二月十日	第二回蛻皮
同	四十四年三月中旬	第三回蛻皮
同	四月中下旬	卵囊形成竝ニ産卵ヲ始ム
同	五月二十二日	孵化
同	六月二十一日	第一回蛻皮
同	七月六日	第二回蛻皮
同	七月二十日	第三回蛻皮
同	八月十二日	卵囊形成竝ニ産卵ヲ始ム
同	九月十八日	孵化
同	四十五年四月二十日	卵囊形成竝ニ産卵ヲ始ム
同	五月十三日	卵囊完成
同	六月一日	孵化
同	六月二十五日	第一回蛻皮
同	七月十日	第二回蛻皮
同	七月二十二日	第三回蛻皮

大正元年八月八日	卵囊形成竝ニ産卵ヲ始ム
同 八月九日	卵囊完成
同 八月十日	孵化
同 八月二十九日	第一回蛻皮
同 九月二十四日	第二回蛻皮
同 十月中下旬	第三回蛻皮

以上ノ如クニシテ冬期ハ主ニ幼蟲態ニテ越冬スルモ中ニハ成蟲(雌即チ第三回ノ蛻皮ヲ經テ越冬スルモノアリ此雌蟲ハ翌年四五ノ交ニ至リ第一回ノ産卵ヲ爲シ之ヨリ孵化シタル幼蟲ハ八月上中旬ニ至リテ成蟲トナリ第二回ノ産卵ヲ爲ス其ノ卵ヨリ孵化シタルモノハ幼蟲又ハ成蟲態ニテ越冬スルコト前述ノ如シ

被害植物

該蟲ノ寄生スル植物ハ其ノ種類極メテ多シト雖モ今主ナル園藝植物ヲ例記スレハ左ノ如シ

柑橋相思樹南天萩梨之にしだ等  
分布

本邦濠洲北米合衆國布哇亞非利加伊太利等

因曰 該蟲ハ濠洲ノ原産ニシテ本邦ニハ近年外國ヨリ輸入セルモノナリ之ニ關シテハ臺灣農事試驗場靜岡及ヒ岡山兩縣ノ報告及ヒ明治四十四五年ノ園藝并ニ農業ニ關ス



ル雜誌上ニ詳記スル所アリ又天敵トシテハ有名ナル *Novius (Vedaria) cardinalis* 即チベダ  
りあ瓢蟲アリ

(六十三) をかだわたふきかひがらむし

岡田綿吹介殺蟲

*Icerya seychellarum* West.

(*Icerya okadae*)

(第二五圖版九一〇第二八圖版五乃至九)

形態

雌蟲 體軀ハ擴椭圆形ニシテ背面稍隆起シ腹面ハ扁平ナリ背面ノ中央ヲ縱走シテ數多ニ  
分裂セル綿絮狀蠟質ノ突起アリ其ノ左右ニハ各二列ノ數多ニ分裂セル綿絮板アリ體縁ニハ  
亦均シク綿絮狀蠟質ヨリ成レル突起アリテ總狀ヲ爲シ孰レモ純白色ニシテ只尖端ノミハ黃  
味ヲ帶ヒタリ尙背面ニハ數多ノ長キ銀毛狀ノ纖維アリ卵囊ハ體ノ後部下面ニアリ白色綿絮  
狀ノ蠟質分泌物ヨリ成リ體長四五乃至六〇耗幅三〇乃至四五耗アリ

觸角ハ十一環節ヨリ成リ第十一環節最モ長ク第二三ノ兩環節之ニ次キ第八九及ヒ十ノ三  
環節又之ニ次キ第一四及五環節最モ短ク第一環節ハ其ノ長ヨリ幅濶シ各環節ニ數多ノ長毛  
ヲ生ス口部ハ大ニシテ絲狀口器ハ長シ脚ハ大ニシテ三對相似テ後脚稍太ク全體黑色ノ長毛

ヲ簇生ス腿節ハ幅濶ク脛節ヨリ短シ脛節ハ細長ニシテ跗節ノ長ノ二倍以上アリ爪ハ大ニシ  
テ少シク彎曲シ其ノ基部ニ二刺ヲ有ス背皮ニハ短長不齊ノ黑毛ヲ簇生シ其ノ間ニ數多ノ圓  
形分泌窩ヲ有ス

雄蟲 臺灣總督府殖産局報告ニヨレハ全體赤紫色暗紅ニシテ細毛ヲ疎生ス眼ハ球狀ニシ  
テ突出ス觸角ハ黑色ニシテ連鎖狀ヲ爲シ十八節ヨリ成リ各環節ノ中央ニ縊レアリ亞鈴狀ヲ  
爲セルモノノ二環節ノ如ク見ユルモノニアラサルカ各節ニ黑毛ヲ輪生ス翅ハ暗色ニシテ全  
面ニ縮緬様ノ皺斑ヲ有ス後翅ハ退化シテ翅基ノミ痕跡ヲ存ス脚ハ黑褐ニシテ大ナル爪ヲ有  
シ細毛ヲ多生ス腹部ハ細長ニシテ九環節ヨリ成ル尾端ハ分岐シテ著シク突出シ各其ノ端ニ  
長キ黑毛ヲ叢生ス體長約三耗翅開張七耗アリ

卵 椭圆形ニシテ帶黃暗紅色ヲ呈シ少シク白粉ヲ裝フ長約一耗幅〇五耗アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ小判形ニシテ淡黃褐色ヲ呈ス脚及ヒ觸角ハ甚タ大ナリ背皮ニハ  
無數ノ短長不齊ノ毛ト圓形分泌窩トヲ有ス尾端ニ六箇ノ甚タ長キ毛ヲ生ス口部ハ大ニシテ  
絲狀口器ハ甚タ長シ眼ハ觸角ノ下位ニ突出シ甚タ顯著ナリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節  
ハ膨大シ棍棒狀ヲナス各環節ニ數多ノ長毛ヲ生シ第六環節ノ四毛最モ長シ脚ハ三對相似テ  
脛節ハ跗節ノ二倍ニ過キス爪ハ細長ナリ

新渡戸氏カ所見ニ依レハ一回蛻皮シタル雌蟲ノ幼蟲ハ小判形ニシテ扁平背中線ト體側縁  
及ヒ側縁ニ沿ヒテ週レル三線上ニ蠟質ヨリ成ル小突起物ヲ連ヌ是等突起物ハ濃黃色ニシテ  
殆ント體ヲ被ヒ尙他ニ細長ノ毛ヲ散生ス第二回蛻皮後ノモノハ第二齡ノモノト殆ント同形

同色ニシテ僅カニ體ノ大キサヲ加へ蠟質突起物ノ間隙ヲ増スノミナリト云フ又雄蟲ノ幼蟲ハ一回ノ蛻皮ヲ經レハ體長約四五耗アリ橙黃色ヲ呈シ橢圓形ニシテ背面少シク高ク白色蠟質物ニテ被ハル觸角ハ短ク九環節ヨリ成リ刺狀ニシテ少シク黒味ヲ帶フ脚ハ短ク觸角ト同色ナリ

蛹 新渡戸氏云フわたふさかひがらむしト殆ント同様ナレトモ少シク大ニシテ白色ノ繭中ニ存在ス

經過

内地ニテハ目下静岡縣立農事試驗場ニ於テ調査中ナルカ新渡戸氏ニ依レハ臺灣ニ於テハ年四五回ノ發生ヲナスカ如シ幼蟲ハわたふさかひがらむしノ如ク著シク群生スルモノニアラスシテ點々樹幹枝葉等ニ附著スルヲ常トス

被害植物

柑橘楓槭杞等

分布

本邦支那

因曰 數年前著者ハ *I. okadae* ノ名稱ノ下ニ新種トシテ公ニセシモ其ノ後研究ノ結果既知種 *I. seychellurum* ト同一ナルコトヲ明ニシタリ

ものふれぶす屬

Genus *Monophlebus*

特徴

雌蟲 成熟期ニ於テモ尙自由ニ行動スルコトヲ得體軀ハ扁平橢圓形ニシテ甚タ肥滿セリ少シク綿絮狀蠟質分泌物ヲ以テ被ハル觸角ハ九環節ヨリ成ル三對ノ脚ハ略相似タリ肛門輪ニ毛ヲ有セス

雄蟲 一對ノ複眼ヲ有ス

(六十四) わらぢかひがらむし

大草鞋介殼蟲

*Monophlebus corpulantus* Kuw.

(*Drosicla corpulantus*)

(第二七圖版一乃至五第二八圖版一〇乃至一三)

形態

雌蟲 體軀ハ扁平橢圓形ニシテ背面稍隆起シ肥大ナリ背面ハ灰赤褐色ニシテ黒褐色ノ斑紋ヲ有シ體縁及ヒ腹面ハ赤褐色ナリ觸角及ヒ脚ハ黒色ヲ呈ス全體少シク蠟質ノ白粉ヲ裝フ

體長約一〇耗幅六耗アリ

觸角ハ九環節ヨリ成リ往、八環節ナルコトアリ基部ヨリ尖端ニ向ヒテ漸次細ク第九環節最モ長ク第五環節之ニ次キ其ノ他ノ環節ハ略、同長ナリ口部能ク發達シ圓錐形ノ下唇ハ二環節ヨリ成リ絲狀口器ハ稍、短シ脚ハ三對相似テ短大ナリ前脚ハ中、後脚ニ比シ稍、細シ腿節ハ短クシテ太ク幅濶シ脛節ノ長ハ跗節ノ二倍ヨリ少シク長ク全體硬毛ヲ簇生シ爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ基部ニ二箇ノ刺ヲ有ス背皮ニハ短長不齊ノ硬毛ヲ簇生シ且ツ幾多ノ圓形分泌窩ヲ有ス肛門輪ハ大ニシテ背面ニアリ

雄蟲 體軀ハ細長ク頭胸部ハ暗褐色ニシテ腹部ハ濃紫色ヲ呈シ複眼ト觸角トハ共ニ暗紫色ナルモ一見黒色ヲ呈ス前胸ハ幅狹ク殆ント頭部ニ齊シク中、後ノ兩胸部ハ孰レモ幅濶ク前翅ハ濃灰色又ハ煤色ニシテ内縁ヨリ一箇ノ太キ翅脈ヲ出シ分岐シテ二枝トナリ外縁ノ上下ニ向ヒテ走レリ翅面ニハ斜走セル數列ノ皺褶ヲ存シ後翅ハ平均棍ヲ爲シ末端ニ數箇ノ鈎ヲ有ス觸角ハ十、環節ヨリ成リ第一、二ノ兩環節最モ短ク第八、九ノ兩環節最モ長ク其ノ他ノ環節ハ略、同一ナリ各環節第一環節ヲ除クニ各、二箇ノ縱レアリ且ツ數多ノ細長毛ヲ有ス脚ハ細長ニシテ三對殆ント同大ナリ脛節ノ長ハ跗節ノ二倍以上アリ跗節ノ末端ニアル爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ其ノ内縁ニ二箇ノ刺ヲ有ス腹部ハ稍、扁平ニシテ尾端ニ四箇ノ肉質突起アリ其ノ中央ニアル交接器ハ大ニシテ棍棒狀ヲ爲ス體長五耗アリ

卵 卵圓形ニシテ黃赤乃至黃褐色ヲ呈シ長一、五耗アリ綿絮狀蠟質物内ニ包マレ地下一寸乃至二寸五分ノ所ニアリ一雌ノ産卵數ハ普通八十乃至百二十箇ナリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ體軀細長ニシテ兩端少シク細マリ全體黒褐色ヲ呈シ背面ニ二條ノ淡色線アリ微毛ヲ簇生ス觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク第一、四ノ兩環節最モ短シ各環節ニ細毛ヲ生ス脚及ヒ口部ハ能ク發達セリ

蛹及繭 蛹ハ長橢圓形ニシテ黃赤色ヲ呈シ眼ハ赤色ナリ長約五、〇耗幅二、五耗アリ繭ハ寄主植物ノ枝幹ノ裂目又ハ枯葉ノ間等ニアリ白色ニシテ長形ナリ

經過

年一回ノ發生ニシテ五月上旬頃雄蟲羽化シ六月中下旬ヨリ雌蟲ハ産卵ヲ始ム其卵ハ十二月初旬孵化シ幼蟲態ニテ越冬ス

被害植物

櫟椎檜檜松樺柑橘等

分布

本邦

因曰 本邦原産ノ種ニシテ天敵トシテハベにへりてんたうむしノ盛ニ之ヲ捕食スルノ外一種ノ寄生蠅アリ

おーせじ亞科

Subfamily Ortheziinae

本亞科ニ屬スル介殼蟲ノ雌蟲ハ普通石灰質ノ分泌物ヨリ成レル薄板ヲ以テ蔽ハレ又腹端ニ石灰質ヨリ成ル卵囊ヲ有ス終生行動自由ナリ  
雄蟲ハ一對ノ複眼ヲ有ス

おーせじあ屬

Genus Orthezia

特徴

雌蟲 體軀ハ全體若クハ一部白色ノ分泌物ヨリ成レル薄板ヲ以テ被ハレ龜甲状ヲ呈ス觸角ハ八又ハ九環節ヨリ成ル(普通八環節脚ハ能ク發達シ冠球毛ヲ缺ク肛門輪ニハ六箇ノ刺毛ヲ有ス尾端ノ卵囊ハ白色ニシテ背腹ノ二板ヨリ成ル  
雄蟲 頭胸及ヒ腹部ノ環節判明シ複眼及ヒ單眼ヲ有ス觸角ハ長ク絲狀ヲ呈シ九又ハ十環節ヨリ成ル脚ハ細長ニシテ冠球毛ヲ缺ク腹部末端ヨリ二箇乃至數箇ノ白色毛狀ノ纖維ヲ生ス

幼蟲 觸角ハ六環節ヨリ成ル

(六十五) せきかうかひがらむし

石膏介殼蟲

*Orthezia japonica*, N. sp.

(第二七圖版六七第二八圖版一四乃至一六)

形態

雌蟲 體軀ノ背面ハ全ク白色石灰質蠟質ヨリ成レル數多ノ薄板ヲ以テ包被セラレタリ其ノ中央ニアル二列ノ薄板ハ各九箇ニシテ對ヲ爲シ略方形又ハ長方形ナリ第一二板ハ甚々大ナルモ其ノ他ハ小ニシテ尾端ニ至ルニ從ヒテ漸次小形トナリ第九板ハ最モ小ク尖端相合シテ輪狀ニ肛門ヲ圍繞セリ第三乃至七板ノ外側ニハ別ニ五又ハ六箇ノ小薄板ヲ備フ體側ニアルモノハ各十板ヨリ成リ第一ヲ除キテハ尖端均シク後方ニ傾斜シ第二及ヒ三板ハ略同大ナルモ第四板ヨリ第九板ニ至ル迄ハ漸次長大トナリ孰レモ少シク後方ニ傾斜シ内面ニ彎曲セリ第十板ノ一對ハ短クシテ彎曲セス頭部ノ背面ニハ一對ノ薄板アリ前方ニ突出シ略三角形ヲ成ス卵囊ハ甚々長大ニシテ少シク上方ニ反起シ背腹ノ二板ヨリ成リ背板ニハ幾多ノ平行セル縦線ヲ有ス末端切斷狀ヲ成ス體長約四耗卵囊長五〇乃至七五耗アリ  
體軀觸角及ヒ脚ハ光澤アル黑色ニシテ能ク鏡檢スルトキハ少シク赤褐色ヲ帶フ觸角ハ八環節ヨリ成リ第一環節ノ幅最モ濶ク末環節ノ尖端ニハ一箇ノ短キ針狀突起ヲ有ス各環節ニ少數ノ短毛ヲ生ス觸角式左ノ如シ

脚ハ大ニシテ多數ノ刺毛ヲ生ス跗節ハ脛節ノ約二分ノ一アリ爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ内縁ノ鋸齒ハ不明瞭ナルモ之ヲ有ス爪ノ基部ニアル一對ノ刺毛ハ顯著ナリ下唇ハ大ナルモ絲狀口器ハ短シ背皮ニハ無數ノ刺毛ヲ簇生シ肛門輪ハ大ニシテ六箇ノ刺毛ヲ有ス

雄蟲 未詳

卵 淡赤色橢圓形ニシテ直徑約〇.三耗アリ卵囊内ニアリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ略扁平橢圓形ニシテ脚及ヒ觸角ハ細長ナリ觸角ハ六環節ヨリ成リ第六環節最モ長ク其ノ他ハ略同長ニシテ短シ

經過

未タ調査ノ機ヲ得ス明治四十四年ノ夏本多彦九郎氏福岡縣下ニ於テ採集セシコトアルノミナリ

被害植物

石菖

分布

本邦

因曰 本種ハ歐洲産ノ *Orthezia nitens* L.ニ似タルモ大ニシテ且ツ卵囊甚タ長シ

### 日本介殼蟲圖說 後編終り

## 附 錄

日本介殼蟲檢索表 (「ゴシツク」頁数ハ)

(後編ヲ示ス)

此檢索表ハ本書ニ出テタル本邦産ノ介殼蟲科ノ亞科、屬及ヒ種名ヲ檢出スルノ便ニ供センカ爲メニ編述セシモノナリトス

介殼蟲科 (Family Coccidae)

- A. 雌ハ複眼ヲ有ス
B. 雌ハ肛門輪ニ刺毛ヲ有シ體軀ハ白色蠟質ノ鱗片ヲ以テ覆ハル
BB. 雌ハ肛門輪ニ刺毛ヲ有セス
C. 雌ハ成蟲期ニ於テ口部ヲ有ス、未熟期及ヒ成蟲期共ニ脚ヲ有ス
CC. 雌ハ成蟲期ニ於テ口部ヲ有セス、未熟期ノモノハ脚ヲ有セス
AA. 雌ハ複眼ヲ有セス
B. 雌ノ腹端ハ臀板ヲ成ス、肛門輪ニ刺毛ヲ有セス、成蟲期ニハ脚ヲ缺ク、介殼ノ一部ハ蛻皮殼ヨリ成ル
BB. 雌ノ腹端ハ臀板ヲ成サス
C. 腹端ハ分裂シ一對ノ三角板ヲ有ス、蠟質ノ分泌物ハ體軀ニ密着ス
CC. 腹端ハ分裂スルコトアルモ三角板ヲ有セス
A. 雌ノ介殼ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ發點ハ中央又ハ稍

アサビ亜科 (Subfamily Diaspiinae)

雌ノ介殼ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ發點ハ中央又ハ稍

一方ニ偏シテ存ス

- B. 雌ノ介殼ハ其ノ形狀及ヒ着色通常雌ニ似テ小サク稍長味ヲ帶フ
BB. 雌ノ介殼ハ白色ニシテ柔軟ナリ、通常背面ニ縱走セル隆起線ヲ有ス
BBB. 雌ノ介殼ハ白色ナラス、背面ニ縱走セル隆起線ヲ有セス
AA. 雌ノ介殼ハ長形ニシテ發點ハ一端ニ存ス
B. 雌ノ介殼ハ雌ニ似テ小ナリ
C. 雌ノ介殼ハ殆ント第二蛻皮殼ヨリ成リ白色分泌物ヲ以テ覆ハル
CC. 雌ノ介殼ハ畧々平滑ニシテ尾端ニ向ヒテ幅狭シ
D. 圓形紡績孔ハ五群ナリ
DDD. DD. 圓形紡績孔ハ五群ヲ越ス、ほりあすびす屬 (Mytiluspis) 一三九圓形紡績孔ハ三群ヲ越ハス、臀板ニ龜甲板ヲ有ス
BB. 雌ノ介殼ハ白色細長ニシテ兩側平行セリ
C. 背面ニ縱走セル隆起線ヲ有ス
CC. 背面ニ縱走セル隆起線ヲ有セス
A. 雌ノ臀板ハ圓形紡績孔ヲ有ス

あすびてをたす屬 (Genus Aspilotus)

雌ノ臀板ハ圓形紡績孔ヲ有ス

- B. 紡績孔ハ五群ナリ……………すぎのまるかひがらむし(Cryphoneminae) 八六
- B'. 紡績孔ハ四群ナリ……………
- C. 腎板ノ遊離縁ニハ四對ノ扁長板ヲ有シ其ノ中央ニアル一對ハ大ナルモ他ノ三對ハ細長ナリ……………
- D. 雌ノ介殼ハ畧ハ扁平、小判形ナリ……………こはんがたまるかひがらむし(Trichofomis) 六七
- DD. 雌ノ介殼ハ隆起シ、圓形ナリ……………みかんのまるかひがらむし(Duplex) 六八
- CC. 腎板ノ遊離縁ニハ三對ノ畧ハ同大ナル扁長板ヲ有ス……………
- D. 六對ノ棍棒狀硬皮部ヲ有ス……………
- E. 棘ハ扁長板ヨリ短シ……………じやのめまるかひがらむし(Kaloggi) 九五
- EE. 棘ハ扁長板ヨリ長シ……………とびいろまるかひがらむし(Aenus) 九三
- DD. 棍棒狀硬皮部ヲ有セス……………
- E. 雌ハ黄色乃至淡褐色ヲ呈ス……………
- EE. 雌ハ淡紫色ヲ呈ス……………かしのまるかひがらむし(Jordani) 八八
- CCC. 腎板ノ遊離縁ニハ一對ノ能ク發達セル扁長板ト通常一對又ハ二對ノ小扁長板トヲ有ス……………
- D. 三對ノ扁長板ヲ有シ其ノ第二、三ノ二對ハ第一對ヨリ遙ニ小ナリ……………
- E. 雌ノ介殼ハ甚タ隆起ス……………まるめろのかひがらむし(Cydonia) 八三

- EE. 雌ノ介殼ハ扁平ナリ……………
- FF. 介殼ハ圓形ナリ。ろすまるかひがらむし(Ludanae) 八五
- F. 介殼ハ楕圓形ナリ……………
- BBB. 紡績孔ハ三群ナリ……………
- C. 紡績孔ハ二對又ハ三群ナリ……………
- CC. 紡績孔ハ二群ナリ……………たけのとびいろまるかひがらむし(Tanabusurina) 九八
- D. 扁長板ハ一箇ナリ……………
- DD. 扁長板ハ四對ナリ……………たけのまるかひがらむし(Secretus) 六五
- AAA. 雌ノ腎板ニハ圓形紡績孔ヲ有セス……………
- B. 腎板ノ遊離縁ニハ扁長板ヲ有セス……………
- BB. 腎板ノ遊離縁ニハ扁長板ヲ有ス……………たけのまるかひがらむし(Institutus) 六三
- C. 扁長板ハ三對ナリ……………
- DD. 雌ハ橙黄色ヲ呈ス……………あかまるかひがらむし(Gaurantii) 八九
- D. 雌ハ黄色ヲ呈ス……………きまるかひがらむし(Celranus) 九二
- CC. 扁長板ハ二對ナリ……………なしのまるかひがらむし(Perniciosus) 七二
- CCC. 扁長板ハ一對ナリ……………
- D. 雌ノ介殼ハ甚タ隆起シ灰色ヲ呈ス……………
- DD. 雌ノ介殼ハ僅ニ隆起シ白色ヲ呈ス……………つばきのまるかひがらむし(Papas) 八〇
- DD. 雌ノ介殼ハ僅ニ隆起シ白色ヲ呈ス……………これのまるかひがらむし(Mini) 七八

- A. 雌ノ腎板ニハ五群ノ圓形紡績孔ヲ有ス……………
- B. 前側ト後側トノ二群ノ紡績孔ハ殆ント相連接ス。第一對扁長板ノ外側ハ殆ント腎板縁ヲ以テ覆ハル……………
- BB. 前側ト後側トノ二群ノ紡績孔ハ相離ル、第一對扁長板ノ外側ハ腎板縁ヲ以テ覆ハレス……………
- C. 雌ノ介殼ハ僅ニ隆起ス……………
- CC. 雌ノ介殼ハ甚タ隆起ス……………くはのかひがらむし(Pentagona) 一〇〇
- AA. 雌ノ腎板ニハ五群ノ圓形紡績孔ヲ有ス、竹ニ寄生ス……………
- A. 雌ノ腎板ニハ圓形紡績孔ヲ有セス、華果梨柑橘等ニ寄生ス……………なしのまるかひがらむし(Japonica) 一〇九
- AA. 雌ノ腎板ニハ五群ノ圓形紡績孔ヲ有ス、竹ニ寄生ス……………たけのまるかひがらむし(Tanabusae) 一一一
- かいをなすびす屬 (Genus Chionaspis)
- A. 雌ノ介殼ハ褐色乃至暗褐色ヲ呈ス……………
- B. 雌ノ腎板ノ遊離縁ノ第一對扁長板ハ其ノ内側相接觸ス……………はらのながかひがらむし(Aspidistinae) 一一三
- BB. 雌ノ腎板ノ遊離縁ノ第一對扁長板ハ其ノ内側相接觸セス……………
- C. 第一對扁長板ノ内側ニ一對ノ棍棒狀硬皮部ヲ有ス……………
- CC. 第一對扁長板ノ内側ニ棍棒狀硬皮部ヲ有セス……………

- D. 雌ノ介殼ハ矢根狀ヲ呈ス……………やのねながかひがらむし(Citr) 一一七
- DD. 雌ノ介殼ハ矢根狀ヲ呈セス……………まさきのながかひがらむし(Euonymi) 一一五
- AAA. 雌ノ介殼ハ白色又ハ淡黄色ヲ呈ス……………はこねながかひがらむし(Columanni) 一二五
- BB. 淡黄色ヲ呈ス……………
- B. 白色ヲ呈ス……………
- C. 雌ノ介殼ハ甚タ細長ニシテ兩側稍々平行ス……………ひごさんながかひがらむし(Akosani) 一二〇
- CC. 雌ノ介殼ハ後端ニ向ヒテ漸次幅潤シ……………
- D. 腎板ニハ一對ノ扁長板ヲ有ス……………あちのながかひがらむし(Wistarina) 一二三
- DD. 腎板ニハ二對ノ扁長板ヲ有ス……………たけのながかひがらむし(Tami usae) 一二九
- DDD. 腎板ニハ三對ノ扁長板ヲ有ス……………ははひろながかひがらむし(Platan) 一二三
- ばらとりあ屬 (Genus Parlatoria)
- A. 雌ノ介殼ハ黒色ヲ呈ス……………
- B. 腎板ノ第四對扁長板ハ他ノ三對ト畧ハ同大ナリ……………
- AA. 雌ノ介殼ハ畧ハ灰白色ヲ呈ス……………
- B. 介殼ハ長形ナリ、腎板ニ第四對扁長板ヲ缺ク……………
- BB. 介殼ハ畧ハ圓形ナリ、腎板ニ小ナル第四對扁長板ヲ有ス……………
- BB. 介殼ハ畧ハ圓形ナリ、腎板ニ小ナル第四對扁長板ヲ有ス……………

ふむをりにあ属 (Genus Fiorinia)

- A. 雌ノ介殻ニハ中央ヲ縱走セル隆起線アリテ木葉狀ヲ呈ス、前側及後側ノ圓形紡績孔ハ通常相連接ス.....このはかひがらむし (fiorinia) 一三五

あすびす属 (Genus Mytilaspis)

- A. 雌ノ介殻ハ尾端ニ向ヒテ漸次幅闊ク牡蠣殼狀ナリ
B. 介殻ハ暗褐色乃至黒褐色ヲ呈ス
C. 雌ノ臀板ニアル前方及ヒ前側ノ圓形紡績孔ハ相離ル.....りんごのかきかひがらむし (pomorum) 一三九
前方及ヒ前側ノ圓形紡績孔ハ殆ント相連接ス.....さかきのかきかひがらむし (eurycne) 一四二
介殻ハ淡褐色乃至赤褐色ヲ呈ス
BB. 四群ノ圓形紡績孔ヲ有ス.....はむぐりかきかひがらむし (crawli) 一四九
五群ノ圓形紡績孔ヲ有ス.....みかんのかきかひがらむし (beckii) 一四七
AA. 雌ノ介殻ハ細長ニシテ尾端ニ向ヒテ僅ニ幅闊シ
褐色ヲ呈ス.....なかがきかひがらむし (gloriosi) 一四四
淡褐色ヲ呈ス.....ひめなかがきかひがらむし (pullida) 一四六

ほりあすびす属 (Genus Polispis)

- A. 雌ノ介殻ハ尾端ニ向ヒテ漸次幅闊ク牡蠣殼狀ヲ呈ス、臀板ニハ八群ノ圓形紡績孔ヲ有ス、松ニ寄生ス.....

れかにらむ属 (Genus Lecanium)

- A. 雌ノ背面ハ甚タ腫起ス、背皮ハ稍ニ強硬ナリ
B. 昇ノ球狀ヲ呈ス
C. 觸角ハ八環節ヨリ成ル、大形ニシテ直徑十四粒内外アリ.....おほかたかひがらむし (laudi) 一九
觸角ハ七環節ヨリ成ル、小形ニシテ直徑五粒内外アリ.....たまかたかひがらむし (kunoensis) 九
昇ノ半球形ヲ呈ス
BB. 背面ニ工字形隆起線アリ.....
C. .....おりぶのかたかひがらむし (oluae) 六
背面ニ工字形隆起線ヲ有セス
CC. 橢圓形ナリ、栗ニ寄生ス.....
DD. 圓形ナリ.....たかちほかたかひがらむし (takachihoti) 二二
E. 黄色ヲ呈ス、桑ニ寄生ス.....
EE. 赤褐色乃至暗褐色、温室植物ニ寄生ス.....やまたかたかひがらむし (yamatensis) 三
雌ノ背面ハ扁平ニシテ僅ニ腫起ス、背皮ハ強硬ナラス、乾燥スルトキハ皺ヲ生スルアリ
B. 觸角ハ八環節ヨリ成ル
CC. 體側ノ縁毛ハ末端分裂セス.....ながたかかひがらむし (frontale) 一六
體側ノ縁毛ハ末端分裂ス
D. 背面ハ暗緑黄色ニシテ小黑點ヲ散生ス、柑橘ニ寄生ス.....

まじのかきかひがらむし (Genus Jankia)

すきなすびす属 (Genus Ischnaspis)

- A. 雌ノ介殻ハ黒色ニシテ細長ナリ、臀板ニハ龜甲板ヲ有ス、椋桐類ニ寄生ス.....くろいとかひがらむし (jankia) 一五五

れかにらむ属 (Subfamily Lecaninae)

- A. 雌ノ體軀ハ裸出セリ
B. 卵囊ヲ有セス
C. 雌ハ脚ヲ有セス、尾端ハ臀板狀ヲ呈ス.....あくれるた属 (Aclerda) 七三
雌ハ脚ヲ有ス
D. 雌ノ介殻ハ半透明硝子狀ニシテ背面ニ龜甲板ノ隆起線ヲ有ス.....れかにらむ属 (Lecanium) 一
雌ノ介殻ハ相集合シテ蠟質物内ニ埋モレタリ.....ありせる属 (Entes) 六一
卵囊ヲ有ス
BB. 卵囊ハ體軀ノ後部ニアリ其ノ下面ハ寄生ニ附着セリ
C. 體軀ハ裸出セリ.....ふるぶなるり属 (Palvinaria) 二九
卵囊ハ綿絮質分泌物ヲ以テ覆ハレタリ.....りくてんし属 (Lachensia) 五八
卵囊ハ長ク紐狀ヲナスカ又ハ短クシテ龜體ヲ頂テ.....たかはし属 (Takahashia) 五三
雌ノ體軀ハ分泌物ヲ以テ覆ハレタリ.....せろぶらす属 (Ceroplatos) 六五

- AAA. A. かんきつのかたかひがらむし (Pseca lon n. pol arum) 三三
背面ハ暗褐色ニシテ體縁ニ沿ヒ黒斑點ヲ有ス木蓮其ノ他ノ植物ニ寄生ス.....
BB. .....もくれんのかたかひがらむし (magnohirum) 二四
觸角ハ七環節ヨリ成ル
C. 三角板ハ細長ニシテ底邊ハ外邊ノ二倍以上アリ.....ふかやかたかひがらむし (fukayui) 一八
三角板ハ細長ナラス底邊ハ外邊ニ比シ稍短シ.....ひらたかたかひがらむし (hosperitum) 二三
雌ノ背面ハ扁平、背皮ハ強硬ニシテ龜甲形ニ區別セラ.....きつかたかかひがらむし (te-selatum) 二七

ふるぶなるり属 (Genus Palvinaria)

- AAA. A. 卵囊ハ甚ダ長シ.....ながわたかかひがらむし (nuzone) 五一
卵囊ハ長シ
B. 榊冬青ニ寄生ス、雌ハ暗褐色ヲ呈ス.....
BB. 柑橘ノ新梢ニ寄生ス、雌ハ橙褐色ヲ呈ス.....つばきわたかかひがらむし (canalicola) 四五
卵囊ハ長カラス.....おきつわたかかひがらむし (okitsusensis) 四九
雌ハ扁平圓形ナリ、背皮ハ灰白色ニシテ小黑點ヲ散生ス、赤楊楓槲梨等ニ寄生ス.....もみぢのわたかかひがらむし (boris) 四〇
雌ハ昇ノ橢圓形ナリ
C. 卵囊ハ短ク甚ダ隆起セリ.....やなきのわたかかひがらむし (yanake) 四七



- CC. 卵囊ハ僅ニ隆起ス
    - D. 體側ノ縁毛ノ末端ハ尖レリ
    - E. 卵囊ノ縦隆起線ハ顯著ナリ……………三七
    - ………うしろしのわたかひがらむし (phoetinae)
    - EE. 卵囊ノ縦隆起線ハ顯著ナラス……………四三
    - F. 桑ニ寄生ス………くはのわたかひがらむし (Kawicola)
    - ………椅ニ寄生ス……………三三
    - FF. 寄生ス……………いぎりのわたかひがらむし (Idesine)
    - ………モノト混セリ……………三三
    - DD. 體側ノ縁毛ノ末端ハ分裂セルモノト分裂セルモノト混セリ……………三五
    - DDO. 體側ノ縁毛ノ末端ハ分裂セル……………三五
    - E. 縁毛ハ短大ナリ………まかきのわたかひがらむし (psidin)
    - ………縁毛ハ細長ナリ……………三〇
    - EE. 縁毛ハ細長ナリ……………三〇
    - ………みかんのわたかひがらむし (auranti)
- たかはしあ属 (Genus Takahashi)
- A. 卵囊ハ甚タ長ク紐状ヲ成ス……………五五
  - ………ひもわたかひがらむし (japonica)
  - AA. 卵囊ハ短クシテ蟲體ヲ頂ケリ……………五三
  - ………みかんのわたかひがらむし (citridia)
- りくてんしあ属 (Genus Lichtensia)
- A. 雌ノ體側縁毛ハ刺状にして顯著ナリ、觸角ハ八環節ヨリ成ル……………五八
  - ………つばきのわたかひがらむし (japonica)

- ………をりせるす属 (Genus Ericerus)
  - A. 一種ニシテ雌ハ球状ヲ呈ス………つばたかひがらむし (pe-la)
  - ………せろごつくす属 (Genus Ceroplastes)
  - A. 蠟質物ハ白色又ハ少シク黄色ヲ帯フ……………七〇
  - B. 背面ノ中央ニ大ナル突起アリ……………のらふむし (ceriferus)
  - ………背面ノ中央ニ突起ヲ有セス……………かめのかちかひがらむし (fordiensis)
  - ………かめのかちかひがらむし……………六七
  - ………かめのかちかひがらむし……………六五
  - ………あくれるだ属 (Genus Aclerda)
  - A. 竹ニ寄生ス、肛門輪ニ長毛ヲ有ス……………七四
  - ………たけのかたかひがらむし (tokionis)
  - AA. 蘆ニ寄生ス、肛門輪ニ長毛ヲ有セス……………七六
  - ………ひはこかたかひがらむし (hiwakonensis)
- ごつくす亞科 (Subfamily Coccinae)
- A. 雌ノ體側ハ分泌物ヨリ成レル介殼ヲ以テ包圍セララル……………八一
  - B. 介殼ハ角質又ハ蠟質ニシテ稍ク硬化セリ……………八一
  - C. 介殼ハ透明、硝子様ニシテ總狀ノ縁毛ヲ有ス……………八一
  - ………あすてろれかにうむ属 (Asterolecanium)
  - CC. 介殼ハ不透明ニシテ總狀ノ縁毛ヲ有セス……………八一
  - D. 雌ハ成熟期ニ於テ能ク發達セル觸角ヲ有ス……………八一

- ………れかにをてあすびす属 (Iecanidiaspis)
- DD. 雌ハ成熟期ニ於テ觸角ヲ有セス (若シ觸角ヲ有スルトキハ圓錐形ノ一環節ヨリ成ル)……………七八
- ………れかにをてあすびす属 (Iecanidiaspis)
- BB. 介殼ハ多ク綿絮質、纖維質或ハ粉末状ナリ……………八六
- C. 孵化當時ノ幼蟲ハ背面ニ縱走セル刺毛ヲ有ス……………八六
- D. 纖維質ノ介殼(囊)ヲ以テ包圍セララル……………八六
- ………をりせるす属 (Genus Ericerus)
- DD. 綿絮質ヲ以テ體側ヲ圍繞セララルモ背面ハ多少露出ス……………九九
- ………つばりあ属 (Gossyparia)
- CC. 孵化當時ノ幼蟲ハ背面ニ縱走セル刺毛ヲ有セス……………九六
- D. 雌ノ肛門輪ニ刺毛ヲ有セス (若シ之ヲ有スルモ甚タ小ナリ)、雌ノ觸角ハ圓錐形ノ一環節ヨリ成リ……………九六
- ………すふろごつくす属 (Spherococcus)
- DD. 雌ハ肛門輪ニ顯著ナル刺毛ヲ有ス……………二二五
- E. 成熟期ニ於テ能ク發達セル觸角ト脚トヲ有ス……………二二五
- F. 觸角ハ九環節ヨリ成ル……………二二七
- ………ふなごつくす属 (Phenacoccus)
- FF. 觸角ハ七又ハ八環節ヨリ成ル……………二〇八
- ………だくちろびうす属 (Dactylopius)
- FFF. 觸角ハ普通六環節ヨリ成ル……………二二九
- ………らほしあ属 (Ripensia)
- EE. 成熟期ニ於テハ脚ヲ缺如シ觸角ハ退化シテ一環節ヨリ成ル……………二二七
- ………あんとな属 (Antonina)
- AA. 雌ノ體側ハ分泌物ヨリ成レル介殼ヲ以テ包圍セララズ……………八九
- ………かーめす属 (Kermes)

- ………れかにをてあすびす属 (Genus Iecanidiaspis)
- A. 介殼ノ中央ヲ縱走セル隆起線アリ、又數條ノ横線ヲ有ス……………七九
- ………かしのたまかひがらむし (quercus)
- ………あすてろれかにうむ属 (Genus Asterolecanium)
- A. 介殼ハ楕圓形ナリ……………八一
- B. 觸角ニ二毛ヲ有ス、竹ニ寄生ス……………八一
- ………たけのふさかひがらむし (tambusae)
- BB. 觸角ニ一毛ヲ有ス、椎ニ寄生ス……………八六
- ………あひのふさかひがらむし (queanica)
- AA. 介殼ハ圓形ナリ……………八四
- ………ならのふさかひがらむし (variosum var. japonica)
- ………せろごつくす属 (Genus Cerococcus)
- A. 介殼ハ藤壺状ナリ、觸角ハ一環節ヨリ成ル……………八六
- ………ふちつぼかひがらむし (aurata)
- ………かーめす属 (Genus Kermes)
- A. 雌ハ腎臟形ナリ……………九一
- ………ならのたまかひがらむし (nankai wuae)
- AA. 雌ハ球状ナリ……………九一
- B. 背面ノ中央ニ楕圓形ノ蛻皮殼ヲ附着ス……………九三
- ………ひめたまかひがらむし (misyusaki)

- BB. 背面ノ中央ニ橢圓形ノ蛻皮殻ヲ附着セズ
- C. 觸角ハ五環節ヨリ成ル
  - ..... なわたまかひがらむし (Nawata) 八九
  - ..... 觸角ハ七環節ヨリ成ル
    - ..... おほたまかひがらむし (Oho-tama) 九四
- ..... ぐすばりあ屬 (Genus Gossyparia)
  - ..... 一種ニシテ稀ニ寄生ス
    - ..... ぐすばりあ屬 (Genus Gossyparia) 九六
- ..... 多りをこくす屬 (Genus Ericococcus)
  - ..... 雌ノ體軀ヲ包圍セル介殼(囊)ハ白色ナリ
    - ..... 介殼ノ背面ニ數箇ノ隆起線アリ、竹ニ寄生ス
      - ..... 介殼ノ背面ニ隆起線ヲ有セズ 九九
    - ..... 觸角ハ七環節ヨリ成リ第三環節最長ナリ、百日紅
      - ..... 其ノ他ニ寄生ス
        - ..... 觸角ハ七環節ヨリ成リ第四環節最長ナリ、「トボシカラ」ニ寄生ス
          - ..... とほしがらのふくろかひがらむし (Toshigara) 一〇一

- ..... だくちろびらす屬 (Genus Dactylopius)
  - ..... 雌ハ尾端ニ長キ蠟質ノ白毛ヲ有セズ
    - ..... 附節ハ經節ノ二分ノ一ヲ過キス
      - ..... 松ニ寄生ス
        - ..... 温室植物及柑橘等ニ寄生ス
          - ..... みかんのこなかひがらむし (Mikan) 一一三
        - ..... 附節ハ經節ノ三分ノ一ヲ過キス
          - ..... 桑ニ寄生ス
            - ..... 藤ニ寄生ス
              - ..... 雌ハ尾端ニ長キ蠟質ノ白毛ヲ有ス
                - ..... ながをこなかひがらむし (Nagase) 一〇八
  - ..... ふるなこくす屬 (Genus Phloeococcus)
    - ..... 卵囊ハ長シ
      - ..... 雌ノ觸角ハ第三環節最長ナリ
        - ..... おほわたかひがらむし (Oho-wata) 一一七
      - ..... 雌ノ觸角ハ第二環節最長ナリ
        - ..... ひめわたかひがらむし (Hime-wata) 一一〇
        - ..... 卵囊ハ長カラズ、雌ノ體軀ニ光澤アル白色蠟毛ヲ有ス
          - ..... たけのわたかひがらむし (Take) 一一三
    - ..... すふろこくす屬 (Genus Sphaerocecus)
      - ..... 觸角ハ圓錐形ノ一環節ヨリ成リ脚ヲ缺ク
        - ..... さくらあかかひがらむし (Sakura) 一一五

- ..... あんとにな屬 (Genus Antonina)
  - ..... 觸角ハ四環節ヨリ成リ脚ヲ缺ク
    - ..... たけのあろまかひがらむし (Take) 一一七
- ..... らんじあ屬 (Genus Kiperstia)
  - ..... 腹辨ハ角質ニ硬化シ末端ニ鈎狀附器ヲ有ス
    - ..... いねのこなかひがらむし (Ine) 一三〇
  - ..... 腹辨ハ角質ニ硬化セズ、末端ニ鈎狀附器ヲ有セズ
    - ..... かやのこなかひがらむし (Kaya) 一二九
- ..... マーガロて亞科 (Subfamily Margarininae)
  - ..... 雌ハ尾端ニ突起ヲ有ス
    - ..... 尾端ニ長キ蠟質ノ白毛ヲ有ス
      - ..... さいろくす屬 (Xylococcus) 一三九
    - ..... 雌ハ尾端ニ突起ヲ有セズ
      - ..... 脚ハ腿節太ク蟹ノソレニ似タリ
        - ..... まじろくす屬 (Matsucoccus) 一三六
      - ..... 脚ノ腿節ハ普通ナリ
        - ..... くわにあ屬 (Kuwanina) 一三三
  - ..... くわにあ屬 (Genus Kuwanina)
    - ..... 雌ノ體軀ハ白色綿絮様分泌物ヲ以テ包マル、觸角ハ九
      - ..... 環節ヨリ成ル、脚ハ完全ナルモ口部ヲ缺ク
        - ..... かしあかかひがらむし (Kashi) 一三四

- ..... マツくす屬 (Genus Matsucoccus)
  - ..... 一種ニシテ松ニ寄生ス
    - ..... まじむらかひがらむし (Majimura) 一三六
- ..... ものふれび亞科 (Subfamily Monophlebinae)
  - ..... 一種ニシテ樺ニ寄生ス、雌ノ體軀ハ五倍子狀ニシテ寄
    - ..... 主植物ノ木質部ニ埋モレタリ
      - ..... かぶらかひがらむし (Kabura) 一三九
- ..... ものふれび屬 (Genus Monophlebus)
  - ..... 雌ハ體軀ノ後端ニ卵囊ヲ有ス
    - ..... せりあ屬 (Seria) 一四一
  - ..... 雌ハ體軀ノ後端ニ卵囊ヲ有セズ
    - ..... ものふれび屬 (Monophlebus) 一四一
- ..... せりあ屬 (Genus Icerya)
  - ..... 卵囊ハ長ク幾多ノ縱走セル隆起線ヲ有ス
    - ..... わたふきかひがらむし (Watafuki) 一四二
  - ..... 卵囊ハ長カラズ縱走セル隆起線ヲ有セズ
    - ..... せかだわたふきかひがらむし (Sekadawata) 一四八
- ..... ものふれび屬 (Genus Monophlebus)
  - ..... 雌ハ橢圓形肥大ニシテ産卵期ニハ白色綿絮様ノ蠟質物ヲ
    - ..... 九

以テ體軀ヲ覆フ、觸角ハ九環節ヨリ成ル、本邦産最大ノ介殼蟲ナリ……おほわらちかひがらむし (corplanatus) 一五一

おーせじ亞科 (Subfamily Orthezinae)

A. 雌ノ觸角ハ八又ハ九環節ヨリ成ル、背面ノ一部又ハ全部ハ白色ノ分泌物ヨリナル鱗片ヲ以テ覆ハル……おーせじあ屬 (Orthezia) 一五四

おーせじあ屬 (Genus Orthezia)

A. 雌ノ體軀ハ全部白色ノ分泌物ヨリ成ル鱗片ヲ以テ覆ハル、卵囊ハ體ヨリ長シ……せきかうかひがらむし (japonica) 一五五

學名和名及別名對照

學名	和名	別名	頁數
<i>Lecanium hemisp-haericum</i>	やまたかかたかひがらむし	みかんたまかひがらむし やまたかかたかひがらむし	三
<i>L. oleae</i>	おりいぶのかたかひがらむし	蜜柑の黒介殼蟲 レカニウム、オレエー かんらんのかたかひがらむし	六
<i>L. kamoensis</i>	たまかたかひがらむし	たまかたかひがらむし くろうめもどき介殼蟲 くろむめもどき介殼蟲 玉形介殼蟲	九
<i>L. nishigaharae</i>	にしがはらかたかひがらむし	しはかたかひがらむし にしがはらかたかひがらむし	二
<i>L. lespoidam</i>	ひらたかたかひがらむし	ひらたがた介殼蟲 レカニウム、ヘスベリダム びはまるかひがらむし ひはまるかひがらむし ひらたかたかひがらむし 扁平介殼蟲	一三

<i>L. frontale</i>	ながたかひがらむし……………	一六
<i>L. fukuyai</i>	ふかやたかひがらむし……………	一八
<i>L. glandi</i>	おほかたかひがらむし……………	一九
<i>L. takelithoi</i>	たかちほかたかひがらむし……………	二一
<i>L. pseudomagnoliarum</i>	かんきつかたかひがらむし……………	二二
<i>L. magnoliarum</i>	もくれんのかたかひがらむし……………	二四
<i>L. tassellatum</i>	きつかふかたかひがらむし……………	二七
<i>Pulvinaria aurantii</i>	みかんのわたかひがらむし……………	三〇

かめのこかたかいがらむし……………	二七
みかんのわたかひがらむし……………	二八
みかんわたかひがらむし……………	二九
きつかうこなむし……………	三〇
みかんのこなかひがらむし……………	三一
みかんのこなむし……………	三二
わたかいがらむし……………	三三
かめのこかいがらむし……………	三四
みかんのかめのこかひがらむし……………	三五
さかきのわたかひがらむし……………	三八
かきのこなかひがらむし……………	三九

<i>P. psidii</i>	さかきのわたかひがらむし……………	三三
<i>P. citricola</i>	みかんのひめわたかひがらむし……………	三五
<i>P. pholiniae</i>	うしろしのわたかひがらむし……………	三七
<i>P. idesiae</i>	いぎりのわたかひがらむし……………	三八
<i>P. horii</i>	もみぢのわたかひがらむし……………	四〇
<i>P. kuwaeola</i>	くはのわたかひがらむし……………	四三
<i>P. camelicola</i>	つばきのわたかひがらむし……………	四五
<i>P. yamanu</i>	やなぎのわたかひがらむし……………	四七
<i>P. okitsuensis</i>	やまつわたかひがらむし……………	四九
<i>P. hazene</i>	ながわたかひがらむし……………	五一

蜜柑の粉蝨……………	三三
かきのこなむし……………	三九
ぼたんかひがらむし……………	四〇
もみぢのわたかひがらむし……………	四〇
もみぢかひがらむし……………	四〇
くろぶちかひがらむし……………	四〇
かへでの介殻蝨……………	四三
くはのかたかいがらむし……………	四三
わたかひがらむし……………	四三
くわかいがらむし……………	四三

Takahashia citricola

みかんのひもわたかひがらむし

四  
..... 五三

T. japonica

ひもわたかひがらむし

ひもわたかいがらむし  
桑の龜の子蟲  
かめのこむし  
ひもわた  
紐絮貝殻蟲  
くはのこかひがらむし

..... 五五

Lichtensia japonica

つばさのわたかひがらもどき

..... 五八

Ericerus pe-la

いぼたかひがらむし

いぼたのろいむし  
いぼたろうむし  
いぼたむし  
水蠟蟲  
蟲白蠟蟲  
白蠟蟲

..... 六一

Ceroplastes rubens

るびーらふむし

るびー介殼蟲  
るびーらうむし  
あづきかいがらむし  
ももいろらうかひがらむし

..... 六五

C. hybrid usis

かめのかよらふむし

かめのころらうむし  
みかんらうかひがらむし  
ちやのろうむし  
柿蠟蟲  
能子蠟蟲

..... 六七

C. ceriferus

つのらふむし

つのらうむし  
桑樹蠟蟲  
桑の蠟蟲  
らうむし  
ちやのつのらうむし  
印度白蠟蟲

..... 七〇

Aclerda tokionis

たけのかたかひがらもどき

たけのかたかいがらもどき  
竹の粉蝨

..... 七四

A. biwakensis

びはこかたかひがらもどき

蘆のかたかいがらもどき

..... 七六

Lecanodiaspis quercus

かしのたまかひがらもどき

榎のたまかいがらもどき  
かしのかひがらむし  
榎玉介殼蟲

..... 七九

Asterolecanium lanthuse

たけのふさかひがらむし

..... 八一

A. pasanine

しひのふさかひがらむし

..... 八三

A. variolosum japonica

ならのふさかひがらむし

櫟のふさかいがらむし

..... 八四

<i>Cerococcus muratae</i>	ふぢつぼかひがらむし	かなめもち介殼蟲	八六
<i>Kermes nawa</i>	なわたまかひがらむし	栗色介殼蟲	八九
<i>K. nakagawae</i>	ならのたまかひがらむし	いんげん介殼蟲	九一
<i>K. miyasakii</i>	ひめたまかひがらむし	くぬぎのたまかひがらむし	九三
<i>K. vastus</i>	おほたまかひがらむし	おほたまかひがらむし	九四
<i>Gossyparia spuria</i>	これのふくろかひがらむし	これのふくろかひがらむし	九六
<i>Eriococcus onkii</i>	たけのふくろかひがらむし	よこすじふくろかひがらむし	九九
<i>E. festucae</i>	とぼしがらのふくろかひがらむし	横條袋介殼蟲	一〇一
<i>E. lagerstroemiae</i>	さるすべりのふくろかひがらむし	さるすべりのふくろかひがらむし	一〇三
<i>E. japonicus</i>	きふくろかひがらむし	きいろふくろかひがらむし	一〇六
<i>Dactylopius longispinus</i>	ながをこなかひがらむし	おながをこなかひがらむし	一〇八

<i>D. citri</i>	みかんのこなかひがらむし	みかんのこなかひがらむし	一一〇
<i>D. omstuki</i>	くはのこなかひがらむし	くはのこなかひがらむし	一一一
<i>D. pinii</i>	まつのこなかひがらむし	まつのこなかひがらむし	一一三
<i>D. kraunhiae</i>	ふぢのこなかひがらむし	ふぢのこなかひがらむし	一一五
<i>Phenacoccus pergandii</i>	おほわたかひがらむし	わたかひがらむし	一一七
<i>P. azaleae</i>	ひめわたかひがらむし	かきのこなむし	一二〇
<i>P. takae</i>	たけのわたかひがらむし	わた介殼蟲もどき	一二二
		綿介殼蟲もどき	一二三

<i>Sphaerococcus parvus</i>	さくらのあかかひがらむし	さくらのあかかひがらむし	.....	一二五
<i>Antonia erawii</i>	たけのしろをかひがらむし	たけのしろをかひがらむし	.....	一二七
<i>Pipersia japonica</i>	かやのこなかひがらもどき	萱のこなかひがらもどき	.....	一二九
<i>R. oryzae</i>	いねのこなかひがらもどき	萱のこなかひがらもどき	.....	一三〇
<i>Kuwanja quercus</i>	かしのあかかひがらもどき	榎のあかかひがらもどき	.....	一三四
<i>Matsucoccus matsumurae</i>	まつむらかひがらむし	椎赤介殼蟲	.....	一三六
<i>Xylococcus unipiformis</i>	かぶらかひがらむし	.....	.....	一三九
<i>Teerya purclasi</i>	わたふきかひがらむし	わたふきかいがらむし	.....	一四二
<i>I. seychellarum</i>	をかだわたふきかひがらむし	おかだわたふきかいがらむし	.....	一四八

<i>Monophlebus corpulantus</i>	おほはだかかひがらむし	おほはだかかひがらむし	.....	一五一
<i>Orthozia japonica</i>	せせりや介殼蟲	おほはだかかひがらむし	.....	一五五

第  
一  
圖



**やまたかかたかひがらむし**(*Lecanium hemisphaericum*)

1. 雌蟲ノくろとんノ葉ニ寄生セル狀(自然大)
2. 雌蟲(側面)

**おりぶのかたかひがらむし**(*L. oleae*)

3. 雌蟲ノおりぶノ枝ニ寄生セル狀(自然大)
4. 雌蟲(側面)

**たまかたかひがらむし**(*L. kunoensis*)

5. 雌蟲ノくろうめもどきノ枝ニ寄生セル狀(自然大)
6. 雌蟲(背面)

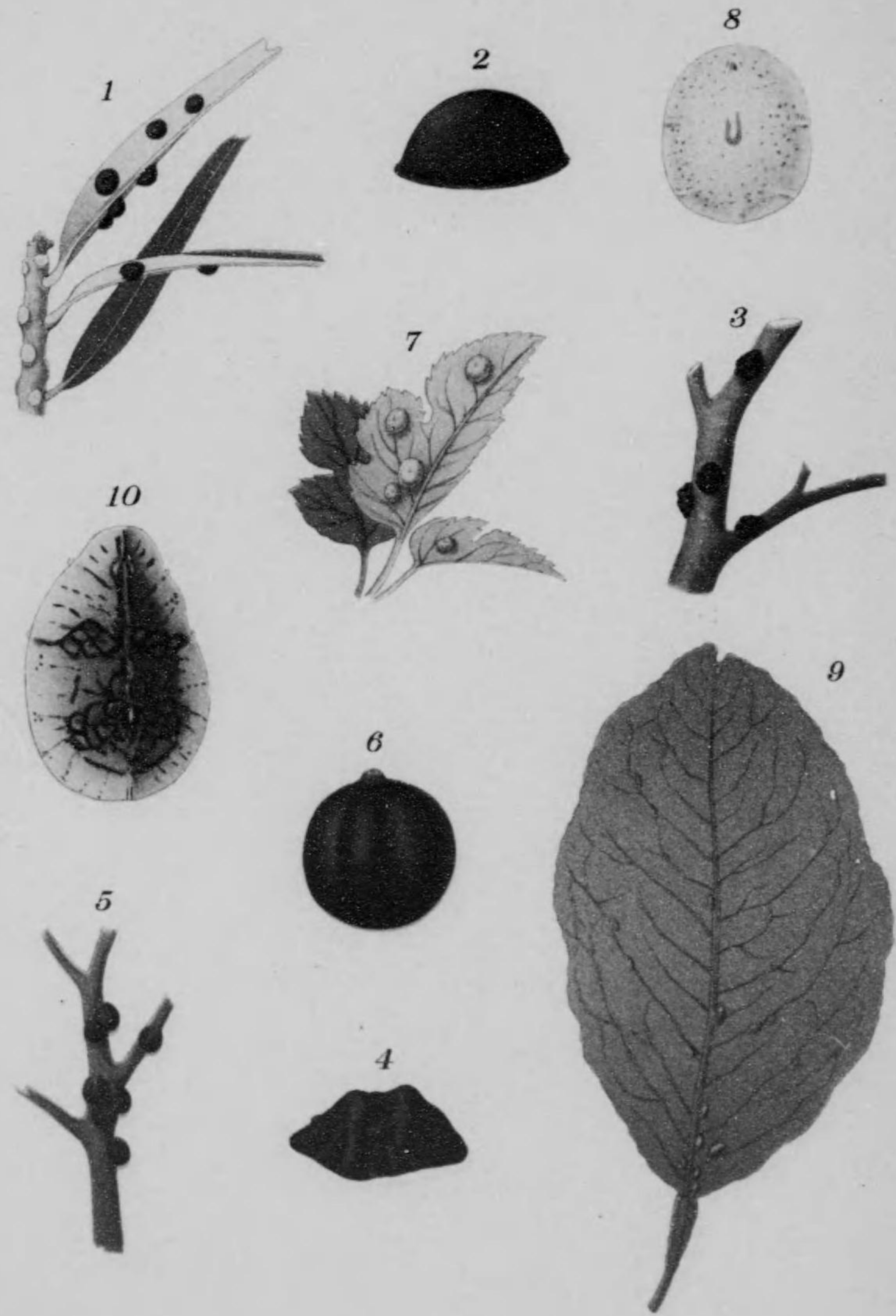
**にしがはらかたかひがらむし**(*L. nishigaharae*)

7. 雌蟲ノ桑葉ノ裏面ニ寄生セル狀(自然大)
8. 雌蟲(背面)

**ひらたかたかひがらむし**(*L. hesperidum*)

9. 雌蟲ノ柑橘ノ葉ニ寄生セル狀(自然大)
10. 雌蟲(背面)

圖 一 第



第  
二  
圖

**やまたかかたかひがらむし** (*Lecanium hemisphaericum*)

1. 觸角 (雌)
2. 脚 (雌)
3. 三角板 (雌)
4. 體側ノ縱レニ生セル刺毛及縁毛 (雌)
5. 縁毛 (雌)
6. 背皮ノ斑紋 (雌)

**おりぶのかたかひがらむし** (*L. oleae*)

7. 7a. 觸角 (雌)
8. 脚 8a. 爪及冠球毛 (雌)
9. 體側ノ縱レニ生セル刺毛及縁毛 (雌)
10. 背皮ノ斑紋 (雌)

**たまかたかひがらむし** (*L. kunoensis*)

11. 觸角 (雌)
12. 脚 (雌)
13. 三角板 (雌)
14. 縁毛 (雌)
15. 背皮ノ斑紋 (雌)
16. 雄蟲